

兼松資料叢書（商店史料） 2

兼松商店史料
第Ⅱ卷

天野雅敏・井川一宏編集
神戸大学経済経営研究所

2006

兼松商店史料
第Ⅱ卷

天野雅敏・井川一宏編集
神戸大学経済経営研究所

本書の利用のために

一、本書は、兼松資料叢書の一環として公刊されることになった『兼松商店史料』の第Ⅱ巻である。『兼松商店史料』は、「店業の由来と経過と、その底を流れる精神とを正しく伝え、且つ事業運営の跡を検討して後代の経営に資するため」（『兼松六十年の歩み』、一六七頁）、同商店の役員をつとめた前田卯之助の発意にもとづいてとりまとめられたものであり、創業以来一九一七（大正六）年までを前田卯之助が、一九一八（大正七）年から一九二三（大正十二）年までを藤井松四郎が、一九二四（大正十三）年から一九三九（昭和十四）年までを前田卯之助と富森謙吉が執筆している。この『兼松商店史料』第Ⅱ巻には、一九〇二（明治三十五）年から兼松房治郎の長逝した一九一三（大正二）年までの『商店史料』を収録した。

二、『兼松商店史料』は、このように編年形式をとっており、年次ごとに委曲を尽した叙述のなかに、兼松商店の歴史的歩みをよく伝えている。また、編纂史料とはいえ、各種の一次資料にもとづいて作成されたものであり、今日では既に失われた多数の資料が含まれており、貴重である。

三、『兼松商店史料』の収録にあたっては、その体裁を尊重しつつも、読解の便宜などを考慮して、次のように扱った。

ア、資料原文の旧字や俗字は常用漢字の表記にしたがうこととし、近世異体字は常用漢字かカタカナに改めた。また貨幣ポンドの「 £ 」はそのまま記載したが、重量ポンドの記号（lb、エル・ビーに横棒）は「ポンド」とカタカナで表記した。資料原文にはカスレなどで判読できない箇所があるが、その場合、邦字は□で、英字は…で表記した。

イ、読解の便宜のため、資料原文に適宜読点を付した。連続数字を分割する擬似的読点は、億万千百十などの単位の表記がみられるので、煩雑さを避けて省略した。「 「 」や（ ） 」は原文にあるので、記事の中略や後略など編集の過程で加工した箇所は「 「 」で示した。

ウ、損益計算書・貸借対照表などの財務諸表は、原資料に題名などが付されていないものには適宜付与し、乱雑な記載は、その表記の整理をおこなった。

四、『商店史料』には、個人情報に属する記事も含まれているが、本書ではそうした記事はひとまず割愛した。

解 説

一 明治後期の兼松商店の経営

『兼松商店史料』は、兼松の六十周年を記念して公刊された『兼松回顧六十年』をふまえ作成された小冊子『兼松六十年の歩み』によると、「店業の由来と経過と、その底を流れる精神とを正しく伝え、且つ事業運営の跡を検討して後代の経営に資するため」、前田卯之助の発意にもとづいてとりまとめられたものとされており、創業以来一九一七（大正六）年の合資会社の末期までを前田卯之助が、一九一八（大正七）年から一九二三（大正十二）年までを藤井松四郎が、一九二四（大正十三）年から一九三九（昭和十）年までを前田卯之助と富森謙吉が執筆している。この年次ごとに委曲を尽した『商店史料』の叙述のなかには、兼松商店の歴史的な歩みがよく伝えられており、貴重なものと思われた。そこで、その研究を進めるとともに、翻刻・公刊することを予定し、天野雅敏研究室を中心にそのための作業に着手していた。そして、兼松株式会社と神戸大学経済経営研究所のご理解を得て、兼松資料叢書の一環として『兼松商店史料』を紹介・公刊することになった。既刊の第Ⅰ巻には、創業前後から一九〇一（明治三十四）年までの『商店史料』を収めたが、この第Ⅱ巻には、一九〇二（明治三十五）年から兼松房治郎の長逝した一九

一三（大正二）年までの『商店史料』を収録した。なお、『商店史料』には、人事等の個人情報に関する記事が散見されるが、公刊にあたっては、それらの記事の翻刻はひとまず控えることとした。

日清戦後の兼松商店の主要事業目標は、第一巻の解説でも触れたように、蚕糸貿易、対中国貿易の開拓、貿易会社にふさわしい店舗の新築にあったが、蚕糸貿易や豆粕取引を中心とする中国貿易は投機性がよく、問題をはらんでいた。日清戦後の同商店の売上高は伸びるものの、利益額は一進一退となっており、利益率はやや低下し上下に変動していたし、一九〇〇年代にはいると、日露戦争期にはいるまで、売上高の伸びも鈍化し、利益額はマイナスとなり、利益率の低下が顕著となっていたのである。十九世紀末葉から二十世紀初頭の兼松商店の経営には、こうして看過しがたい問題が顕在化していたのであり、事業の健全化と合理化をはかることが急務となっていたのである。このような課題に立ち向かったのが、同商店の学卒社員であった前田卯之助である。

前田卯之助の略歴を紹介すると、一八七八（明治十一）年二月十七日に旧丹波篠山藩士前田猶衛の次男として生まれており、鳳鳴義塾で学び、一八九六（明治二十九）年高等商業学校（のちの東京高等商業学校）に入学し、同校を一九〇〇（明治三十三）年に卒業して、兼松商店に入っていた。かれの回想によれば、「卒業前年、一八九九（明治三十二）年の夏休みに当時の学生の習わしに従い、肥料（魚粕）・羊毛取引を研究題目として、調査研究旅行を企て、兼松商店にも立寄り原支配人からいろいろ事情を伺」っており、「その後日本新聞が社説で海外発展を論じ、店祖兼松翁を讃美されたものを読み兼松就職を決意」

『K G—1000 兼松株式会社創業100周年記念誌』、八十頁) したとしている。かれの入店から三年ほど経った一九〇三(明治三十六)年の『商店史料』によると、当該期の難局を打開するために善処策を徴された際に、かれは、「私カニ以為ク、商店ノ病根ハ無主義無方針ニ在ルナキカ、方針ナキニ非ルベシ、終始一貫ノ大方針無キノ謂也」と指摘し、「三十二年当時ノ商店ト四年後ナル今日ノ現状トヲ比較対照シテ窃カニ大方針アル推移ナルヤ否ヲ疑フヲ説キ、濠洲商品ノ大宗タル羊毛ノ受託買次ト牛莊貿易ノ骨子タル豆粕ノ見越売買トヲ兼営スルガ如キ不権衡極マル事実モ無主義ヨリ来レル一現象ニ非ルカ」と述べており、「營業ハ凡テ commission basis ニ於テ之ヲ行フ」ことを具申ししていた。投機性を廃し、事業の健全化と合理化をはかることが、当時の兼松商店の大きな課題であったのであり、同商店の経営はそうした方向へ舵が切られていたのである。

こうして、日露戦争以降、中国を対象とする交易が姿を消し、濠洲との交易が拡大した。濠洲からの主要輸入品は羊毛であり、それに肥料などがつづいていた。また濠洲への主要輸出品はタオルであり、豆油・羽二重などの輸出も増加していた。明治四十年代前半の同商店の羊毛の取引数量は激増しており、主要取引先は、陸軍被服廠、千住製絨所、日本毛織株式会社などであった。一九一二(明治四十五・大正元)年の『商店史料』によると、陸軍被服廠と千住製絨所とで明治四十年代前半の同商店の羊毛の取引数量の五割から六割以上をしめるにいたっていたのである。

日露戦争期から日露戦後の兼松商店の羊毛取引の進展にともない、濠洲羊毛市場における同商店の地位

が向上した。一九〇七（明治四十）年の『商店史料』の一節には、シドニー競売場の兼松商店の席次（座席選択権の順位）に関する言及があるので、それをみておくと、「一九〇五—六年度ニ於テハ、大竹所長ノ濠洲ニ因スル製絨所ノ大注文ノ加ハルアリテ、我が買付高躍進四千俵ニ垂ントセルニ、引続キ、翌一九〇六—七年度ニハ、前年項下既述ノ被服廠空前ノ大注文ニヨリ商店ノ買付高一万俵台ヲ突破シテ、諸國ヲ代表セル同業者ヲ驚カシ、市場坐席ハ忽チ廿位以内ニ進ミタレバ、シドニー及ブリスベン羊毛市場ニ於ケル日本即兼松ノ地位ハ茲ニ明カニ一時代ヲ画シ、此時以後全市場ハ日本ノ需要即兼松ノ進退ヲ勢消長ノ一勢力トシテ注視怠ラザルニ至リタリ」とあつた。

明治末期の羊毛取引のこのような拡大は、シドニー市場等の様相を大きく変容させ、日本の商社のシドニー市場等への進出を促すことになつたと思われる。一九〇七（明治四十）年の『商店史料』の一節によると、「商店ノ創業当時ニハ、極メテ微々言フニ足ラザリシ日濠間ノ貿易量モ、日清戦役後漸次増進ノ実ヲ示シ、更ラニ最近ノ日露戦後我邦羊毛需要量ノ急増ヲ主因トシ、急激ノ發展ヲ来シテ我貿易界ノ視線ヲ惹キタル結果、近時邦人ノシドニーニ開店シテ同業ヲ営マントスルモノ少ナカラズ、大沢商会、高島屋、三井物産、大倉組、増田屋等即チ之レナリ」とある。そこで、三井物産と大倉組に関する具体的な記述をつぎに紹介しておこう。

「三井物産会社が出張員浅野長七氏ヲ濠洲ニ派シタルハ明治三十三年頃ノコトニ属シ、其後社員関善八氏（後年転々シテ商店ニ入ル）ヲ之ニ附シ、浅野個人ノ名義ヲ以テ事務所ヲシドニーニ設置スルコ

ト三年余ニ及ビシガ、当時羊毛ニ関シテハ多く注意ヲ向ケズ、輸入品トシテハ鉛・小麦、輸出品トシテハ木材・肥料等ニ重キヲ置キシモノ、如クナリシガ、時機尚早ノ結論ニ到達シタルモノカ、此出張員ハ三十六年頃一旦引揚ゲタルガ、偶々日露ノ開戦トナリ、曩ノ淺野出張員ハ豫備役主計トシテ応召中、三十八年初濠洲ヨリ軍馬購入ノ事アルニ際シテ同社ノ為メ意外ノ効果ヲ發揮スルアリ、更ニ戦後羊毛ノ需要急増スル等ノ状況ニ鑑ミタルモノ、如ク、四十年六月社員馬場玲三氏ヲ渡濠セシメ、今回ハ社名ヲ以テ出張所ヲシドニーニ開設シ、漸次人員ヲ加へ、久シカラズシテ出張所ヲ支店ニ昇格シテ、広く輸出入業ヲ営ムト共ニ、新ニ羊毛部ヲ置キ、工業学校出身ニシテ毛織工場ニ多少ノ実験ヲ有スル井島重保氏ヲ採用配属シテ、大ニ同品ノ買次ニ力ヲ用ユルヲ見ル」

「大倉組ニ至リテハ、過去何十年ニ亘リ千住製絨所原料ノ供給ヲ独占シテ多大ノ利益ヲ得来リシ關係上、他日ニ備フル為メ、明治三十年以来社員玉木誠次郎氏ヲメルボルンニ派シ、其買次代理店タル独商 Hoest ニ常駐シテ、羊毛買付ノ研究ニ従事セシメ居リシガ、三十八年ノ製絨所長ノ渡濠ニ引続キ、三十九年暮ニハ被服廠長ノ渡濠アリ、形勢一変シテ、自営ノ買次機関無クシテハ到底従前ノ地位ヲ保チ難キヲ悟リタルモノ、如ク、一応玉木ノ研究員ヲ召還シ改メテ此年初秋渡濠、シドニーニ支店ヲ開設セシメ、専ラ羊毛買次ニ従事セシムル傍ラ、自家系統ノ皮革会社ニ対スル生皮ノ買付輸入等ヲ開始シタリ」

こうして、日露戦後の一九〇七（明治四十）年には三井物産や大倉組がシドニーに出張所や支店を開設

し、羊毛の現地買付に乗り出していたのであり、日本の商社の濠洲市場への進出が本格化していたのである。

二 兼松房治郎の長逝と兼松商店の継承

五十歳代後半にはいった兼松房治郎は、やがて病に冒されるようになった。一九〇〇（明治三十三）年春には腎臓を病んでおり、病床に百日余り臥していたし、一九〇二（明治三十五）年に渡濠した際には坐骨神経痛を病み、早々に帰国している。また、六十二歳となった一九〇六（明治三十九）年には、肝臓、腎臓等の障害に倒れ、病床での生活が一九〇九（明治四十二）年春までつづいていたし、一九一二（明治四十五）年には肺炎を患い、一時憂慮されることもあったという。そして、翌年の一九一三（大正二）年一月二十五日に風邪から発熱し、床に臥すこととなった。二月にはいり、病状は悪化し、気管支炎に加えて肝臓、腎臓の機能障害が進み、二月六日心臓麻痺のため長逝した。享年六十九歳であった。

兼松房治郎は、生前に、店業と一家を区分し、店業の業務の継承に蹉跌を来さないように配慮していた。一九〇六（明治三十九）年十一月には、「店員等ト福利ヲ共ニシ店業ノ永続進展ヲ期スルノ主旨ヲ以テ協定書ヲ作成発表シテ」おり、一九一二（大正元）年八月十九日には、そうしたことをふまえ、兼松商店の組織を変更し、兼松房治郎と同夫人及び店員十八名の出資から成る資本金三十万円の匿名組合としていた

のである。そして、兼松房治郎の逝去にともない、この匿名組合を合資会社に改めることとなり、曲折はあったものの、かれの百カ日の一九一三（大正二）年五月十六日を期して合資会社兼松商店の発足をみることになったのである。合資会社兼松商店の資本金は、匿名組合の資本金を継承して、三十万円であった。無限責任社員は、兼松房治郎の養子の兼松馨と北村寅之助、古立直吉、前田卯之助、入江金三郎、四方素、藤井松四郎の六店員からなっており、有限責任社員は、兼松未亡人とその縁故者一名及び勤務満三年以上の店員十二名であって、総出資社員は二十一名であった。この合資会社兼松商店が、一九一八（大正七）年三月十八日に株式会社兼松商店に改組されることとなるのである。

（神戸大学大学院経済学研究科 教授 天野雅敏）

〈参考文献〉

- 『兼松回顧六十年』（兼松株式会社、一九五〇年）
『兼松六十年の歩み』（兼松株式会社、一九五五年）
『KG—一〇〇 兼松株式会社創業百周年記念誌』（兼松株式会社、一九九〇年）
天野雅敏「明治期の貿易商社・兼松商店に関する一考察—羊毛取引を中心にして—」（『国民経済雑誌』第一八三巻第五号、二〇〇一年）

天野雅敏「貿易商社兼松商店の経営と前田卯之助—明治期を中心にして—」（『国民経済雑誌』第一八九

巻第一号、二〇〇四年)

天野雅敏「明治後期の兼松商店の経営動向と日本商社の豪州進出」(『大阪大学経済学』第五四卷第八号、二〇〇四年)

天野雅敏「貿易商社兼松商店の発展と前田卯之助」(『神戸商工だより』復刊六一八号、二〇〇五年)

天野雅敏「明治期における日本商社の豪州進出」(『経済志林』第七三卷第四号、二〇〇六年)

天野雅敏「明治二十年代初めの兼松房治郎の濠洲視察に関する一考察」(『国民経済雑誌』第一九五卷第二号、二〇〇七年)

天野雅敏「兼松房治郎の見た一八八七―八八年の濠洲」(『奈良県立大学・研究季報』第十七卷第三・四合併号、二〇〇七年)

細目次

明治三十五（一九〇二）年

大改革一段落後ノ内外陣容	三
日英同盟成ル	四
New South Wales 貿易事務官ノ来駐	五
店租ノ第七次渡濠	七
「lowe」製造輸出ノ研究	九
北清産豆油ノ对濠中継輸出	一〇
乳種牛輸入ノ再挙	一一
古立（四月）・前田（十月）ノ上海出張	一二
原支配人ノ北清出張、松崎牛莊主任ノ帰朝	一三
満洲粟輸入ノ好収ト柞蚕糸見込買ノ大崇リ	一四
近時其極ニ達セシル商店金融難ノ一斑 金融ノ為メニセル精米ノ輸出ト Oleine ノ輸入	一五
泣面ニ蜂ノ濠洲大旱魃、濠洲貿易不振ハ年度輸出入額僅ニ四四五万円	一七
支那貿易ノ成蹟亦依然不良	一九
内外共ニ遂ニ純損、収支概表	二二

明治三十六（一九〇三）年

連年ノ失蹟ニ鑑ミ年頭先ツ決シタル營業方針	二五
副支配人古立ノ濠洲出張	二六

出張手当金額ノ改定 元

諏訪山舎宅ノ売却処分 三

大阪大博覧会ニ参考出品 三

上海方面取引ノ全減終焉 三

前田局外ヨリ豆粕取引全廢論ヲ唱フル事愈切ナリ 三

上半期仮決算純損ヲ示ス 三

北村シンドニー支配人ノ初帰朝 三

山川正金神戸支店長ノ榮転 三

信用状発行難其極ニ達ス 三

商店改造ノ気分漸ク動ク 三

店祖善処ノ策ヲ店内ニ徴ス、白面店員前田ノ献言 三

原支配人ノ牛莊出張 三

当年ノ海外電信量 三

屠業雜貨ノ凋落、濠洲木材見本荷ノ試輸 三

年度対濠取引（輸出ハ豆油ニ勢ヲ得稍増進セシモ、輸入ハ遂ニ廿五万円ニ減ジ）四十二万円ノ慘 三

北清貿易ハ商量愈多ク（年度輸出入合計百廿五万円ニ上ルモ）徒ラニ損失ヲ加フ 三

鈴鹿東京支店長囑托ノ努力ニヨル内地売買好収益モ水ノ泡、年度収支絶後ノ大欠損一万四千元 三

年度収支概表 三

原支配人陳情及意見書ヲ提出ス、続イテ他ノ勧告ニヨリテ進退伺書ヲ差出ス 三

年末賞与金絶對廢止ノ年 三

正金銀行ニ対スル年末ノ營業報告、附前途ノ方針 三

明治三十七（一九〇四）年

四方及前田ニ副支配人心得ヲ命ズ、前田請ケズ 三

商事裁定録ヲ備ヘ付ク、巻頭ノ規定 三

裁定録ニ附記セル店租ノ戒辞―不磨ノ金言	六
帝国ノ対露宣戦	六
東京支店一時三重セメント代理店ヲ引受ク	六
⑤板紙全濠一手販売ヲ特約ス	七
DA会社ト輸出運賃割戻ノ特約ヲ結ブ、附運賃率	七
対濠輸出本店手数料ノ改定	七
商店支那貿易ノ終焉	七
原支配人ノ休職、次テ辞任	七
北村及古立各帰任ス	七
輸出部ノ振興ヲ策シテ遂ゲス	七
店員ノ従軍相踵ケ	七
戦役ノ結果商店ノ業務大繁忙ヲ来タス	七
店租以下総員極度ノ緊張―店運挽回戦	八
店租市内ニ帰住ス	八
店員給料ノ通達発表止ム	八
シドニー為替銀行ヲ N. Z. Bank 内リ Union Bank ニ移ス	八
種馬・種牛ノ取扱	八
Towel 及ビ硝子瓶ノ台頭ト豆油ノ全減	九
Olaine ノ好収ト千住製絨所購入形式ノ変更	九
滞貨整理其他ノ為メ利払ノ激減	九
濠洲貿易専門ニ復セル年度商量再ビ百万円ニ近シ	九
本業ニ復セル年度ノ収支亦漸ク面目ヲ改ム	九
シドニー支店亦好蹟、店租再ビ店員ノ私借尻ヲ免除ス	九
純益処分ト積立金ノ再興、賞与金ノ復活支給	九
シドニー支店総員ノ年末改給増額	九

明治三十八（一九〇五）年

古立ヲ支配人心得ニ、四方・前田ヲ副支配人ニ任ス、鈴鹿氏ノ東京支店長囑托ヲ解キ、入江ヲ支店長心得ニ任ス、古立以下数名ノ昇給	103
独逸船ノ日濠航路割込ト運賃昂騰	104
濠洲ヨリ軍馬ノ大購入事件	105
馬糧及皮革類ノ輸入、凍肉ハ不成功、石炭・精銅ハ調査ニ終ル	108
膠原料滞荷ノ倫敦再輸出分	110
波羅的艦隊ノ東航ト戰事保険率ノ昂騰	111
正金銀行取扱振りノ緩和ト大額信用狀ノ続發	113
原前支配人ニ行賞	115
東京支店相住居ノ境涯ヲ脱シ、独立店舗ニ復ス	117
店祖漸ク居ヲ諏訪山邸ニ復ス	118
店祖ノ第八次渡濠―店祖最後ノ行（二重ノ喜劇）	119
千住製絨所所用羊毛注文引受ノ素願初メテ達ス	121
年度商量一躍倍加二百万円（輸出ハ不振八万円ニ減退、輸入ハ小麦初メ諸品大商盛）	124
空前ノ年度巨益（内外通算九万余円）ニ商店正ニ再生ス	126
年度純益并ニ姑息ナル準備金及積立金ノ全処分、滞貸約五万円ノ一掃銷却切捨テ、地所勘定ニ重誤計算二万二千余円ノ訂正銷却、牛莊出張所勘定尻及什器勘定取合数千円ノ銷却、商店ノ資産漸ク茲ニ再ビ固シ	129
銷却整理処分後ノ殘益三万円ヲ繰込ミ資本ヲ八万円トス	133
以上処理後ノ商店資債概表	135
逆算シテ知ル前年初頭ニ於ケル商店赤裸ノ資力、回顧スルダニ肌ニ粟スル大負債超過	135

明治三十九（一九〇六）年

店祖此年頭欽定憲法ニモ比スベキ協定書ヲ發表ス	一三
協定書ノ全文	一四
郵船会社ノ濠洲航路復活	一四
前田瀨次臺灣ニ出張ス	一四
肥料ノ販路ヲ臺灣ニ拓ク	一五
基隆築港工事ニ濠洲木材ノ大契約	一五
陸軍被服廠長ノ渡濠ト羊毛ノ大注文	一五
濠洲凍肉ノ第二次試売依然不成功ニ終ル	一五
汽船オーストレリアン号ノ座礁 後沈没	一五
共有土地ノ処分漸ク完結ス	一六
不動産担保借入金ノ返弁決済	一六
日濠館建築計画ト前田ノ反対論難	一六
店祖再ビ大患ニ罹リ二年半ノ久シキニ亘リ静養ス	一六
店則中資格給料表ノ改正	一六
此当時ノ本支店経費ト商量トノ対照	一六
年度商高式百万円ノ内容	一七
年度収支概表、年度純益前年ノ記録ヲ破リ初メテ十百万円ヲ超ユ	一七
純益処分ト資本金増加、協定書ノ仮定資本金十二万円ノ充実、失脚以来ノ大賞与(総額一百万円)	一七
漸ク七年前ノ実資力ニ復ス	一七

明治四十(一九〇七)年

シドニー羊毛市場ニ於ケル日本即我商店地位ノ躍進	一七
買次ノ羊毛ニ対シ初メテ歩留リ品評書ヲ添付ス	一七
シドニー支店羊毛洗上ゲ試験ノ設備ヲ為ス	一八
同業者ノ瀨出―大沢商会・高島屋・三井・大倉・増田屋	一八

年度商高一躍四百三十万円 一八五
 シドニー支店破天荒ノ年度業績、附帳簿鑑査ノ始メ 一八七
 羊毛本位ノ年度決算成績引続キ佳 一九〇
 年度収支及利益処分ノ概要 一九二
 利益処分後ノ商店実資力初メテ廿万円ヲ超ユ 一九三

明治四十一年（一九〇八）年

東亜セメント会社代理店ノ引受 一九七
 店祖ノ叙勲 一九九
 北村ノ第二次帰朝 二〇〇
 競馬熱ノ勃興―商店亦聊カ此熱ニ浮カサル 二〇一
 羊毛注文ノ不振ト被服廠ノ補充注文 二〇三
 千住製絨所注文羊毛 Scoured Fli Greasy 一移ル 二〇四
 早クモ起ル羊毛買次手数料ノ引下ケ戦 二〇五
 濠肥ノ Stock 停滞ト臺肥 二〇七
 造船用濠洲木材ノ商盛―年度収益ノ首位ニ上ル 二〇八
 牛脂代金停滞ニ関スル稲葉丹浜堂組合経営ノ失敗 二一〇
 官製煙草清国輸出組合出資ノ損失 二二二
 戊申ノ詔書下ル 二二三
 馬券禁止ト商店ノ大損失 二二五
 廣戸ノ年末シドニー入店、羊毛専務者初メテ育ツ 二二九
 年度商高激減二百万円ニ充タズ 二二九
 業績不振、年度利益前年ノ半ニ達セズ 二三一
 年度損益内容并ニ利益処分概要表 二三三

明治四十二（一九〇九）年

陸軍糧秣廠ニ馬糧ノ売込ヲ試ミテ成ラズ 二二九
 米國小麦ノ輸入聯給ヲ試ミテ亦成ラズ 二二〇
 対南阿輸出ノ端緒 二二一
 神戸築港工専用濠洲堅材ノ大口納入 二二三
 日濠館ノ建設愈決シ本店一時京町ニ移ル 二二四
 店祖ノ健康漸ク恢復ス 二二六
 商高一時神戸ヨリ東京ニ偏ス 二二七
 依然トシテ苦シキ商店ノ金融 二二八
 三井ノ組織變更 二二九
 豪洲ニ「〇」製造業起ル 二四〇
 年度輸入金額前年同調百五十五万円 二四一
 輸出取扱高初メテ廿万円ヲ超ユ 二四二
 日本側年度益二万円ニ達セズ、シドニー支店収益三万円ヲ超ユ 二四三
 明治四十二年度収支并ニ利益処分概表 二四七

明治四十三（一九一〇）年

協定書持分ノ一部更訂、藤井・守田・井垣ノ参加 二五三
 市場金利下落、三井銀行トノ取引再開 二五五
 前田東京支店長ヲ命ゼラレ、入江交替渡濠ス 二五八
 東京支店ヲ丸ノ内ニ移ス 二五七
 前田千住製絨所注文ニ突進ス 二五九
 羊毛取扱高ノ著増、年度買次輸入高尅万三千俵 二六〇
 創業以來廿年間ニ於ケル羊毛取扱高ト注文先 二六三

濠洲羊毛ノ日本輸入総量ト商店扱高トノ対照	二六五
新旧羊毛輸入業者間ノ注文獲得戦漸ク激シ	二六七
濠洲「 ^{top} 」ノ取扱開始、附當時ノ我モスリン界	二六九
高瀬貝ノ輸入ヲ始ム	二七一
配合肥料製造ノ開始、附濠肥輸入過去十五年ノ経過概要	二七二
臺灣糖務局ニ対スル肥料供給取引ノ終焉	二七五
店祖商店ヨリ諏訪山邸ヲ買戻ス、商店ノ不動産勘定單純トナル	二七九
有価証券ノ整理、滞り貸ノ切捨	二八〇
年度輸出総金額三十万円台ニ進ム	二八二
年度総商高約三百五十万円	二八三
シドニー支店年益四万円ヲ超ユ	二八四
四十三年度収支并ニ利益処分概表	二八七
年益処分後ノ実資力辛ク三十万円ニ達ス	二八七

明治四十四（一九一）年

馨君ノ入家并ニ従務	二九一
前田ノ店内開放主義完全実現ニ近ヅク	二九二
原前支配人ニ追賞	二九四
廣戸実業練習生トナル	二九五
北村初メテ New Zealand ヲ巡回視察ス	二九六
日濠館工事落成シ本店之レニ移ル	二九七
日濠館建設ト商店ノ金融利私等トノ関係	二九八
店員ノ風紀漸ク弛ミ酒色ニ荒ム者少ナカラズ	三〇〇
^{top} 取引ノ進展ト対松井モスリン会社貸倒レ	三〇一
年度商量四百万円	三〇四

年度益金内外通算九万円台ニ上ル	三〇六
四十四年度収支并ニ利益処分概表	三〇八
利益処分ト滞貸準備金勘定ノ再設定	三一
重テ資本金ヲ増加シテ一躍三十万円トス	三三

明治四十五（大正元・一九一二）年

増資ニ伴フ持分ノ更訂、店祖夫人并ニ関・林・國包・廣戸・小池・御前ノ参加	三二
初メテ内外在勤者ノ給料ヲ統一シ、海外在勤手宛支給ノ制ヲ設ク	三九
シドニー支店其為替銀行ヲ Bank of Australasia ニ改ム	三一
店祖又病ミ一時重態	三三
北村ノ第三次帰朝	三三
合資会社組織案ノ見合セ、匿名組合契約ノ成立	三四
匿名組合契約証書（ノ全文）	三七
新タニ準店員ノ格称ヲ設ク	三三
Whiddon Bros. 工場製造 Top ノ一手販売	三四
本邦ニ於ケル Wool Combing 事業ノ台頭	三五
最近五羊毛年度ニ於ケル原毛売込先	三七
倫敦ヨリ屑毛類、濠洲ヨリ Merino ノ輸入開始	三九
騎兵学校用馬輸入取扱ノ始メ	四〇
肥料部ノ発展計画更ラニ一歩ヲ進ム	四二
年度扱羊毛二万俵・Top 二百万ポンドノ巨量ニ上ル	四四
輸出年額一躍五十万円ニ近キモ本店純利ナシ	四四
年度総商高亦一躍七百万円	四四
内外年度益十五万円ニ垂ントシ遠ク創業以来ノ記録ヲ破ル	四九
年度収支概表（店祖最後ノ決算）	五〇

巨益ノ処分、什器勘定ノ全減銷却、空前ノ大店員賞与（店祖最後ノ論功行賞トナル）……………三五五
 処分後ノ商店実資力四十万円ニ上リ拳店前途ノ希望ニ輝ク……………三五五

大正二（一九一三）年

店祖遽然トシテ長逝ス……………三五五
 店祖ノ遺産……………三六二
 店祖ノ遺言書……………三六四
 合資会社兼松商店定款……………三七七
 社員ノ出資責任等ノ内容……………三七四
 無限責任社員ノ担当役割決議……………三七七
 匿名組合營業ノ終末決算……………三七九
 積立金及利益金ノ処分……………三八二
 合資会社ノ繼承開業……………三八四
 栗原モスリン工場トノ取引開始……………三八八
 〔C〕粉末豆粕ノ一手販売引受……………三九〇
 肥料部ノ山陰方面發展策ト米子營業所……………三九一
 北村ノ帰任……………三九二
 廃砲払下引受計画ニ関シ藤井ノ広東出張……………三九二
 年末ノ臨時賞与……………三九四

明治三十五（一九〇二）年

大改革一段落後ノ内外陣容

前年ノ大欠損ハ同年項下詳記ノ如ク、其処分後ノ資産内容亦既述ノ通り實質上皆無ト言フヨリモ更ラニ甚シキモノアリト雖モ、改革ハ先以テ一段落ヲ告ゲタルノミナラズ、要員ニ対シテハ相当米塩ノ資ヲ給セザレバ、事業ノ進行ヲ期スルコト能ハザルニツキ、本年々頭ヲ以テ店租ハ正副支配人ノ給料ニ部分的復旧ヲ行ヒ、且店員二三ノ増給ヲ沙汰シタルガ、奥村解任後ノ本年四月ニ於ケル商店内外本支店ノ陣容如何ヲ檢スルニ、店員総数僅二十五名、店長以下店員・倉庫係・小使ニ至ルマデノ従務総員漸ク廿名ヲ超ユル二三名ノミ、之レヲ僅々一年半前ノ三十三年暮ニ比スレバ、正ニ半減ヨリモ更ニ甚ダシ

[以下略]

日英同盟成ル

予テ英京ニテ交渉中ナリシ日英同盟此年早春成立ス

之レ日英何レニ取りテモ他国ト同盟セシ初メナルガ、日本トシテハ世界ノ一等国ト認メラレ、一流ノ白人国ト握手提携シ得ルニ至リタル証左ナリトノ意味ニ於テ、国民ヲ挙ゲテ歎喜セザルナリ、神戸ニテハ三月一日ヲ以テ大祝賀会ヲ催シタリ

本同盟ハ尔来存続廿年、大正三年欧洲大戦ノ勃発ニ当リテハ、日本ハ此盟約ノ義ニ仍リテ速カニ独逸ニ宣戦スルニ至リシガ、大正十年末華盛頓会議ニ於テ四国協約成ルニ及び此同盟ハ自然消滅ニ歸シタリ

New South Wales 貿易事務官ノ来駐

日清役後我邦諸企業勃興ノ結果、日濠貿易量ハ著大ノ進展ヲ示シ、同時ニ支那・印度等東洋諸民族ノ覚醒ハ、次第ニ此方面トノ通商量ヲ増進セシメテ、濠洲財界ノ注意ヲ喚起シタル結果、彼地ニ於テハ貿易事務官ヲ東洋ニモ派シ、濠洲産品ノ紹介并ニ販路拡張ニ資セントノ声漸ク高ク、N S W 州政府ハ先ツ州事業トシテ英米并ニ東洋等ノ数方面ヘ同官派出ヲ決シ、Commercial Agent for the East 任命セラレタル Whitley 氏ハ差詰日本ニ其事務館ヲ開設シ、進テ支那及印度方面ニ巡遊スルノ案ヲ以テ此年六月初着任シ、同月中旬早クモ其事務館ヲ神戸ニ開キ、各種濠洲産品ノ見本ヲ陳列シ情報ヲ与フルノ事務ヲ開始シタリシヲ、濠洲官憲ノ日本ニ駐劄スルノ始メトス

恰カモ好シ廿六年渡濠シタル店租ノ養嗣子道彦君ハ、或ハ支店ニ従務シ、或ハ彼地農学校ニ学ビ

其業ノミハ畢ヘタルモ、兎角店務ニ当ルノ熱心ヲ欠キ志ヲ得ズシテ、昨年十一月末帰神尔来定業無カリシカバ、Whitely 氏ニ傭ハレテ通訳兼秘書トシテ館務ヲ助クルコト、ナリ、同官ノ日本滞任中引続キ其任ニ当リタリ

而シテ Whitely 氏ハ神戸ヲ根拠トシテ東京・横浜・名古屋・長崎ノ各地ニ短期巡回見本陳列室ヲ開キ、年末ニ及ビテ支那ニ向ヒタルニ、間モナク福洲ニテ熱病ニ罹リ、少壯有為ノ才幹ヲ懷キテ空シク客地ニ逝キシハ深ク惜ムベシ、訃ノ神戸ニ到リシハ翌三十六年一月十五日ナリシ

後任 J. B. Sutor 氏ハ任命後間モナク三十六年八月来朝、是亦神戸ヲ中心トシテ館務ヲ執リ、時ニ支那・印度地方ヲ巡回セシガ、元来日本好きノ老人ナル上、来朝前我が北村トノ交友モアリテ能ク商店ヲ諒解シ常ニ多大ノ好意ヲ商店ニ表シタリ、而シテ氏ノ在任ハ実ニ廿年ニ近く、中途其資格ヲ Commercial Commissioner ニ昇格セラレタルガ、大正十一年七月 N S W 制度変革ノ為メ廢官トナリシモ、日本好きノ此老翁ハ一兩回濠洲へ往復セシノミニテ余生ヲ日本ニ送リシガ、大正十四年春遂ニ神戸ニ老没シタリ

店祖ノ第七次渡濠

店祖三十二年一月濠洲ヨリ帰朝シテ以来シドニー支店ヲ訪ハザルコト茲二三年余、此間蚕糸部ノ飛躍ニ深創ヲ蒙リ、肥料部ノ積極方針ハ売掛回収上大渋滞ヲ来タシ、新夕ニ染手シタル対清貿易ハ成績甚ダ思ハシカラズ、加之、シドニー支店ハ連年ノ不成績積ミテ巨損ヲ醸シ、忽チ恐慌ニ襲ハレテ店運万死ニ瀕シタルモ、絶大ノ手術ヲ行フテ辛フジテ活路ヲ開キ、商店ノ生存漸ク目先キ一応ノ安定ヲ得タレバ、具サニ其経過ヲ告グルト共ニ支店員ヲ励マシテ臥薪嘗胆ノ計ニ協力セシムベク、店祖ハ五月廿日春日丸ニ搭シテ濠洲ニ向ヒタルガ、四囲ノ事情ハ固ヨリ其長ク神戸ヲ離ル、ヲ許サザルノミナラズ、往航ノ途ヨリ挫骨神経痛ニ悩マサレ疾怠ラザルヲ以テ折返シ、同船便ニテ七月末日帰神ス

蓋シ対清貿易ノ着手ハ既記ノ如ク当時ノ世論其要ヲ説クコト囂々、而カモ自ラ之レニ当ルノ人士

甚乏シキヲ慨シ、貿易界ノ先覺者トシテ挺身其範ヲ示スノ意ニ出デタリト雖モ、一面濠洲ハ往々大旱魃ニ襲ハレ、其甚ダシキニ及ビテハ凡テノ商取引亦休止ニ瀕スルノ国状ニ鑑ミ、商店ノ存立上其見返リヲ日清貿易ニ求メ置カントスルコト実ニ店祖意中ノ一大理由ナリシナリ、然ルニ支店支配人北村ハ予テ此対清貿易開始ニハ不賛成論ヲ唱ヘ来リシ成行上、店祖今次ノ行特ニ苦衷ノ察スベキモノアリシナリ

Towel 製造輸出ノ研究

店租今回ノ行其シドニ一滞在僅ニ半月ニ過ギザリシモ、其間大局上ノ店務処理ノ傍ラ北村ト共ニ思ヲ恰好ナル新輸出品ノ発見ニ凝シ、従来マンチエスターノ独占的供給ニ係ル綿製浴巾ノ需要甚大ニシテ或ハ日本ヨリ對抗供給ノ可能性アルベキニ着目シ、帰朝早々此御土産案ノ実現ニ努力シ、當時本邦殆ンド唯一ノ浴巾製造家タリシ播州印南郡ノ稲岡氏ニ囑リ、或ハ自ラ工場ニ往復シ、或ハ赤染ノ改良ヲ勸説シ、或ハ特殊綿糸ノ供給ニ奔走スル等一時殆ンド寧日無カリシガ、固ヨリ当初二三ノ失敗大苦験ヲ免カレザリシモ、久シカラズシテ「Towel」ハ特得ノ一有力商品トシテ商品輸出取扱品ノ首位ニ上ルニ至リ、廿年後ニハ商店投資ノ下ニ具塚ニ資本金三十万円ノ浴巾会社サヘ設立セラレ、濠洲ノ特惠関稅策ノ大障礙ヲ受クルニ及ビテモ猶マンチエスターヲ好敵手トシテ健闘ノ余勇ヲ失ハズ

北清産豆油ノ対濠中継輸出

濠洲ノ地牛羊脂ハ産出極メテ潤沢ナル結果、石鹼其他ノ油脂製品工業ハ夙ニ意外ノ發達ヲ来シ、其石鹼業ニ於テハ原料価位ノ如何ニヨリ動物質脂肪ニ代ヘ、巧ミニ植物性油類ヲ原料トシテ主用スルノ技ヲ有ス

曩ニ北清貿易ニ染手セル店祖今次ノ行深ク此点ニ着目シ、其土産案ノ一トシテ牛莊産豆油ヲ神戸ヨリ濠洲ニ再輸スルノ策ヲ携ヘ歸リ、シドニー支店并ニ牛莊出張所ト策応努力ノ結果、此年初メテ豆油ヲ濠洲 Lever Bros. へ売込ミ得タル量百余屯二万円弱ニ上リ、翌年ハ更ラニ増加シテ三百数十屯六万円ニ及ビタルモ、元來濠洲旱害ニ乗ジ得タル商買トテ、其後ハ兎角相場ノ出合宜敷カラズ、商店重要輸出品トシテハ一時的ノ運命ニ終リタリ

乳種牛輸入ノ再挙

一昨年ノ濠洲乳種牛初輸入ハ商店ノ計算上ヨリハ慘憺タル失敗ニ終リシモ、結局ノ買受人ヨリ見レバ何レモ望外ノ大成功トナリ、濠洲牛ノ真価ノ漸次産牛家并ニ乳業者家ニ周知セラル、ニ及ビテ、再ビ之レガ輸入ヲ希望スルモノ次第ニ見ハレ来リシ折柄、臺灣総督府ニテ同島畜産改良ノ為メ Ayrshire 種牛逸物二頭ヲ濠洲ヨリ購入方当店へ委嘱シ来レルニ会シタレバ、之レヲ動機ニ民間ノ注文ヲ蒐メ、商店ハ当業者ノ信用厚キ獣医高橋得太郎氏（兵庫県畜産技師トシテ其前後勤続二十七年ニ及ビシ人）ニ委嘱シ、此年八月廿日春日丸ニテ神戸発渡濠シタル同氏ハ乳種牛取合セ十七頭ヲ撰択購入シ、十二月初之レヲ輸送シテ帰神シ、同月中旬夫々注文主ニ引渡シ了シタルガ、今回ハ之レニヨリテ商店モ利益千五百円ヲ得、前年ノ欠損ノ一部ヲ償フコトヲ得タリ

古立（四月）・前田（十月）ノ上海出張

此年四月古立ハ長崎出張ノ序ヲ以テ、昨年ニ引続キ日本製糖会社ノ委托冰糖売約ノ目的ヲ以テ上海ニ出張セシモ、季節不適ノ為メ成功セズ、直チニ帰朝シタルガ、十月上旬ニ至リ前田同地ニ出張ヲ命ゼラレ、滞留約二旬同品約三万円ノ売約ヲ遂ゲ、帰途長崎ニテ同地某商ニ売約セル豆粕一船ノ受渡シヲ了シテ十一月中旬帰神シタリ

原支配人ノ北清出張、松崎牛莊主任ノ帰朝

北清貿易ニ熟セル原支配人ハ、店祖ノ濠洲ヨリ帰朝後二ヶ月ヲ隔テ九月末ヲ以テ神戸ヲ発シ、長崎ニ立寄り、芝罘并ニ牛莊へ出張ニケ月有半ヲ費シ、十二月中頃帰神シタルガ、先之母ノ喪ニ遭ヒ九月初帰朝セル橋本牛莊出張員モ十月中旬帰任シタルト恰カモ閉河期ニ入り商務閑散ナルトノ機会ヲ以テ、松崎出張所主任亦原ト同行帰朝シタレバ、牛莊ハ橋本・速水両出張員ヲ残スノミトナリタリ

滿洲粟輸入ノ好収ト柞蚕糸見込買ノ大崇リ

原ノ此行往途長崎ニ於テ防穀令ノ除外トシテ滿洲粟ノ輸出可能性アル趣ヲ聞知シ、着莊即刻窺カニ其行動ヲ開始シ、幸ニ閉河前同品約式千屯価格八万数千円ノ特許輸出ヲ遂ゲ、折柄ノ東北三陸地方ノ大凶作ニ乗ジ八千余円ノ奇利ヲ収メタルガ、同時ニ見込買附ヲ為シテ輸送シ来リシ柞蚕糸三百数十捆約十萬円ハ、帰朝早々前田ヲ京阪濃尾地方ニ派シテ急売セシメント焦慮セシモ、大凶作ニ伴フ不景氣ニテ機業界沈衰ノ折柄、殊ニ年末ニ差迫リ値段ニ拘ラズ殆ンド商談ニ応ズル者無ク、遂ニ全部手持ノ俣決算越年ノ止ム無キニ終リ、山川正金支店長ヨリハ無謀ノ輕挙トシテ激烈ナル叱責ヲ蒙リタルノミナラズ、翌年春夏ノ交漸ク需要季ニ入りテ幸ニ甚ダシキ損失ナク全部売却シ得タリト雖モ、当時商店ノ瘠世帯ヲ以テシテ此巨額ノ商品ヲ数ヶ月ニ亘リ持荷スル為メ金融上実ニ深酷ナル苦痛ヲ受ケタリ

近時其極ニ達セル商店金融難ノ一斑
金融ノ為メニセル精米ノ輸出ト *Oleine* ノ輸入

昨年經濟界ノ大恐慌ノ為メ痛烈ナル打撃ヲ蒙リテ沈衰シタル我國ノ商工業ハ、本年ニ入りテモ素ヨリ容易ニ回復ノ緒ニ就カズト雖モ警戒ノ要ハ疾クニ去リタルヲ以テ、日本銀行ハ本年三月先ツ日歩二厘方ノ引下ゲヲ行ヒタルモ更ラニ資金ノ需要ヲ呼ブニ至ラズ、引続キ六月・十月・十二月ノ三回ニ亘リテ各二厘方ノ引下ゲヲ決行シ、僅々十ヶ月以内ニ八厘方ノ大引下ゲトナリタル次第ナレバ、苟クモ實力アル商人ハ金融ノ至便ヲ感ズルニ至リシモ、既述ノ如ク内容漸次不良ノ度ヲ加ヘタル当店ノ金融ハ實ニ極度ノ困難ニ陥リ、自家ノ倉庫ハ凡テ貿易倉庫会社ニ出保管ヲ托シタルハ言フ迄モ無ク、一袋ノ牛骨・一俵ノ膠原料ニ至ルマデ苟クモ多少ノ価格アルモノハ凡テ倉荷証券トシテ銀行ヘノ担保ニ供セラレタレバ、現金ヲ懐口ニシテ来店商談ヲ遂ゲタル顧客ハ其現荷

ノ秤量受渡シヲ待ツモ、數百円ニ過ギザル内入金ノ苦面ニモ常ニ困難ヲ感ジタル會計部ハ荷物内渡指図書ヲ得ルニ數時間ヲ要シ、其内情ヲ告グルヲ得ザル販売当局ヲシテ屢々其顧客ニ対スル弁明ニ窮セシメタリ

近來商店ノ精米輸出ト Oleine 油輸入トガ相並ビテ激増セルガ如キモ、主トシテ此融通ノ為メニセルモノニシテ、精米ハ積出シト同時ニ荷為替ヲ取組ミ為替代金ヲ收受シ得ルニ拘ラズ、供給者へハ習慣ニ依リテ六十日延ノ手形ヲ交付シ、其期間ノ融通ヲ得ベク、Oleine ハ一定ノ支払条件アルニ非ズト雖モ、濠洲ニ於ケル供給者 J. Kitchen & Sons ガ幸ニ商店ヲ信ジテ曾テ其支払ヲ督促セシコトナク、積出シ後一二ヶ月以内ニシドニー支店ノ金融都合次第送金スルヲ以テ事足ル実情ヲ利用シタルモノナルガ、商品ノ性質上精米ハ彼地ニ於テ市価ニ比シ毎噸 60 乃至 70 小損ヲ忍ベバ何時ニテモ売抜ケ容易ナルニ反シ、Oleine ハ日本ニ於ケル売場極メテ狹隘ニシテ進退ノ自由ヲ欠クガ故ニ、兎角尠ナカラザル滞貸ヲ生ジ、金利并ニ貯蔵保管ノ費用ハ勿論其内容ノ漏損減滅亦輕シトセズ

泣面ニ蜂ノ濠洲大旱魃

濠洲貿易不振ハ年度輸出入額僅ニ四十四五万円

瀕死ノ商店辛フジテ一条ノ活路ヲ得、速カニ安全地帯ニ到達スベク焦慮セル折モ折、商店唯一ノ地盤タル濠洲ハ昨年来未曾有ノ大旱魃ニ襲ハレ、本年ニ入りテ其慘状愈甚ダシク、数千万ノ羊牛餓渴ニ斃ルノモノ救フニ由ナク全洲産業ノ基礎殆ンド覆ガラントス外ハ此大旱害ニ祟ラレ内ハ恐慌後ノ大不振ヲ受ケタル当年商店ノ濠洲取引ハ、如何ニ店内上下ノ焦慮努力ヲ以テスルモ到底好蹟ヲ挙グ可クモアラズシテ、輸出ハ新商品豆油ノ出現并ニ金融策ニ基ク精米送荷ノ著増ヲ以テシテ猶前年ニ及ブ能ハズ、辛フジテ十万円台ヲ保持セシニ止マリ、輸入ハ珍ラシク椰子油ノ大取引アリシニ拘ラズ、小麦取扱ノ全減ト一般ノ不振トニ由リテ僅カニ前年ノ七割強ナル三十三四万円ニ下リ、更ラニ量ニ於テ論ズルトキハ昨年ノ輸入量五千屯ニ対シ

僅々三割ノ千五百屯ヲ算セシニ過ギズ、輸出入通算僅ニ四十四万五千元実ニ慘怛タル状態ナリシ之レヲ各品目ニ就キテ少シク詳説スレバ

輸出ニ在リテハ、金融本位ノ精米ガ四百数十屯五万余円ヲ以テ総金額ノ一半ヲ占メ、新商品豆油ガ百十屯一万八千円ヲ以テ忽チ第二位ヲ占メタル外ハ、魚油百廿屯九千余円、落花生九百十屯七千余円、板紙百廿五屯六千五百円ヲ主ナルモノトシ、其他ハ何レモ三千円以下ノ雜品ニ過ギズ、委託品マデヲ通算スルモ輸出総価十一万円ニ充タズ

羊毛ノ輸入ハ内国財界恐慌後ノ恢復遅々タルト旱害ノ結果市価ノ暴騰セルトニヨリ、今年度商店輸入取扱高ハ僅カニ十八万ポンド九万円以内ニ止マリ、Olefine 油ハ百七十余屯五万五千円、肥料ハ三百余屯二万五千円、Tallow 毛相場暴騰ノ為メ僅々六十屯貳万余円ヲ輸入シ得タルノミ、鉄屑十屯約一万円、種牛以下雜品約十点取合セ三万余円ニ対シ、屠業雜貨ハ取合セ約五百屯五万五千円ニ上リテ当年収益ノ首位ヲ占メ、椰子油百六十屯五万円ノ輸入ハ牛脂相場ノ暴騰ニ乗ジテ企テラレタル空前ノ大輸入ナリシモ、利ヲ貪リテ躊躇セル為メ一部売却前早クモ入津シ、加之荷傷ミ甚ダシク折柄ノ炎天下ニ引渡シ前非常ノ漏減ヲ来タシ、結局尠ナカラザル損失ニ終リシハ例ノ奇利慾張流儀ノ失敗ニシテ笑止トモ申スベシ

支那貿易ノ成績亦依然不良

当年牛莊方面ヨリノ輸入ハ豆粕七万七千余担価額十七万五千円ヲ筆頭ニ、柞蚕糸三百数十担九万五千円、粟三万二千担八万六七千円、大豆二万六千担七万円、豆油四千余担参万三千円、小豆四千余担一万六千円、カストル油其他一万円、総計五十万円ニ近ク之レニ対スル輸出ハ棉糸千五百万俵十五万円、委托綿布七万五千円ヲ主トシ、黄燐々寸・麦酒・紙卷煙草・洗濯石鹼・氷砂糖・其他取合セ約五万円、外ニ上海向ケ委托冰糖約三万円ヲ加ヘテ通算三十万円ヲ超エ

此輸出入合計約八十万円ハ、金額ニ於テハ前年ニ比シ更ラニ一步ヲ進メタリト雖モ、其収支ノ成績ハ依然トシテ不良ノ域ヲ脱セズ

即チ粟ノ輸入ニヨリテ別項ノ如ク約10%ノ奇利ヲ挙ゲタル外、大豆及豆油ハ5%ニ近キ収益

ヲ得タルモ、大立物タル豆粕ハ $3\text{r}/2\%$ ニ近キ損失ニ終リ、小豆ニ至リテハ実ニ 20% ノ巨損ヲ齎ス等濃厚ナル射倖気分ニ基ク見込取引ノ通弊トシテ損益共ニ常ナク、出入八十万円ノ商買ヨリ剩シ得タル帳簿面利益ハ三千円ニモ達セズシテ僅カニ牛莊出張所経費ノ一半ヲ償ヒ得タルノミ

内外共ニ遂ニ純損、収支概表

濠洲貿易ノ業蹟既掲ノ如ク甚ダ不振ナル上、対清取引ノ結果モ亦依然不良ナルコト前項ノ如シ、経費ノ節約ハ努力剩ス所ナシト雖モ利払ハ減ズ可クモアラズ、サレバ結局十萬円近キ炸蚕糸ヲ帳簿尻価格ノ俛何等評価減ヲ行フコト無クシテ棚卸シヲ為シ、而カモ本店ハ遂ニ二千余円ノ年損ヲ計出シ、シドニー支店亦旱害ノ打撃ト小売店撤廢ノ跡始末等ノ為メ前年十一月ヨリ本年十月ニ亘ル一ケ年ヲ通シ四百余圓ノ純損ヲ計上シタレバ、本支通算正ニ六千余円ノ年度純損ニ終リタルコト一八年柄ニモ由リタルコトニテ是非モナキ次第ナリ

〔表 1 参照〕

〈表1〉明治35年度 収支概表

対濠輸出入損益内容			対清貿易損益内容		
屠業雜貨	益	¥11,000	栗	益	¥8,500
Oleine	〃	9,200	大豆	〃	3,100
羊毛	〃	3,000	豆油	〃	1,700
Tallow	〃	2,500	小計		13,300
乳種牛	〃	1,500	豆粕	損 5,800	} 損 11,500
其他	〃	600	小豆	〃 3,200	
小計		27,800	其他諸品	〃 2,500	
椰子油	損 1,200	} 1,400	差引輸入益		1,800
肥料其他	損 200		支那輸出手数料(上海冰糖共)		1,100
差引濠入純益		26,400	合計支那輸出入總益		2,900 (+)
対濠輸出手数料收入		1,700	此處		
合計対濠輸出入益		<u>28,100</u>	牛莊出張所經費及損		5,600 (-)
			対照差引対清貿易損		<u>2,700 (-)</u>

經費内容		年度損益概括表	
利息	¥12,700	上表濠洲輸出入益	¥28,100
本店俸給	7,000	上表対清貿易損失	2,700
旅費	1,900	差引貿易業利益	25,400
諸税	1,300	外二内地売買益	300
雜費	4,000	營業總益	25,700
小計	26,900	家屋倉庫賃貸料	2,400
東京支店經費	1,800	以上總益	28,100
日本側總經費	<u>28,700</u>	内有価証券評價損	1,500
		差引利益	<u>26,600</u>
		左表總經費	28,700
		上記殘益	26,600
		差引年度純損	<u>2,100</u>

明治三十六（一九〇三）年

連年ノ失蹟ニ鑑ミ年頭先ツ決シタル營業方針

三十四年ノ大改革ニヨリ店運挽回ノ曙光ヲ見出サンコトヲ期シタル昨三十五年ノ業績依然不良ニシテ遠ク予期ニ達セザリシニ鑑ミ、店租八年頭今年ノ經營方針ヲ定メテ記録トシ、正副支配人ト共ニ之レニ調印シタルカ其内容概略左ノ如シ

一、日濠間取引

三十五年中輸入シタル商品ハ廿一種ニシテ、多クハ確約注文ニ属シ、見込輸入ニ係ル椰子油ハ需要季ヲ逸シテ残品ヲ貯蔵シ多少ノ損失アリシモ、他ハ皆利益ヲ挙ゲタリ、輸出商品十五種亦概ネ確約品ニシテ損失ナク、今年ノ成績ハ香バシカラザルモ旱害不振ノ年柄トシテハ不得止所ニシテ、三十六年ノ支出予算、借金利息一万円、本店諸給七千円、同諸費五千円、東京支店諸給千円、諸費千円、シドニー支店給料諸費一万円ノ予算ヲ以

テセバ、前年内外両地ノ実収ニ対照シテ猶一万三千円ノ純益ヲ剩シ得ベク、更ラニ収入増加、経費節約ノ見込モ無キニ非ズ依テ

前年ノ方針ヲ継承シ一層正確ノ道ニ則リ経営スベキコト

二、対牛莊取引

輸出品ニ在リテハ内地製造家ノ無責任ナルモノ多ク為メニ意外ノ損失ヲ招キ、商店ノ信用ヲモ損スルガ故ニ

綿糸（鐘紡藍魚印ニ限ル）・綿布（大阪紡績会社委託品ニ限ル）・氷砂糖（日本精製糖会社ノ委託品ノミ）・麦酒（朝日麦酒会社製品ニ限ル）・黄燐燐寸・石鹼ノ外断ジテ取扱ハザル事、且右大紡精製糖両社ノ委託品ハ充分勉強シテ販路ヲ拡張スベク、自己計算商品ハ牛莊出張所貯蔵□綿糸ハ百俵、麦酒ハ三百箱ヲ夫々限度ト定メ、如何ナル事情アルモ之レヲ超過セザル事

又輸入品ニ在リテハ

柞蚕糸前年ノ失敗ハ、内地商人ノ誘致ニ誤ラレ妄信速断未經驗ナル品ヲ買入レタル罪ニ坐スルモノナレバ、注文ニ因ルノ外断ジテ購入セズ

豆油ハ、シドニー支店ニ於テ確約注文ヲ受ケタルモノに限り購入スベク

大豆・豆粕及雜穀モ亦安全ナル約定成立スルニ非レバ断シテ売買セザルモノトス

将来ノ収入ヲ案ズルニ、綿布・氷砂糖二品ノ委託販売手数料年額二千五百円ヲ収ムベキ見込アルモ、他ノ収益ハ予期シ難キガ故ニ、牛莊出張所ハ給料千九百廿円、諸雜費七百廿円ノ限度内ニテ經營スルニ勉ムベシ

三、不動産及有価証券整理

葺合地所ハ勿論、海岸地所家屋ノ一半（現今日濠館敷地ノ一半及其上ノ建物当時谷道商店ニ賃貸シ在リシ分ヲ意味ス）及諏訪山家屋（店祖邸及ビ舍宅ノ意味也）并ニ株券等ハ時機ヲ見計ヒ売却ノ上、正金銀行へ返済シ利払ヲ減少スルコト

四、正金銀行ニ対シ信用状ノ發送ヲ依頼スルニハ、予メ其取引ノ真情ヲ具陳シテ其承諾ヲ求ムル事

右ノ通り決定スルニ付、断シテ之レヲ犯スコトヲ許サズ

副支配人古立ノ濠洲出張

去ル三十年初メテ渡濠シタル支配人原二次グ本店ノ要員トシテ、親シク濠洲ノ地ヲ踏ミテ其見聞ヲ拡メシムルト共ニ、シドニー側支配人北村ニ一時帰朝ノ機会ヲ与フル目的ヲ以テ、此年四月副支配人古立ニ濠洲出張ヲ命シ、彼地滞在一年余翌三十七年九月末帰朝ス

出張手当金額ノ改定

前項古立ノ濠洲出張内定ニ関聯シ、此年四月内外出張手当金額左ノ通り改定通達セラル

一、濠洲 月俸二ヶ月分

一、清韓 同 一ヶ月分

一、内地百哩以上ハ 同 半月分

々 五十哩以上百哩迄 同 三分ノ一月分

但シ往復車船中ノ雜費ハ此内ニテ支弁ノ事

諏訪山舎宅ノ売却処分

店祖邸（此時ハ貸シ家トナリシ俣ナリキ）ニ隣接セル借地上ニ在ル店員住宅宛舎宅一棟六戸ハ、明治廿九年店資約三千円ヲ投シテ建設シタルモノニシテ、其内古立住居ノ東端ノ一戸ニハ三十三年末更ラニ数百円ヲ投シテ増築ヲ加ヘシガ、之レ等舎宅ノ過半ハ外部ノ人ニ賃貸シ有ル近状ナルノミナラズ、三十四年ノ大改革以来商店資債整理ノ一助トシテ常ニ之ガ売却ヲ試ミ居ルモ、不況ノ折柄買人ヲ得ル能ハザリシガ、本年七月ニ至リ漸ク約四千五百円ニテ調談売却処分ヲ完了シタリ

大阪大博覧会ニ参考出品

此年五月大坂ニ第五回内国勸業博覧会開催セラレタルガ、商店ハ北村ノ苦心蒐集シタル濠洲各地産羊毛見本約三百種ヲ参考室ニ出陳シタリ

上海方面取引ノ全滅終焉

一昨三十四年上海支店引揚後、同方面ノ取引ハ代理店順泰洋行ヲ介シ、当店員ノ隨時出張ニヨリテ僅カニ委托冰糖ノ輸出ニ余喘ヲ保チシ有様ニシテ、此年六月同店經營者吉田順藏氏ノ一時帰朝ニ際シ代理店契約ハ更新セラレタルモ、同氏ハ兎角業務ニ対シテ熱心ヲ欠キ、店運漸次不振ニ陥リタル折柄、委托主タル日本精製糖会社ノ作業方針モ次第二変更シタレバ、昨年前田出張約ノ冰糖取引ヲ最後トシテ代理店契約モ商店ノ上海取引モ共ニ事実上終リヲ告ゲタリ

前田局外ヨリ豆粕取引全廢論ヲ唱フル事愈切ナリ

商店ガ初メテ豆粕ノ取引ニ染手シタルハ三十三年末ノコトナリシモ、三十四年ハ商店ノ改革一般財界ノ恐慌等ニテ格別大ナル取引ヲ試ムルニ及バザリシガ、同年上海支店閉鎖ノ結果商店ハ今後牛莊貿易ニ一層ノ努力ヲナスベキ趣ヲ聞知シタル前田ハ、身局外ニ在ルヲ忘レ、三十五年新年宴会ノ席上支配人ヨリ本年ノ營業方針ニ関シ店員夫々意見ヲ述ベヨトノ声ニ応シテ、「豆粕ハ重要ナル商品ニ相違ナク其取引振リモ如何ニモ男ラシキ商売ナルモ、其危険ハ実ニ大ナリト承知ス、此取引ニ確實性ヲ附スベキ商店ノ成算如何」ト反問シタルモ要領ヲ得ザリシガ、同年九月支配人渡清前ノ相談会ニ於テハ、前田ハ正面ヨリ豆粕取引ノ全廢ヲ提議シテ曰ク

先年末濠洲輸入本務ノ傍ラ電信係ヲ兼掌シテ朝夕牛莊往復電信ヲ講訳シ、一方当局伊勢店員ニ就テ市況ヲ側聞対照スルニ、豆粕并ニ大豆ノ先物産地買附為替先約地場売約ヲ同時ニ行フモノ

トスレバ常ニ ∞ 前後ノ損失計算トナリテ殆ンド例外ヲ見ズ、之レ全ク為替上ニ便宜ヲ有スル清商ニ比シ、吾人ノ對抗条件ノ不利ナルニ因スベシ、其結果吾等ハ銀相場又ハ内外豆粕相場ノ将来ノ騰落ヲ賭スルノ外到底此取引ニヨリテ利ヲ得ルノ道ナク、安全ニシテ確實ナル約定ニ基ク売買ノ余地皆無ナリ、商店ハ宜シク断然此商買ヲ廃スベシ

ト、而カモ此商買ニ囚ハレタル支配人ハ此行充分調査ノ上ニテ決スルモ未ダ遅シトセズトテ何等決スルニ至ラシメズ、十二月其帰神後ノ店員会ニ於テモ支配人ハ

此商買ハ多クノ場合ニ於テハ曩日ノ前田ノ説ノ如シト雖モ、年ニ数回ハ必ず絶好ノ機会アリ、之レヲ捉ヘテ動カバ勝算疑フ可ラズ、故ニ此商買ハ決シテ断念スベキモノニ非ズ

ト主張シテ、(一) 粕ノ商買ハ依然繼續スル事、(二) 充分安全ノ策ヲ取ルコト、(三) 一時ニ二船以上ノ手配ヲ為サル事ヲ決シタルガ、右ノ(二)ハ単ニ抽象的ノ気休メ文句ニ過ギズ、殊ニ唯一ノ具体的表示タル(三)ノ制限スラ直チニ破壊サレ、本年上半ノ業績亦慘怛タル結果ニ終ラントスルヲ見タル前田ハ此年三月重ねテ本品取引一般ノ現状ヨリ見テ到底商店トシテハ危険ヲ防止シテ取引ニ従事スルノ方途ナキ理由ハヶ条ヲ挙ゲ、其全廢論ヲ唱フル事愈切ナリ

上半期仮決算純損ヲ示ス

商店定例ノ決算八年末一回ナリト雖モ、対正金銀行關係上營業実績ヲ数字的ニ報告スルノ要アルノミナラズ、近年ノ悲境ニ陥レル商店ノ自衛上ノ意味モ加ハリテ、六月末ヲ以テ徹底的ニ半期仮決算ヲ遂ゲタル結果ハ、豆粕一品ノ損失六千五百円、大豆同千円等ノ為メ、本店・東京支店・牛莊出張所ヲ通ジテ五千余円ノ純損失ヲ示シ、シドニー支店亦（前年十一月ヨリ本年四月末ニ至ル半年）二百円弱ノ欠損ヲ計上シテ、商店年頭ノ予算ハ不幸根底ヨリ覆サレタルコト現実ニ証明セラレ、此假ニテ推移センカ折角一条ノ活路ヲ開キタル商店ノ運命モ臆テ衰弱ノ極自滅スルノ外ナキヲ思ハシム

北村シドニ―支配人ノ初帰朝

古立シドニ―着後約二ヶ月ヲ経、不在中ノ支店業務ヲ托スベキ段取略成リタルヲ以テ、支店支配人北村ハ七月同地發妻子ヲ伴ヒ八月帰朝ス

廿三年初頭单身店祖ニ從フテ濠洲ニ向フテヨリ正二十有三年半ニシテ、再ビ祖国ノ山川ニ見エシ次第二シテ其歡迎ノ盛ンナリシ故ナキニ非ス

山川正金神戸支店長ノ榮転

商店ノ救命主トモ称スベキ山川正金銀行神戸支店長ハ、商店復活ノ機運ヲ認ムルニ及バスシテ此年九十月ノ交本店総支配人ニ榮転セラレ、後任トシテ青木徹太郎氏来着ヲ見シガ、其間安部副支配人ハ引続キ在任ナリシト雖モ、三十四年大改革後依然悲況ヲ脱セザル商店トシテハ此際正金支店長ノ更迭ハ一痛事ナラズトセズ

信用状発行難其極ニ達ス

先年ノ改革以來商店ノ業績ハ一向ニ面目ヲ改メザルノミナラズ却テ Bad to Worse ノ経路ヲ辿リ、今年上半ノ実績ニ至リテ益其度ヲ加フ、債権銀行タル正金ノ不安日々益甚ダシキ固ヨリ其所ノミ、サレバ、所要信用状ノ発行ヲ得ルハ予テヨリ容易ノ業ニハ非ザリシモ猶事実上敢テ大ナル支障ヲ感セザリシニ、此年秋冬ノ交ヨリハ同行ハ殆ンド総拒絶ニ近キ態度ヲ示スニ至リ、商店ハ為メニ屢有利ナル濠洲輸入ノ取引ヲ他人ノ手裡ニ委シテ徒ラニ傍觀スルノ外ナク、特ニ商店ノ生命トモイフベキ新季羊毛ノ委托注文スラモ引受躊躇ノ止ムヲ得ザル窮境ニ至リテハ、到底營業当局ノ忍ブ能ハザル所ニシテ、店祖并ニ會計主任者トハ全然別行動ニ依リテ鈴鹿東京支店長囑托ヲ勞シテ第百銀行ニ信用状発行方ヲ交渉スルニ及ビシガ之レ亦容易ニ進捗セズ、無謀ナル豆粕取引・柞蚕糸輸入等ガ商店ヲ此窮地ニ陥レタルモノトシテ牛莊貿易ハ勢ヒ呪詛ノ焦点トナル

商店改造ノ気分漸ク動ク

一昨年商店ノ救済ヲ決スルニ当リ、一応其条件ノ一トシテ支配人原ノ革職ヲ要求シタル正金山川氏ハ今次神戸ヲ去ラル、ニ至リシト雖モ、而カモ原其後ノ経営振りハ徒ラニ焦慮ニ過ギテ画策多クハ志ト違ヒ実績ハ一向ニ挙ラザルノミナラズ、却テ益商店ヲ窮地ニ陥ル、ノ傾向著シキ為メ、其当務ノ熱心ト努力ノ到ラザル所ナキトニ拘ラズ店内上下ノ信望漸ク薄ク、商店ノ業績月ト共ニ悪化スルニ連レテ、恰カモ創業以來ノ重臣北村シドニー支配人ノ帰朝中ナル此機会ヲ以テ商店内部ノ改造ヲ試ミ以テ一新生面ヲ開クニ非ザレバ、店業ノ滅亡目睫ノ間ニ在リトシテ、革新ノ気分漸次店内ニ動ク

店祖善処ノ策ヲ店內ニ徴ス、白面店員前田ノ献言

屢記ノ如ク店運益蹙マリ店内ノ不安愈高マリタルヲ見テ、店祖ハ此年十月広ク店内ノ各員ニ善処ノ策ヲ徴ス

別項原支配人ガ年末ニ至リテ提出セル陳情書ニ附セル意見ノ部分ハ、正ニ店祖ノ此徴言ニ対スルモノニシテ、之レヲ在庫ニ獲タル外關係文書ノ存スルモノナク、其他ノ店員ガ果シテ當時何等カノ意見ヲ進メタリヤ否ハ之レヲ知ルニ由ナキモ、前田自ラ匣底ヲ探リテ「商店管見」ト題セル同年十月附進言書ノ草稿ヲ得タリ、当時廿六才ノ白面書生殊ニ入店以來僅カニ三年余ニシテ商店全局ニ関スル知識ヲ有セザル身ナレバ、所論ノ内容固ヨリ多クノ価値ナシト雖モ、当時ノ店内空気が緊張セシ一班ヲ知ルベキ資料トシテ其内容ヲ摘記センニ

社会ヲ達観スルノ明ト多衆ヲ悦服セシムルノ徳ト広汎ナル交際ト不撓ノ精神トヲ併有セル店長

ヲ戴キ、之ヲ佐クルニ辣腕熱誠ノ支配人ヲ以テス、暖簾古カラザルニ非ズ、店員忠実ナラズトセズ、而カモ商店ノ基礎既ニ就ルベクシテ就ラズ、營業ノ成蹟当ニ挙ルベクシテ挙ラザルモノ、蓋シ其深因ナクンバアル可ラズ

ト冒頭シ、入店日浅ク商店ノ歴史ニ通セズ資産負債ノ状況ハ勿論、担当以外ノ業蹟スラ之レヲ知ラザル自分ハ此病根ヲ究ムベキ資格ナキモ、店業ニ従フコト既ニ三年思フテ言ハザルハ道ニ非ルベク赤裸ニ所思ヲ認メテ高教ヲ仰グ旨ヲ述ベテ本論ニ入り

私カニ以為ク商店ノ病根ハ無主義無方針ニ在ルナキカ方針ナキニ非ルベシ、終始一貫ノ大方針無キノ謂也

ト疑ヒ、其耳ニセル三十二年当時ノ商店ト四年後ナル今日ノ現状トヲ比較対照シテ窺カニ大方針アル推移ナルヤ否ヲ疑フヲ説キ、濠洲商品ノ大宗タル羊毛ノ受托買次ト牛莊貿易ノ骨子タル豆粕ノ見越売買トヲ兼營スルガ如キ不權衡極マル事實モ無主義ヨリ来レル一現象ニ非ルカト論シ

四困ノ事實ハ商店大方針ノ存否如何ヲ判スルニ苦シマシム、蓋シ大主義之レ有ランモ其光明ハ不動性ニ非ズシテ明滅常ナラザルモノナラン、而シテ其由テ来ル所ハ店長ト支配人トノ性格ノ懸隔セルニ在リ

ト断シ、商店開業以來既ニ十数年養成セラレタル人物モ少ナカラザルベク、殊ニシドニー支配人モ帰朝中ナレバ既ニ献言アランモ、其所思ヲ尽サシメラレンコトヲ希フ旨ヲ加へ、更ラニ

- 一、營業ハ凡テ Commission basis ニ於テ之ヲ行フ
 - 二、取扱商品ハ種類ヲ撰択シ敢テ多キヲ望マズ
 - 三、部制ヲ全廢シ、相補融通セシム
 - 四、店員ヲ小数ニ止メテ重ク任シ、他ハ等外員ニテ補フ
 - 五、形式ヲ避ケ簡單明確ヲ期ス
- ノ愚案五則ヲ加ヘ、夫々其理由ヲ附記シタリ

原支配人ノ牛莊出張

原本店支配人ハ此年十一月中旬發長崎及牛莊へ出張、往復共約一ヶ月ニシテ十二月上旬帰任シタルガ、前田ノ出張ヨリ一年振りニ同地ノ近況ヲ視察シ、出張所ノ実績ヲ挙ゲ、予テノ其主張タル北清貿易ノ有利ナル發展ヲ期スルノ目的ニ外ナラズシテ、其後数月ナラズシテ實現シタル牛莊出張所ノ引揚ケトハ固ヨリ何等ノ関聯ナカリシコト勿論ナリトス

当年ノ海外電信量

此年度ノ商店日濠間ノ電信往復量ハ神戸発八十余通千語弱、シドニー発六十余通八百語弱、發着合計百四十五通千八百語弱ニシテ、料金支払高四千數百円ナリ、之レヲ六七年前ニ比スレバ數倍セルモ、約廿年後ノ通數ハ千ヲ超エ語數ハ万ヲ以テ數フルニ比スレバ霄壤モ齎ナラズ

之ニ対シ此年度牛莊出張所トノ電信往復量ハ其料金ニ於テハ日濠間ト大差ナキモ、往復四百通ニ近ク語數四千ヲ超エタルニ見テモ、如何ニ此方面ノ取引ニ力ヲ注キ居リシカラ察スルニ足ラン

屠業雜貨ノ凋落、濠洲木材見本荷ノ試輸

牛骨・牛蹄・牛筋・膠原料・牛黃・膀胱等ノ屠業雜貨ハ時ニ互ニ盛衰アリト雖モ、之ヲ一括スルトキハ創業以來常ニ商店ノ重要輸入品タル位置ヲ失ハズ、殊ニ利益率ハ他品ニ比シ遙カニ高ク為メニ収支決算上特ニ重要ノ地位ヲ占メ、三十二年乃至三十五年ノ四ケ年間ノ如キハ収利年一萬円ヲ上下シテ商品別収益ノ首位ヲ争フ程ナリシニ、前年濠洲大旱害ノ後ヲ承ケタル当年ハ供給量ノ大減退ヲ示シタル上、雜輩小商人ノ競争頓ニ加ハリ、產地ノ肉工場ハ漸次従来ノ示談売約ヲ避ケテ競争入札法ニ移リ、阪神ノ売場ニ於テモ亦競争ノ度ヲ加ヘタレハ利益率モ亦急落シタルノミナラズ、膠原料ノ売行確ト止マル（燐寸等不振ノ為メニ製膠市場荷□ノ結果）アリ、本年ノ利益結局僅々五百円ハ論外トスルモ尔後遂ニ往年ノ倂ヲ留メザル憾アリ、此凋落ニ引換ヘ、本年初メテ見本荷約二千円ヲ試輸シタル濠洲木材ハ、努力兩三年ニシテ寧ロ予期以上ノ美果ヲ結び、日露役

戦勝後ノ数年間ハ商店ノ為メニ重要ナル収源トナリタリ

年度対濠取引（輸出ハ豆油ニ勢ヲ得稍増進セシモ、輸入ハ遂ニ廿五万円ニ減ジ）四十二万円ノ慘

本年ノ対濠貿易ハ

輸出ニ於テハ精米四百余屯五万余円ハ昨年ト大差ナク、落花生ノ一万円、魚油ノ八千円、樟腦ノ五千円ヲ始メ、刷子・生姜・板紙・鞣シ皮・燐寸・花莖・紙卷蓆・寒天・コツピー帳・其他数品ノ数百円乃至三四千円委託品ノ取合セ四五千円ハ何等ノ特筆ヲ要セザルニ、店祖土産案ノ一タル Towel ガ漸ク試輸時代ニ進ミテ、下半年ニ於テ二千五百打七千円弱ヲ輸出金額ニ加ヘタルト、其二タル牛莊豆油ノ神戸積替再輸ガ昨年ニ引続キ彼地牛脂相場ノ騰貴ニ乗ジテ益佳境ニ入り、本年扱高三百数十屯六万円弱ヲ以テ忽チ当店輸出品ノ首位ニ上リ独り氣ヲ吐ケルアリテ、為メニ本年ノ輸出総数高ハ十七万円ニ垂ントシテ昨年ノ金額ニ一半ヲ加ヘタルモ

輸入ニ在リテハ

羊毛ハ廿万ポンド八万五千円前後ニ停頓シ、Tallow 八百七十屯四万七千円、諸肥料ハ五百五十屯四万四千円ト稍増加セルモ、屠業雜貨ハ別項ノ如ク約半減シテ貳百五十屯三万余円ニ慘落シ、Oleine 油亦滯貨ノ一掃ヲ期シタル結果八十屯二万七千円ニ減シ、Cokes ノ百屯二千円ガ同品ノ復活ヲ感セシメ、木材ノ試輸二千円ガ別項ノ如ク望ミヲ将来ニ属セシムルアルモ輸入総頓數千二百五十屯金額（運賃陸揚費及輸入税迄含ミテ）廿五万円ニ充タズ

輸出入ヲ通算シテ僅々四十二万円正ニ絶後ノ慘況ヲ呈シタリ

北清貿易ハ商量愈多ク（年度輸出入合計百廿五万円ニ上ルモ）
徒ラニ損失ヲ加フ

轉ジテ北清貿易ノ経過ヲ見ルニ

輸出ハ綿糸千六百五十俵十六七万円、委託綿布千五百俵十一二万円、委託冰糖三千担一万五六千円、麦酒千百箱一万円ヲ始め、燐寸・石鹼等凡テ昨年ト大差ナク、総額三十二万円ニ近く、其収支モ先ツ平調ナリシガ

輸入ハ新ニ小麦ヲ加ヘテ四千五六百屯三十二万余円ヲ以テ首位ヲ占メ、豆粕ノ三十一万円、大豆ノ十二万円、粟ノ九万円、米ノ六万円、小豆ノ一万五千円、カストル油及柞蚕糸ノ各四千元等総金額九十三四万円ヲ以テ昨年ニ倍シタルモ、粟・柞蚕糸・米ノ三品ニテハ六七千円ヲ利シタルモ、豆粕ハ為替相場ノ悪變ヲ主因トシテ九千円、小麦ハ予算ヲ逸セシ斤量ノ大欠減ニヨリテ三千余円、

其他大豆・小豆等夫々数百円ヲ損シタレバ

輸出入通算百廿五万円ノ取引ニ対シ、牛莊出張所経費ノミヲ加ヘテ、内外ノ損失恰カモ一万二千五百円即商買高ノ $\frac{1}{100}$ ニ上リ、愈以テ見込商買ノ失敗ヲ暴露シタリ

鈴鹿東京支店長囑托ノ努力ニヨル内地売買好収益モ水ノ泡
年度収支絶後ノ大欠損一万四千円

一昨年ノ大恐慌ノ余波我毛織業界ノ先覚後藤氏ノ工場ハ又々整理ヲ余儀ナクサレ、我鈴鹿東京支店長囑托ハ其処分原料・製品等ノ仲次ニ努力シテ数千円ノ好収ヲ挙ゲ、為メニ当年ノ商店内地売買総益ハ八千円ニ近キ空前ノ巨額ヲ算シタルモ、何分対濠貿易ハ前項ノ如ク不振ノ極ニ陥リ、北清貿易亦空前ノ巨損ヲ来シタルコトトテ到底其大勢ヲ支フ可クモアラズ、本店ハ東京支店及牛莊出張所ト通算シテ別表ノ通り一万四千円ヲ超ユルノ大欠損ニ終リタリ
尤モ、シドニー支店ハ一般ノ不振ニ拘ラズ豆油ノ好収ニ助ケラレテ僅少乍ラ二百£弱ノ年度益ヲ挙ゲタリト雖モ、之レ亦同店前年度繰越損金ノ一半ヲ補填シ得タルニ止マリ、本店ノ窮蹙ヲ補フ可クモアラズ

年度収支概表

〔表2参照〕

〈表2〉明治36年度 収支概表

明治三十六（一九〇三）年

対濠輸出入損益内容			対北清貿易損益内容		
Oleine	益	5,900	豆粕	損	9,000
Tallow	〃	3,600	小麦	〃	3,300
Wool	〃	3,300	小豆	〃	650
肥料	〃	2,000	大豆	〃	400
屠業雑貨	〃	1,950	豆油其他	〃	300
木材	〃	350	小計		13,650
Cokes	〃	300	粟	益 3,600	} 6,850
其他	〃	350	柞蚕糸	〃 2,000	
小計		17,750	米	〃 1,000	
椰子油	損 3,600	} 4,200	カストル油	〃 250	
其他諸品	損 600		差引		6,800
差引濠入純益		13,550	輸出品	損	650
対濠輸出収入		2,650	対北清輸出入総損		7,450
計対濠輸出入益		16,200	牛荘出張所経費及損失		5,000
			計北清貿易年度損		12,450

経費内容		年度損益概括表		
利息	9,500	上表濠洲輸出入益	¥16,200	
本店俸給	8,000	上表北清貿易年度損	12,450	
〃 税金	1,500	差引貿易業利益	3,750	
〃 旅費	1,000	内地売買益	} 7,650	
〃 諸雑費	5,000	本店		2,550
小計	25,000	東京支店	5,100	
東京支店経費	2,600	合計	営業益	11,400
日本側総経費	27,600	家屋倉庫賃貸料		1,350
		有価証券差益		100
		雑益		650
		以上総益		¥13,500
		左表総経費		¥27,600
		上記総益		13,500
		差引年度純損		¥14,100

原支配人陳情及意見書ヲ提出ス

續イテ他ノ勸告ニヨリテ進退伺書ヲ差出ス

定例ニヨリ十二月廿五日ヲ以テメ切りタル本年度業績數字ガ判明シタル機会ヲ以テ、同月廿七日支配人原ハ陳情及意見書一封ヲ店祖ニ提出シタルガ、同三十日更ラニ進退伺書ヲ差出シタリ陳情及意見書ノ要旨ハ

明鑑ヲ蒙リ、重任ニ当リ、適當ナル配裁ノ下ニ斯業成功ノ半途ニ達セシニ当リ、不肖ノ支配輕挙盲進ノ為メ先年來失敗ヲ重ネ商店ヲシテ大改革ノ止ムナキニ至ラシメシハ、此重任ニ對シ不肖ノ學識・知能・思慮等ノ不足ニ因スルモノ多ク、今次ノ改革ニ當リ如何ナル決定ニ到達セラ
ル、トモ、嚴ニ御指定ヲ格守シ再ビ前轍ヲ踏マザルヲ期シ、誠意一貫只管店運ノ回復ニ努力ス
ベク、過去ノ失敗ハ信用ノ失墜ヲ來セルヲ自覺スルモ決シテ自暴自棄セズ、多年信認ヲ得タル

責務ニ対シ水火モ固ヨリ辞セザル精神ナリ、或ハ其任ニ適セズト認メラレ又ハ回復精神ノミ旺盛ナルモ採テ成功ノ資ニ供スルニ足ラズト認メラレシニハ自滅ノ外ナキコトト觀念セルモ、過去ノ失敗ノ經驗ヲ将来ノ進退ニ資セシメ、当初ノ信認ヲ以テ事ニ当ラシメラレンニハ幸之レニ過ギス

トノ意ニシテ改革意見トシテハ

- 一、根本改革ヲ要スル事
- 一、日濠貿易ノ外、断シテ經營セザル事

但シ牛莊貿易ノミハ過般ノ多数説（前田註、此多数説ナルモノ不詳）ニ従フベキ事

- 一、本店ハ三名、各支店ハ一名ニ組合員ノ資格ヲ与ヘ合名の組織トスベキコト
- 一、従務員ヲ可成少数ニ止メ店則制度ヲ完全ニシ失費ヲ避ク可キ事
- 一、不動産ハ不取敢特別会計トシ、時宜ヲ見テ全部売却断行スベキ事
- 一、情実の弊害ヲ除去スベキ事

ノ六項ヲ挙ゲタルガ進退伺書ノ要旨ハ

殆ンド創業ノ当初ヨリ十四年（前田註、実ハ十三年ナリ）誠心誠意店務ニ従ヒ、不肖ナガラ店長ノ指揮宜敷ヲ得テ店運漸ク拡充素志ノ一半ヲ遂ゲシニ乘シ明治三十年來種々ノ業務ヲ擴張シ、先年ノ恐慌ニ遭遇シテ商店ノ興廢ヲ憂ヘシメ、僅カニ店長ノ信望ニヨリテ正金ノ救済ヲ受ケタ

ル折柄、輕拳北清貿易ノ危険ヲ冒シテ損失ヲ招キ、再ビ店長ヲ煩シ且保護銀行ヲシテ危惧ノ念ヲ醸サシムルニ至リテ一層ノ注意ヲ促カサレ、本年初頭踏ムベキ軌道ヲ示サレ其覺書ニ調印セシニ拘ラズ、再ビ北清貿易ニ深入リシ尠カラザル欠損ヲ醸生セシハ、不肖經營ノ宜敷ヲ得ザル結果ニ外ナラズシテ責任上不肖ノ進退ニ関スルコト勿論ナルモ、事茲ニ至リシハ專心回復ヲ図ルノ急ニシテ熱誠遂ニ軌ヲ脱シタルモノニシテ、献身店業ニ従事セル以上事業ト生死ヲ共ニスルノ決心ナリシモ、責任ノ帰スル所ヲ以テ本書ヲ呈シ進退伺上クルニ付可然処断ヲ乞フ

ト言フニ在リテ聊カ煮エ切ラザル文意ナルガ、元々陳情書提出後僅々三日ニシテ又々本書ヲ提出シタルコト專ラ鈴鹿氏ガ支配人四囲ノ空氣ヲ察シテ窃カニ勸告大ニ努ムル所アリ、為メニ支配人モ進マヌ乍ラ之レヲ提出シタルモノ、如シ

年末賞与金絶対廃止ノ年

明治三十三年ノ業蹟ハ既ニ致命の大欠損ニ終リ、三十四年亦大手術ヲ遂ゲテ空前ノ減資ヲ断行スルガ如キ惨況ニ終リタルニ拘ラズ、其部下ヲ遇スルニ厚キ店祖ハ右兩年共猶幾分ノ金額ヲ捻出シテ店員等ニ幾分ノ年末賞与金ヲ分配シ、瑕疵一掃後ノ三十五年亦収支欠損ヲ示スニ及ビテハ遂ニ賞与金支出ノ名義ニ窮シ、処分ニハ表出セザリシト雖モ猶窃カニ翌年度仮勘定ヲ以テ千数百円ヲ支出シ以テ店員等ニ餅搗料ヲ頒給シタルガ、重ネテ当年ノ巨損ニ遭フテハ流石ノ店祖モ亦如何トモスル無ク、此年末ニ限りテハ遂ニ賞与金又ハ類似支給ヲ絶対全廃シタリ

如此ハ過グル約十年曾テ無キ所ニシテ且絶後ノ事ニ属ス

正金銀行ニ対スル年末ノ營業報告、附前途ノ方針

年頭ノ予想ガ根底ヨリ覆リタル本年度業績ヲ正金銀行ニ報告スルニ当リ衷心ノ苦惱甚ダシキモノ
アリシヤ誠ニ察スルニ難カラザル所ナルガ、該報告書ニ於テハ

一万四千余円ノ巨損ヲ、(1) 豆粕取引ニ対スル為替相場ノ遽変、(2) 北清輸入雜穀ノ意外ノ
欠斤、(3) 北清輸出燐寸ノ不発火、(4) 前年濠洲大旱害ノ余波本業濠洲貿易ノ不振ノ四因ニ
歸スベキヲ簡單ニ述ベ

濠洲方面ノ取引ハ専ラ従来ノ方針ヲ厳守シ一層正確ニ經營スベク、現二次年一二三月ニ着スヘキ
三船ノ積荷ヲ全部約定済トシテ其収益一万数千円ノ予算ナルコトヲ述ベテ、先ヅ債主ノ不安ヲ和
ゲ
牛莊方面ノ取引ハ過去ノ經驗ニ鑑ミ委託売買ヲ本領トシ、自己計算ノ取引ハ斷然停止スベキコト

ヲ盟ヒ

店務ノ管理ニ就テハ制度ヲ改メ冗費ヲ省クハ勿論、從來多ク支配人ノ專決ニ委シタルモノアリシモ、改年ト共ニ店主自ラ諸般ノ商務ヲ処理スル事ヲ約シ

不動産ニ関シテハ從來ノ決意ニ従ヒ多少低価ニテモ買手有リ次第全部売却債務ヲ完済スベキヲ宣明シ

三十七年度ノ支出予算ハ、本店ノ給料利払其他一切ノ経費二万円、シドニー支店総経費八千五百円、東京支店同上二千五百円、外二千五百円ヲ加ヘ総計三万三千五百円ノ範囲内ニテ精々節約ヲ期スベキコトヲ附加シタリ

明治三十七（一九〇四）年

四方及前田ニ副支配人心得ヲ命ズ、前田請ケズ

此年初頭四方・前田兩人ヲ副支配人心得ニ任ズ、前田書ヲ裁シテ之レヲ請ケズ、辭令ヲ返上シテ曰ク、今ヤ商店ハ内外本支店ヲ通シテ店員ノ数僅カニ廿余名ノミ、而シテ本店ニ正副支配人有リ、シドニー支店又支配人ヲ有ス、更ニ副支配人心得ヲ任命センカ、支配人級徒ラニ多クシテ支配人タラザル店員愈少ナキノ奇觀ヲ呈セン、自分ハ平店員ニテ充分ナリト

商事裁定録ヲ備ヘ付ク、卷頭ノ規定

商店創業以来日誌ノ設ケアリテ、明治三十年前後迄ハ兎モ角モ記入継続セラレ、其後モ聊カ断続的ナガラ三十四五年ニ及ビタルモ、天候ノ晴雨、人ノ出入往来、荷為替ノ受払、郵便ノ差立等多ク些事ヲ載セタル所謂庶務日記ニ過ギザリシガ、昨年ノ業績不良ニ鑑ミ、今後ハ店祖親シク重要ナル商務ヲ裁決スルコトヲ決シ、正金銀行ニ対シテモ之ヲ宣明シタル結果、今年頭新タニ商事裁定録ヲ備ヘ、重要ナル商務ハ支配人・主任者等交ニ日ヲ追フテ之レヲ記入シ、店祖一々之レニ檢印シテ記録ヲ存スルノ制ヲ起シ、続行ニケ年三十八年十二月ニ至リシガ、三十九年以後ハ廢セラレタリ

店祖ガ其卷頭ニ録セシメタル規定ニ曰ク

一 裁定シタル商事ハ其大要ヲ此簿冊ニ記載シ、店長・正副支配人及主任者之ニ捺印シテ商事ノ関

係ヲ知悉スルモノトス

一 店長在店ノ間ハ、重要商事ハ正副支配人及主任者ノ所思ヲ聞キ、店長躬ラ直裁決定スベシ

一 店長不在中ハ正副支配人及主任者ト反覆協議ノ上決定スベシ

但シ重要ノ件ニシテ即時決定ヲ要セザルモノハ店長出先ニ發電シテ裁定ヲ求ムベシ、然レドモ
外国ニ旅行シタルトキハ此限ニ非ズ

一 此裁定録ハ商事ノ秘密ヲ要スルニツキ、店長・正副支配人及其主任者限り之レヲ閲読スルモノ
トシテ大切ニ保管ス可シ
右ノ通り規定ス

明治三十七年一月四日

店主 兼松房次郎

裁定録ニ附記セル店祖ノ戒辭―不磨ノ金言

店祖ハ商事裁定録卷頭規定ノ外、更ラニ戒辭ヲ録セシメテ曰ク

一、商事ヲ断ズルハ心ヲ平カニシ、其利害得失ノ在ル所ヲ推思、詮考シテ決定スル事ヲ要ス

一、商事ハ安固ヲ旨トシ、仮初ニモ輕拳危険ノ範圍内ニ進入スルコトヲ禁ズ

一、商事上其利益ヲカナグリ取ラント敢テスルモノハ、却テ掌中ノモノヲ取り去ラル、ナリ、決シテ焦心ルベカラズ

一、総テノ取引ハ忠実ナルヲ要ス、其利益ノ如キ敢テ多キヲ貪リ嫌棄セラル、事ヲ避ケ、正当ニ薄利ヲ受ケテ永遠ノ取引ヲ持續セン事ヲ努ムベシ

一、商事ニ関スル通信ハ簡明ニシテ亦粗漫ナラザルコトニ注意シ、其返書ノ如キハ速ニ發送スルヲ要ス

一、新規取引ヲ開始スル商人ノ身元ヲ調査シ、総テ確實ヲ本旨トシテ關係ヲ結絡スベシ、輕挙妄
信ヲ戒ム

ト、流石ニ多年苦験ノ結論單リ当時ニ対スル愷切ナル訓言タリシノミナラズ、永劫不磨ノ金言タ
ラズンバアラズ、特ニ平心断事ノ一句意深長無限

帝国ノ対露宣戦

昨秋以来我經濟界ヲシテ疑惧ノ境ニ陥ラシメタル日露間ノ外交局面ハ漸次險惡ノ度ヲ加へ、本年
初頭我政府ハ防禦海面令・鉄道軍事供用令等ヲ発スルニ至リ、開戦ノ遂ニ免ル可ラザルヲ思ハシ
メ、株式市場忽チ先ヅ氣崩レヲ示セシガ、二月五日ニ至リ帝国政府ハ断然国交断絶ノ通牒ヲ露国
ニ發送シテ即時軍事行動ヲ開始シタルモノ即チ所謂日露戦争ニシテ、十年前ノ征清ノ役ノ如キ容
易ノ事業ニハ非ザリシモ、我ガ海軍ハ迅速ナル襲撃ヲ以テ開戦劈頭先ヅ東洋ノ制海権ヲ我レニ収
メ、翌三十八年年頭ニハ堅墨旅順ノ開城トナリ、三月上旬奉天ノ大捷ニ引続キ、五月下旬日本海
ノ大海戦ニ於テハ遠来ノ波羅的艦隊ヲ粉碎シテ、皇軍大捷ノ戦役ハ茲ニ其終局ニ近ヅキ、同年九
月遂ニ成立セル講和条約ハ国民一部ノ大失望ヲ招キシモ、帝国ノ世界的地位ハ此役ニ至リテ著シ
ク高メラレ、正ニ一等国ヲ以テ目セラル、ニ至リタリ

東京支店一時三重セメント代理店ヲ引受ク

三十四年ノ恐慌後ノ景氣ハ容易ニ恢復セズ、業界一般ニ不況ノ中ニモ建築界ハ特ニ不振ノ為メ、セメント製造業ハ多ク甚ダシキ難境ニ立チシガ、三重セメント会社モ亦其一ニシテ販路開拓ノ為メ其東京代理店ヲ引受方支店ヘ懇請シ来レリ

商店亦三四年來欠損ヲ重ネ来リ、危険無キ限り収入ノ助ケトナルコトハ敢テ何物ヲモ辞セザル程ノ立場ナリシカバ、其代理店ハ名義ノミニシテ販売等ノ当務者ハ会社ヨリ派遣シ来ルノ条件ヲ以テ年初之レヲ引受ケ、当年中二千数百円ノ手数料（実ハ名義料ナリ）収入ヲ見タルモ、戦役ノ為メ商店ノ本業ハ益多端ナルニ、同社ハ財政愈不如意ニシテ累ノ及ボシ来ル恐ナシトセザル形勢ヲ看取シ、事実上本年一杯ニテ其關係ヲ絶チタリ

⑤板紙全濠一手販売ヲ特約ス

従来ダンピングノ目的ヲ以テ一手特約ノ名ノ下ニ、富士製紙会社其他ノ製出ニ係ル板紙ノ対濠輸出ヲ取扱ヒ来リシモ、兎角一手ノ励行ヲ見ズシテ成績亦挙ラザリシガ、近時各製紙会社ノ合同的販売機関トシテ日本洋紙会社ノ成立ヲ見、其梶川支配人濠洲ヲ視察シテ此年二月末帰朝セシニ際シ、シドニー支店及ビ本店ニテ改メテ同社トノ間ニ日本板紙会社製品輸出ノ特約ヲ締結シタルガ、建値ハ紙ノ目附如何ニヨリ差等アルモ、船積渡シ一屯ニ付四十円乃至四十五円トシ、猶輸出年額三百屯以上ハ5%、最高一千屯以上ハ20%ノ範圍ニテ階級的割引ノ制ヲ定メタリ、尔来多少ノ変遷裡ニ此特約關係ハ七八年間存続セシモ、遂ニ格別香バシキ成績ヲ挙グルニ至ラズシテ止ミタリ

E&A 会社ト輸出運賃割戻ノ特約ヲ結ブ、附運賃率

郵船廢航中ノ応急策トシテ北村帰朝中其衝ニ当リ、ハ其輸出貨物ヲ専ラ E&A 船ニ積ムベク、
E&A ハ ニ対シ Current Rate ノ 10% ヲ割戻スコトノ約成リタルハ此年四月ノコトニ属シ、
特ニ期限ヲ定ムル所無カリシガ、翌年郵船ノ就航再開ニ及ビテ此特約ハ自然消滅ニ歸シ、商店ノ
積荷ハ再ビ郵船ニ集中シタリ

成約當時ニ於ケル重要商品ノ Current Rate ハ、米 17/6、空瓶・魚油・燐寸 20/-、板紙 72/6、
Towel 其他箱モノ 27/6、落花生重量屯 70/- 等ナリ

对濠輸出本店手数料ノ改定

当年頭本店輸出手数料ノ改定ヲ行ヒ

品目	従前ノ率	改定率
Towel・瓶類・燐寸・寒天等	1%	2%
絹製品	2%	5%
合利類	5%	4%
大割簾	5%	3%

前表ノ通り二月積ヨリ実施シタルガ、此旧率ガ果シテ何年ヨリ行ハレ居リシヤ將又其以前ノ率ノ幾何ナリシヤハ詳カナラズ

商店支那貿易ノ終焉

牛莊出張所ハ日露戦争ノ結果トシテモ或ハ一時引揚グルノ止ムヲ得ザルニ至リシナランモ、商店ニ在リテハ、前項偶発ノ事情ニヨリ二人ノ同所詰員相次テ帰還シ共ニ解雇セラレタル結果、事実上ノ牛莊引払トナリ、且固ヨリ出張所撤廢ノ方針ガ予メ決セラレタル為メニハ非ルモ、後任者サヘモ考慮セラレザル内ニ本業濠洲貿易ハ急ニ繁忙ヲ来シタレバ、右牛莊ノ偶然的引払ハ幸ニモ商店ノ同方面取引ノ放棄トナリテ實現シ、又原ノ前年北清出張ノ際協定セル所ニ基キ、芝罘ノ清商順泰号ニ多少ノ氷槐ヲ順次委託積送り居リシ關係モ間モナク廢止シタレバ、茲ニ商店ノ対支那取引ハ全然終焉ヲ告ゲ、五年ニ亘ル累根幸ニシテ漸ク絶タル、ヲ見ル

但シ、橋本引揚時ニ於ケル牛莊出張所ノ对本店勘定借方尻金二千数百円ハ、之レニ対スル確實ナル資産皆無ノ状態ナルニ拘ラズ、本店亦填補ノ資源無之ヲ以テ日露役中ヲ通シ其假資産トシテ計

上シ置クノ糊塗策ヲ続ケ、翌三十八年末ノ決算巨利ヲ示スニ及ビテ漸ク之レヲ損失トシテ全然切落シタル始末ナリ

原支配人ノ休職、次デ辞任

原ハ旧臘末陳情書ニ引續キ進退伺書ヲ店租ニ呈シタルモ、新年來モ店務ニ当ルコト依然トシテ旧ノ如ク以テ三月末ニ及ビシガ、此間店租ハ鈴鹿氏并ニ帰朝中ノ北村等ト協議ヲ遂ゲタル結果、ナルベク四月一日ヲ以テ同支配人ニ休職ヲ命シ、休職給月五十円ト定メ、銀行等ノ取引ニ対スル代理署名ハ之レヲ四方ニ委任シタルガ、越テ七月十八日ニ至リ、其予テノ情願ニ依リ辞任退店ヲ承認スル旨沙汰シ、同人ハ新ニ独立取引開始ノ目的ヲ以テ八月北米ニ向ヒタリ

北村及古立各帰任ス

昨年八月初メテシドニ一ヨリ帰朝シタル北村ハ店祖ノ高等商策ニ参加協議セル外ハ、東西取引先ノ訪問、故旧トノ交歓等ノ為メ店舗ニ出勤勤務スルコトハ甚ダ稀ナリシガ、滞留十ヶ月ニ近ク新日本ノ視察ヲ遂ゲテ、此年五月末イースターン号ニテ単身シドニ一ニ帰任シ、六月末着濠シ其後二ヶ月ヲ経テ彼地出張中ナリシ古立ハ、戦時中偶々一航セシ八幡丸便ニテ八月末シドニ一発、九月末神戸ニ帰任シタリ

輸出部ノ振興ヲ策シテ遂ゲス

明治廿九年商店ノ輸出入商高初メテ三十万円ヲ超エ、翌三十年亦三十数万円ヲ算シタル頃ノ輸出入金高ハ略相匹敵シタルニ、尔來輸入高ハ毎年躍進シテ、三十三年ニハ八十万円ヲ超エ、三十四年ノ恐慌ニ際シテモ猶五十万円ニ近ク、三十五年ノ旱害ヲ以テスルモ猶三十数万円ヲ計上セルニ反シ、輸出ハ却テ連年減退ノ実ヲ示シ、三十四年ニハ十一万円ニ下リ、更ラニ三十五年ニハ辛フジテ十万円台ヲ支フルモ、此内金融策ノ為メニセル精米ノ輸入金高ヲ除ケバ、商買ノ為メノ輸出品ハ僅カニ年額五万円ヲ上下スルニ過ギズ、如此形勢ニ拘ラズ、依然トシテ鈴木・姉尾ノ両当局ニ全任放擲シ置カンカ、商店ノ輸出入業ハ遂ニ根絶ノ悲運ニ到達センモ測ル可ラズ、輸入ノ業ハ前田・入江等既ニ相当習熟シ、稲葉其他ノ補クルアリ、殊ニ鈴鹿囑托支店長ノ援助モ有之コトナレバ、之レ等当局ニ専任シ、古立ハ其主力ヲ注ギテ輸出振興ノ局ニ当ルコト大局上利益ナラントノ

説ハ、北村帰朝中深く了得セル所ニシテ、其任ニシドニ一ニ帰ルヤ同地ニテ之レヲ古立ニ説キ、古立亦之レヲ承引シ其実行ヲ約シテ帰朝シタルコトナレバ、帰朝直後ノ当分ハ此方針ニテ当務シタリシガ、輸出振興ノ如キハ短期間ニ其効果ヲ挙ゲ得ベキ性質ナラザルニ、輸入ハ戦局ノ影響ヲ受ケテ業務益多忙ニ赴キタレバ、古立ハ何時トモ無シニ殆ンド輸出ヲ放棄シ、輸入専務ニ復シ、斯クシテ輸出振興ノ第一次計画ハ何等ノ効果ヲ挙グルニ及バザル内ニ期待セラレタル当局古立ニ依リテ早くモ放棄セラレタリ

店員ノ従軍相踵グ

昨年八月入店以来久シカラズシテ商店ノ対清關係ハ次第ニ薄ラギ、商店ニ於ケル自己ノ前途ニ關シ竊カニ失望ヲ禁スル能ハザリシ秦ハ六月初頭商店ノ諒解ヲ得テ休職トナリ、陸軍通訳官トシテ先ヅ従軍シ、予備軍籍ニ在リシ少尉井垣ハ八月末、曹長橋本客員ハ十月ヲ以テ夫々召集ヲ受ケテ軍務ニ服セシガ、秦及橋本ハ遂ニ店務ニ復セズ、帰還ト共ニ店籍ヲ脱シタリ

猶四方ハ後備役年限臨時延長ノ結果、翌三十八年八月末看護卒トシテ留守隊ニ召集セラレシモ、在營僅ニ兩三月ニシテ解除セラレ復務シタリ

戰役ノ結果商店ノ業務大繁忙ヲ來タス

日露間ノ風雲愈急ナルヤ、御用船ノ内命ヲ受ケタル郵船会社ハ旧臘出帆ノ往航船ヲ最終トシテ一時濠洲航路ヲ廢シ、東濠及支那航業等ノ外船ハ時ヲ得顔ニ輸入賃率ノ引上ゲヲ決行シ、此年一月ニハ早クモ三十志ニ騰貴シタレバ、輸出入貨物特ニ輸入ハ space 卜賃率ノ兩点ヨリ多大ノ困難ヲ感ズルニ至リシガ、一方戰事保険料ハ開戰ニ先ツコト一ヶ月既ニ郵船 2%、外船 14% ヲ唱へ、其後漸次昂騰ヲ示セル折柄、我海軍ガ速カニ制海權ヲ収ムルニ及ビテ着々低落シ、二月末ニハ早クモ輸出貨物ニ對シテ其契約ヲ省略シ、輸入貨物モ亦統キテ同保險ヲ廢スルニ至リシモ、七月ニハ露艦三艘浦汐ヲ脱出シテ太平洋ニ出沒、商船ヲ脅威シ、忽チ外國船積荷ニ對シテスラ再ビ 2%・3% ヲ払フテ戰時保險ヲ契約スルノ必要ニ迫ラル、等ノ不時ノ障害アリ、殊ニ開戰前後ハ勿論、其後戰局順調ニ向ヒタル後ニ於テモ、邦家財力上ノ關係ヨリ正金銀行ハ其筋ノ内命ニヨリ

テ瀬次輸入信用状ノ発行ニ極度ノ制限ヲ加フル等、日清役当時ニハ全然遭遇セザリシ各種ノ障礙不利アリシニ拘ラズ、幸ニ商店ノ濠洲輸入品ハ羊毛・オリーン油・小麦・小麦粉・肥料等軍需品又ハ之レニ準スベキ品種ナレバ、信用状ノ發送等ニ於テハ常ニ格段ノ便宜ヲ与ヘラレ、運賃・保険料等ノ高率モ多ク介意スルノ要ナク、羊毛ハ季外ノ注文ニ追ハレ、皮革ノ取引モ一時活澁トナリ、殊ニ馬糧用トシテ大麦ノ大口約定成立スル等折柄ノ濠洲豊作ト相俟チテ商量頓ニ激増シ、茲ニ戦役ノ好影響ヲ蒙リテ明カニ店運挽回ノ第一歩ヲ踏ミタル感アリ

店祖以下総員極度ノ緊張―店運挽回戦

橋本・速水ノ解雇ハ牛莊貿易ノ廢絶ニヨリテ相殺シ得ベシト雖モ、三十四年ノ改革以來極度ニ減縮セラレタル従務員中、筆頭ノ原支配人ノ解任ニ引続キ、秦・井垣及橋本客員等相踵デ従軍シタル跡ノ本店トシテハ、濠洲ヨリ帰任匆匆ノ古立ノ外、苟クモ店員ト称スベキモノ四方・前田・鈴木・稲葉・妹尾ノ五名、東京支店ニ鈴木鹿囑托ノ外ニ入江・山本ノ兩名アルノミ、本店倉庫係淺野ノ死後ニハ先年蚕糸部廢止ノ際解雇セル松本ヲ再用シ、井垣ノ補充トシテハ十月末ニ至リ漸ク女子一名（岩田種子翌年一月辞ス）ヲ傭入レテ記帳ヲ補助セシメシノミナルニ、店務八月ト共ニ繁激ヲ加ヘ、且戰時ノ常トシテ平生手掛ケザル品物ノ商談乃至突発的事件ノ応急処理ヲ要スルモノ多ク、店祖以下総員ノ繁忙実ニ言外ニ在リシモ、国難ニ際シ挙国一致事ニ当ルノ精神ヲ以テ早出晚退ハ固ヨリ夜間休日モ問フ所ニ非ズ、屢打合セヲ重ネテ分担ノ責任ヲ明カニスルト共ニ、特ニ

輸入当局ノ如キハ勢ヒ東西ニ出張奔走ノ要アルガ故ニ、部ノ内外ヲ問ハズ相互融通代務ノ方法ヲ講ズル等所謂寢食ヲ忘レテ事ニ従フノ慨アリ

如此総員ノ緊張振りハ曾テ在ラザル所ニシテ、一面拳国国難ニ当ルト共ニ、此年ヨリ兩三年ニ亘ル拳店ノ奮闘振りハ正ニ店員トシテ店運挽回戦ニ従事スルノ目醒シサヲ示シタリ

店租市内ニ帰住ス

商店ノ大改革ニ当リ、店租ガ居ヲ郊外敏馬ノ手狭極マル借宅ニ移シテ既ニ三年有余、其不自由ハ敢テ意トセザルモ、年初来急ニ繁激ヲ加ヘタル店務ノ決裁ヲ親ラセル場合、遠隔ニシテ交通ノ利器ナキ（電車等ハ其頃ニハナカリシ）敏馬ノ住居ハ店租并ニ店員ノ不便実ニ言フベカラズ、幸ニシテ商店ノ業蹟亦聊カ面目ヲ改メントセルヲ以テ店租ハ此年九月央ヲ以テ居ヲ市内ニ復シ、布引通二丁目ニ手頃ノ借家ヲ物色シテ之ニ移ル、家賃月四十五円、而シテ諏訪山邸ガ月百廿円ニテ外人ニ賃貸サレアルコトハ依然タリ

店員給料ノ通達発表止ム

明治三十年尾形老人店庶務ヲ担当スルニ及ビ従務員漸増ノ実情ニ鑑ミタル結果、ナルベク本店ニテハ通達簿ヲ備へ、規定ノ改廃任免其他人事ノ異動訓令并ニ指図等ヲ店員ニ廻覽通達スルノ用ニ供セシモ、之レニヨリテ店員各自ノ給料ヲ発表スルコトハ無カリシヲ、三十三年橋本客員入りテ庶務ヲ囑托セラル、ニ及ビ、新規入店任命等ノ節ハ勿論給額改定ノ場合ニモ凡テ実額又ハ等級称ニヨリテ一々之レヲ通達発表シ来リシニ、同人今回応召従軍ノ結果店務ハ稲葉ノ兼掌ニ移リ、此時ヨリ給料発表ハ又々事実上廢セラレテ今日ニ及ベルガ、之レ等発表又ハ其廢止共ニ商店首脳部ニ於テ特ニ理由ノ存スルアリテ然リ取扱ハシメタルモノナルヤ否確カニ之レヲ知ルニ由ナキモ、恐ラクバ其時其時ノ当務者ノ取扱振リニ一任シタルモノガ時ヲ経ルニ從ヒテ自ラ慣習法ノ如クナリタルモノト察セララル

シドニー為替銀行ヲ N. Z. Bank ヨリ Union Bank ニ移ス

三十四年ノ改革以來商店ノ正金銀行ニ対スル要務ハ、原ハ鬼門ノ感アルニツキ、信用状發送請求
其他重要ノ件ハ凡テ店祖自ラ交渉ニ当リ居リシガ、濠洲ヨリノ輸入為替取組ニ関シテハ毎月一定
額ヲ限リテ一ケ年間有効ノモノヲ送付シ置キ、時々ノ不足ハ必要ニ応シテ隨時追加發送ヲ求ムル
ノ仕組ニテ、此定額ハ近時ハ月千五百ポトナリ居リシガ、正金銀行ニテハ従來之レ等信用状ハ輸
出為替ノ取立ト共ニ専ラ在シドニー Bank of New Zealand へ仕向ケ来リシニ、此年十二月初ニ至
リ、同行ヨリ突然 Sight 付ニテハ手形買取リニ応シ難キ旨電信シ来リシニツキ、正金銀行ニテ
ハ其不都合ヲ憤リ、直チニ我シドニー支店ヲシテ非公式ニ彼地 Union Bank 卜下交渉ヲ遂ゲシメ
満足ナリシ結果、尔後ノ信用状ハ専ラ Union Bank へ振向クルコト、ナリ、多年円満ニ継続シタ
リ

其 Bank of Australia へ再移セシハ遙カニ後年ノコトニ属ス

明治三十七（一九〇四）年

種馬・種牛ノ取扱

此年四月岡山県ヨリ Arshire 種牡牛二頭（価格合計約三千円ノ予算）ノ注文ヲ受ケ、商店種牛輸入ノ第三次ヲ成シタルガ、郵船廢航ノ為メ着荷ハ翌年初頭トナリシガ、此計畫者秋山同県技師ハ高橋氏ノ学友ニシテ、当店初回ノ輸入ヨリ尽力少ナカラズ、濠洲種牛ノ真価ヲ知悉シテノ起案ナレバ、此輸入ハ同県ノ産牛改良進歩ニ多大ノ貢獻ヲ為シタリ

又五月北村ノ帰任ト同船シテ渡濠シタル三浦奥羽種馬牧場長ハ、彼地ニテ種馬約廿頭ヲ購入シタルガ、中ニハ価一万数千円ノ駿足モアリ、輸入其他ノ一切ハ系統的御用商野澤組ノ扱ニ属セシモ、彼地ニ於ケル購入ハ実地ノ手腕上多ク我支店ノ取扱ニ係リタリ

Towel 及び硝子瓶ノ台頭ト豆油ノ全減

先年店祖渡濠ノ土産案タリシ Cotton Towel ノ輸出ハ、昨年上半マテハ研究時代タルノ觀アリシモ、後半ヨリハ試輸時代ニ入り、昨年ノ輸出高既ニ数千円ヲ算スルニ至リシガ、本年ニ入り戦争ノ結果綿糸相場ノ不振ニ乗シ、我製品ハ濠洲市場ニ於テ克クマンチェスター製品ト對抗スルヲ得、四五月ノ頃ニハ千打、千五百打ノ電信注文瀕到シ、連絡工場ノ製産力ヲ拡張シテ猶及バザルノ有様トナリ、結局当年ノ輸出高ハ參万打ニ近ク、船乗価額六万六七千円ニ上リ、一躍商店輸出品ノ首位ヲ占メタリ

又礦水用・麦酒用等硝子瓶ノ輸出ハ昨年来苦心計画中ナリシガ、ラムネ用ヲ主トシテ本年ハ二千余哥ノ輸出ヲ遂ゲ、金額九千余円ヲ以テ精米二次ギ忽チ商店輸出品ノ第三位ヲ贏チ得タルガ、如此新商品ガ着々成功ノ歩ヲ進ムルニ反シ、一昨年来ノ新重要輸出品タル

豆油ハ牛莊出張所ノ引揚ゲ濠洲牛脂供給ノ復活価値下落等ニヨリテ早クモ輸出取扱全滅ノ悲運ニ
逢着シタリ

Oleine ノ好収ト千住製絨所購入形式ノ變更

商店ガ Oleine 油ヲ初メテ試輸シタルハ明治三十一年ナリシガ、各毛織工場ニ勧誘試用ノ結果ハ頗ル良好ニシテ、三十二年ニハ早クモ五十屯ヲ輸入スルニ到リタルガ、千住製絨所亦之レヲ採用スルニ及ビテ三十三年ニハ需要高急増シ、三十四五六ノ三ヶ年平均輸入高ハ百五十屯ニ上リタリ、而シテ商店ガ依リテ収ムル所ノ利益平均年額八千余円ノ高率ヲ示セルハ、其製造元タル J. Kitchen & Sons L'd. ヨリ日本一手特約ヲ得タル關係ニモ因ルコトナレドモ、一ハ商店ノ生命トスル羊毛注文ヲ何等ノ設備モナク努力モ為サザル一二寵商ニ独占セラル、腹癒セノ意味モ加ハリテ、千住製絨所ノ随意契約購入ニ対シテハ商店ノ大精神ニ非常ナル手加減ヲ加ヘ多収ニ努メ来リシニ負フ所頗ル大ナラズトセズ

然ルニ、年初戦雲動クヤ製絨所ヨリハ続々トシテ大口ノ注文アリ、為メニ本年ノ商店 Oleine 輸

入総高ハ一躍三百七十屯ニ上リ、其収益一万四千円ヲ以テ品別収益表ノ首位ヲ上リ、遠ク羊毛以下諸品ノ収益高ヲ抜キタリト雖モ、数量増加ノ割合ニ利益ノ増加セザリシ所以ノモノハ、千住ニ於テモ本品ノ需要高急増ニ連レ購入ノ形式ヲ変更シ、従来ノ随意契約購入法ヲ棄テ、委托購入式方法ヲ採ルニ至リタル結果ニシテ、商店ハ其利害上其形式変更ノ実現ヲ遅ラシムルニ努メタルモ大勢抗シ難ク、八月末ニ至リ遂ニ応ジテ協定ヲ遂ゲ、尔後ハ原価ニ対スル^ハ_○ノ手数料ニテ委托ヲ受ケテ取扱フコトニ決定シタリ

滞貨整理其他ノ為メ利払ノ激減

三十四年項下既述ノ如ク改革後ノ商店資本五万円ハ実ハ名目ニ過ギズシテ、一片ノ反古紙ト撰ム所ナキ受取手形ノ外、之レニ該当スベキモノナキ無資力ナル実情ノ下ニ、内外支店・出張所ノ持荷ヲ賄フノミナラズ、本店ハ資力不相当ナル不動産ヲ有シ、且動モスレバ暴進ノ結果トシテ輸入商品ノ滞停屢十数万円ヲ算スル状態トテ、之レ等ニ要スル利子ノ負担ハ連年一万円前後ヲ上下スルノ有様ニテ昨年ニマデ及ビシモ、牛莊出張所ノ閉鎖ト前後シテ本店手持輸入品ヲ一掃処分シ、尔来堅実ナル營業方針ノ励行嚴守ハ克ク之レガ再發ヲ防ギタレバ、当年ノ利払高ハ忽チ二千五百円前後ニ減縮シ、翌三十八年ヨリハ資力ノ回復ト相俟チテ却テ幾分ノ差引収入ヲ見ルニ至リタリ

濠洲貿易專門ニ復セル年度商量再ビ百万円ニ近シ

支那貿易ヨリ絶縁シ濠洲專門ニ復シタル当年ノ商量ハ、輸出ニ在リテハ別項新參商品「Powel」ノ六万六七千円ヲ筆頭トシ、精米ハ二百余屯二万六千円ニ減ジテ第二位ニ下リ、硝子瓶ノ九千余円ニ次テ板紙ノ二百屯九千円弱ヲ示スアルモ、其他ハ落花生ノ廿五屯、硫黄ノ百屯、樟腦ノ五千ポンド等各三五千円、刷子類・鞣皮・魚油・大割簾・安全燐寸・簿葉紙・竹合利等各千円乃至三千円、其他寒天・生姜・陶磁器等ノ数百円ニテ、品種ハ相モ変ラズ多キモ何レモ出色ノモノ無ク、輸出総量千五百屯総価額約十五万円、向払運賃約千三百£ニシテ、「Powel」ノ急増ニ拘ラズ豆油全減ノ為メ却テ昨年ニ比シ二万余円ノ減少ヲ示セシモ、一方

輸入ニ在リテハ昨年来濠洲ノ順氣回復、豊牧作柄豊収ノ好影響ヲ受ケ、小麦ノ輸入復活ノ結果、年度同品輸入ハ産地原価一万千余£此斤量二千屯ヲ超エテ量ニ於テ首位ヲ占メ、馬糧用大麦ハ戰

時ノ新商品トシテ四千余£千屯ヲ以テ量之レニ次ギ、戦争直接ノ好影響ヲ受ケタル羊毛ハ一躍千二百五十俵三十五万ポンド買入原価一万八千余£ヲ以テ金額ニ於テ首位ヲ復シ、Tallow 及ビOlive ノ各三百六七十屯八千£、肥料ノ八百屯四千五百£、皮革ノ拾屯千£、Cokes ノ三百七十屯五百£等ハ亦何レモ戦争ノ好刺激ヲ受ケタルモノト見ルベク、屠業雜貨ハ百屯弱千余£ニ止マリシモ、Butter 及屠麻ノ各五百£ヲ算スルアリ、木材亦六十屯五百£弱ニ増進シ、年度輸入総量六千屯此シドニ一原価六万二千五百£、輸入運賃支払高ハ六千£ニ垂ントシ、税濟陸揚総価ハ八十万円ヲ超エ、三十三年ノ記録タル総量八千余屯産地原価六万八千五百£ニ対照シテハ聊カ遜色アルモ、之レヲ前年ニ比スレバ、金額ニ於テハ三倍ヲ超エ、量ニ於テハ五倍ニ近く、實ニ素晴ラシキ恢復ヲ示シタリ、以上輸出入合計約九十五万円ニシテ商高ハ茲ニ五年振りニテ再び百万円ニ達セントシタルモノナリ

本業ニ復セル年度ノ收支亦漸ク面目ヲ改ム

年初偶然ニモ牛莊出張所ヲ撤シテ心機一転シ、明治三十三年以來商店ノ病根タリシ対清貿易ヨリ絶縁シ濠洲貿易ノ專業ニ復シタル折柄、僥倖ニモ日本ノ戰爭ト彼地ノ農作豊穰ト二重ノ天祐ヲ享受シタル商店ノ取引ハ、前項ノ如ク頓ニ増進シ、各品ノ收支亦頗ル順調ナリシカバ、數年來打続キタル欠損勘定ハ忽チ面目ヲ一新シテ久方振リニテ年度純益約二万八千円ヲ挙ゲ、前年來ノ繰越損失金ノ填補ヲ了シテ猶克ク一万余円ヲ剩シ得タリ
其收支概數ヲ表示スレバ左ノ如シ

〔表 3 参照〕

〈表3〉明治37年度 収支概表

明治三十七（一九〇四）年

濠洲輸入益明細			損益概括表	
Oleine	益	¥14,000	輸入総益左表ノ通り	¥45,600
Barley	〃	5,500	輸出手数料収入	2,400
Wheat	〃	5,200	内地売買益	1,200
Tallow	〃	5,200	東京支店セメント	
羊毛	〃	4,700	販売代理手数料	1,600
肥料	〃	4,100	以上合計	<u>50,800</u>
屠業雑貨	〃	2,500	支那商品残荷	1,300
小麦粉	〃	1,500	(柞蚕糸) 処分損失	
牛皮及製革	〃	1,900	差引営業益	<u>49,500</u>
木材	〃	800	倉庫家屋賃貸料	800
麻屑其他□引	〃	200	合計総益	<u>50,300</u>
合計		<u>¥45,600</u>	内雑損	800
			差引	<u>49,500</u>
			利息及経費左表ノ通り	<u>21,650</u>
			差引年度純益	<u>¥27,850</u>

利息及経費内容	
支払利息	2,500
本店俸給	7,250
本店課税	2,000
旅費	850
通信費	650
雑費	5,200
小計	<u>18,450</u>
東京支店経費	3,200
総計	<u>21,650</u>

シドニー支店亦好蹟、店祖再ビ店員ノ私借尻ヲ免除ス

シドニー支店ノ本年十月末ニ終ル一ケ年ノ成蹟モ亦頗ル良好ニシテ、対日輸出急増ノ為メニ其手数料収入ハ千六百£ニ近く、其輸入亦金額ノ敢テ多カラザルニ拘ラズ、*Wool*ノ好収ヲ中心トシテ利益八百£ヲ挙ゲ、兩者合計二千四百£ニ対シ総経費八百五十£ヲ以テ差引年度純益千五百五十£ヲ剩シ、前二年度ヨリ繰越損失残高二百£并ニ小売店閉鎖ニ伴フ損失尻四百£弱ヲ補填整理シテ差引純益九百五十£ヲ本店へ振替来リシガ、而カモ其資産ニ計上セル諸勘定中、北村四百£、大西百七十£、古立五十£弱、*Footie*三十£弱等ノ店員私借総計六百六十£ヲ算シタリシカバ、店祖ハ凡テ之レヲ免除シ、右振替来リシ利益金ヨリ補填シタレバ、純益ハ三百£余ニ減少シタルモ、支店ノ資産ハ初メテ堅実トナリタリ

純益処分ト積立金ノ再興、賞与金ノ復活支給

叙上本店過剩利益金一万千四百五十円、シドニー同上三千円、合計一万四千四百五十円ノ内八千円ヲ割キテ積立金勘定ヲ再興シ、三千八百余円ヲ滞貸準備金ニ充テ、三千六百余円ヲ店長及ビ従務員ノ賞与金トシテ処分シ以テ一時中絶シタル年末賞与ヲ復興シタルガ、其分配ノ跡ヲ見ルニ
北村・古立各五百円、四方・前田各三百円、入江二百五十円、大西・稲葉各二百円、鈴木・妹尾各五百五十円、井垣百円、山本七十五円等ニシテ、鈴鹿東京支店囑托ニハ三百円、橋本客員ニハ百廿五円ヲ頒チ、而シテ店租自ラ収ムル所ハ其剰余四百余円ノミナルコト例ニ因リ注目スベシ
従務員等モ之ヲ世間普通ノ考ヘ方ヨリスレバ、小人数ヲ以テ本年ノ激務ニ当リタルニ対シテハ此賞与ハ如何ニモ貧弱甚ダシキモノナルモ、店運挽回ノ事業確カニ其第一歩ヲ進メ得タルヲ見テ慶祝スルノ外又タ余念ナシ

シドニー支店総員ノ年末改給増額

北村帰朝中、店祖ト予メ協議シタル所ニ基クモノナルベク、此年クリスマスヲ以テ久々北村以下支店総員ノ増給ヲ沙汰シタルガ、其数字ハ翌三十八年初頭内外陣容ノ記事ニ譲リテ茲ニハ省略ス

明治三十八（一九〇五）年

古立ヲ支配人心得ニ、四方・前田ヲ副支配人ニ任ス

鈴鹿氏ノ東京支店長囑托ヲ解キ、入江ヲ支店長心得ニ任ス

古立以下数名ノ昇給

前年ノ決算ハ例年ヨリ五日ヲ繰上ゲ十二月廿日ヲ以テ締切リタル所、成績ハ既述ノ通り良好ニシテ、店内上下ヲ通ジテ初メテ数年来ノ愁眉ヲ開キタルガ、店祖ハ同月廿五日ヲ以テ其布引町ノ仮寓ニ数年振りノ賑ハシキ忘年会ヲ開キテ夫々賞与金ノ分配ヲ行ヒ、且本年一月一日付ヲ以テ古立・四方・前田・入江ノ四名ニ掲題ノ任命辞令ヲ交付シ、且右四名及山本ニ昇給ヲ沙汰シタリ
斯クテ東京支店ハ漸ク自立ノ境ニ入り、鈴鹿氏ニ対シテハ前ノ囑托ヲ解キ改メテ東京支店名譽相談役ヲ囑托シタリ

独逸船ノ日濠航路割込ト運賃昂騰

近年独逸ハ英国ニ對抗シテ世界ノ航路ニ其覇權ヲ争ハントシテ着々發展ノ計画ヲ進メツ、アリシガ、恰カモ日露開戦ノ結果、我郵船会社ガ一時廢航セシ虚ニ乘シ、北独逸ロイド会社ハ此年ノ初メモリ“Prinz Waldemar”、“Prinz Sigismund”及“Wille had”ノ二四千屯級船三艘ヲ以テ独領ニューギニー經由日本・濠洲間二月一回ノ定期航路ヲ開始シタルガ、輸入荷物輻湊船腹不足勝ノ折柄トテ着々其基礎ヲ固メ、E&A等ト協定シテ此年九月ヨリ輸出運賃率一般ニ10%ヲ引上ゲ、尔後毎月5%ヅ、累進引上ゲテ総計30%方ノ引上ゲヲ決定發表スルノ勢ヲ示セシガ、其後八年余欧洲大乱ノ突発ニヨリ遂ニ廢航シ、右諸船ハ賠償ノ一部トシテ聯合側ヘ没収セラル、ノ運命ニ陥リタリ

濠洲ヨリ軍馬ノ大購入事件

戦局ノ展開ニ従ヒ我軍憲ニテハ軍用馬匹ノ不足ヲ憂ヒ、濠洲ヨリ騎用・輓用各三千ノ新馬ヲ購入スルノ計画ヲ以テ外務省經由在シドニ帝國領事館ニ照会スル所アリタル旨ノ情報ト共ニ、騎用一頭十六£、輓馬同廿二£、運賃ハ各一頭十二£辺ニテ調達シ得ヘキ見込ヲシドニ支店ヨリ逸早く電信シ来リシハ昨三十七年十一月十日ニシテ、店祖ハ奉公ノ誠意ヲ以テ此購買輸入ノ任ニ当ラントシ、当局ニ運動ノ為メ接電即夕上京セシガ、恰カモ陸軍省騎兵課長ヨリモ店祖ノ上京ヲ求ムル旨十五日来電アリ、店祖直ニ登省ノ結果、騎輓各一千頭ニ付日本着備照会方秘密内命アリシ旨、東京ヨリノ電話ニ依リ本店ニテハ即夜詳細ヲ具シテ改メテシドニ支店ニ電照セシガ、戦時保険ヲ除キ£277/一及338/一ノ見積リ十七日返電着ニ付、店祖ハ之レガ引請方ニ付大ニ奔走スル所アリシモ議進マズ、同月廿八日遂ニ一応帰神シタリ

越テ本年一月初頭シドニ一支店ヨリハ三井物産淺野社員着濠各方面ニ奔走中ノ旨來電アリ、廿五日ニ至リ騎兵課長ヨリ再ビ上京ヲ電命シ來リタレバ、店祖ハ直ニ之ニ応ジテ會見セシニ、軍馬ノ購入ハ政府ノ直接購入ニ決シ、既ニ技師二名事務員一名着濠シ居ルニ付、総數一万頭ヲ二千頭宛五ヶ月ニ分割輸送スルモノトシテ輸送一切ノ費用ヲ見積ルベシトノ事ニ本店トシドニ一支店トノ間ニ再ビ長電ノ往復ヲ重ネ、二月三日戰時保險料ヲ除キ運賃諸費一頭£10/5/-ノ返電ヲ得、必成ヲ期シテ廻扱交渉ヲ続ケシニ、是亦八日ニ至リ当局ハ一切ヲ領事ト出張員トニ一任シタル旨宣明シ、店祖以下内外当局最近百日ニ亘ル多大ノ努力ト發着約二千円ニ上ル電信料トハ全然水泡ニ歸シタルノ歎アリシガ、右ノ状態ノ下ニシドニ一支店ニ於テ極力領事其他ニ運動シテ其一部二千頭丈ケハ彼地ニ於テ我官憲ヘ売込ミノ默契成立セシ趣、三月十三日支店ヨリ接電初メテ幾分ノ効果アリシヲ喜ビタリ

前文当局出張員中ノ事務員一人トハ即三井ノ淺野社員ニシテ、曩キニ三十三四年ノ交三井物産出張員トシテ渡航、在濠兩三年淺野個人ノ名ニテ事務所ヲ開キ、会社ノ為メニ硫黃其他ノ輸出売込商談ニ當リ、傍ラ小麦・鉛等ノ輸入取引ヲ調査シツ、アリシガ、時期尚早ト見テカ三井ニテハ此出張員ヲ撤シタルガ、偶々戰役ノ起ルニ際シ同人ヲ予備主計トシテ召集セラレ、三井ノ背景ト在濠ノ經驗トニヨリ撰マレテ此任ニ當リ、事實三井ノ為メニ大ニ努力シタルモノナリ

乱平グノ後、陸軍省ヨリ當時調査ノ慰勞トシテ金三百円ヲ店祖ニ贈リタレバ、店祖ハ之レニ追加

シテ某工ニ囑シ銀製軍馬ノ置物ヲ作り以テ本件ノ紀念トス、現ニ本店ニ保存セルモノ之レナリ

明治三十八（一九〇五）年

馬糧及皮革類ノ輸入、凍肉ハ不成功、石炭・精銅ハ調査ニ終ル

昨春ノ開戦後、商店ノ先ヅ着目セシハ大麦・燕麦・Oat Hay 等ノ馬糧類ニシテ、神速ニ見本荷ヲ輸入シ以テ来ルベキ商談ニ備ヘタルガ、Oat Hay 等ハ遂ニ商談ノ進ムニ至ラズ、燕麦亦屢成談ニ近ツキテ而カモ就ラザリシガ、大麦ノミハ東京深川ノ穀商岩崎・藤田・磯野三氏ノ戦時組合東三組ヲ主トシ、兵庫一二ノ御用商等ニ内地産品ニ混合用トシテ数次ノ商談成立シ、前年ヨリ当年ニ至リ通算二千屯ニ近キ輸入ヲ行ヒタルガ、前年ニハ船腹不足ノ為メ一部ノ積残リヲ生シテ大苦情ヲ惹起シ、本年ハ五六月着荷ノ分既ニ講和気分ノ漂ヒ初メシ為メ兵庫ノ約定先ニ於テ品質良好ニ過ギ、斤量ニ対シ榷目不足ストノ口実ノ下ニ故意ニ荷物ノ引取りヲ拒絶シ、不得止東三組ニ泣キ付キ転売スル等苦心尠ナカラザリシモ、結局好収ヲ得タリ

靴底皮ハ戦役ノ末期ニ至リ廿万ポンド近クノ大成約ヲ見相当ノ利益ヲ挙ゲタルモ、今日ヨリ之レ

ヲ見レバ、濠洲製革ノ大口輸入トシテハ之ヲ以テ同商品ノ為メニ最後ノ花ヲ飾リシ感アリテ、尔来本品ハ商店ノ取扱品目表ヨリ事実上消失シタリ、之レニ反シテ此年初メテ数千ポンドノ売行アリシ防寒用兔毛皮ハ後年軍事用トシテ時々纏リ注文ヲ見ルニ至レリ

又軍糧トシテノ需要旺盛ノ為メ暴騰シタル肉価調節ノ目的ヲ以テ、濠洲凍肉ノ輸入ヲ試ミタルモ成功セズ

石炭・精銅等ノ輸入モ亦前年ヨリ当年ニ跨リ調査研究ヲ重ネタルガ、何レモ試輸ヲ決スル丈ケノ見込立タズシテ止ミタリ

尤モ凍肉ハ三十二年一月春日丸ニテ一度見本ヲ取寄セ、東京いろは牛肉店等ニ試ミタルコトアルガ故ニ、今回ノ挙ハ第二次不成功ト称スルヲ適當トス

膠原料滯荷ノ倫敦再輸出分

屠業雜貨ノ一般の凋落ハ三十六年ノ項下ニ記述セル所ナルガ、同年比較的の多量ニ続々輸入セラレタル膠原料ハ、製膠市況不振ニ加ヘテ其品質製膠用ニ適セズトテ、直段ニ拘ラズ全然売行ヲ見ズシテ多量手持ノ俣越年ノ止ムヲ得ザルニ至リタレバ、昨三十七年ハ一切跡荷ノ輸入ヲ停止シテ一部ハ試ミニ倫敦ニ再輸出シ、他ハ専ラ売退キニ努メタルモ猶四百俵弱ヲ今年ニ持越シ、帳簿値段ノ大々の切り下げニ拘ラズ、猶昨年度末棚卸シ輸出入商品総価一万余円ノ一半弱ヲ占メタルガ、今年ニ入ルモ猶全然売行ナキヲ以テ四月末意ヲ決シ、倫敦ヘ一掃再輸出委託シテ六月末売却ヲ了シタルガ、僅カニ原価ノ三分ノ一ヲ回収シ得タルニ過ギズ、前年ノ減価銷却高ヲ通算スレバ実ニ数千円ノ大損失ニ終リタリ

如此一旦輸入シナガラ売却ノ目的ヲ果シ得ズシテ他国ニ再輸出分セシガ如キハ、実ニ商店空前ノ

コトニ属シタルハ勿論、其後十有六年大正九年恐慌ノ結果、翌十年南阿洗毛裾物千数百俵ヲ同シク倫敦へ再輸処分セル事実アルノミナルガ、将来商店ノ歴史ニ此挙ヲ三タビスル無カラシコトヲ望ムモノナリ

波羅的艦隊ノ東航ト戰事保險率ノ昂騰

前年七月浦汐ヲ脱出シテ太平洋ニ暴威ヲ振ヒシ露艦モ久シカラズシテ我海軍ノ勦滅スル所トナリタル以來ハ多ク戰事保險ノ必要ヲ見ズ、商店ハ時々四圍ノ狀況ニヨリテ進退シ居リシガ、本年四月ノ交ニハ波羅的海ヨリ遠來ノ露國艦隊遂ニ新嘉坡附近ニ見ハレタリトテ、料ハ突如トシテ昂騰シ、一時ハ外國船積荷スラ猶 $\frac{1}{2}$ %ノ唱ヲ見タルガ、結局当店ハ $23\frac{1}{4}$ %ヲ支払ヒタルヲ最高トシ、五月下旬對馬海峡ニ我東郷艦隊ノ一撃ニ遭ヒ全滅スルニ及ビテ、戰時危險料ハ忽チ nominal ノ低率ニ下リタリ

正金銀行取扱振りノ緩和ト大額信用状ノ続発

三十四年正金銀行ノ救済援助ニ依リテ辛フジテ没落ヲ免ガレテ以来時々ノ帳簿検閲各種ノ報告ハ勿論、輸入品ノ対濠注文ハ一々収支ノ予算ヲ告グルト共ニ売約先ヨリノ注文書ヲ具シテ正金ノ承認ヲ求メ、初メテ同行ヨリ信用状ノ發送ヲ得ルノ手續ハ今日ニ至ルモ固ヨリ引続キ実行セル所ナルモ、対清貿易絶縁ノ事実ト前年ノ好成绩トガ相俟チテ正金ノ手心ニ漸ク幾分ノ緩和ヲ来サシメ得タル趣無キニ非ズ

前年末濠洲ニ於ケル為替銀行ヲ変更シテ Union Bank ニ移シタル時ヨリ毎月定額一年据置有効式ノ信用状ハ之レヲ廢シ、十二月央第一回二万五千ノ信用状發送以來注文約定漸増ノ結果、本年二月初ニハ二万二千、三月中旬ニハ二万五千、更ラニ四月廿日ニハ三万五千ト瀬々巨額ノ信用状ガ左シタル支障ナク電送セラレ、営業当局ノ快心ト安意言フ可ラザルモノアリ

而シテ之レ等連発ノ金額ハ、商店ニ取りテハ一回ノ発行額トシテ実ニ毎回新記録ヲ作りツ、アリ
シナリ

原前支配人ニ行賞

原ハ商店創業後一年半ナラズシテ入店シ、初代ノ番頭古川ノ不首尾解雇ノ跡ヲ承ケ、店租第一ノ股肱トシテ熱心従務スルコト十有余年、只其自信力過度ナルガ為メ動モスレバ暴進ノ病アリ、明治三十年頃商店ノ業蹟漸ク挙ルヤ勢ニ乗ジテ極端ナル積極主義ヲ執リ、其多ク意外ナル大失敗ヲ来スヤ、又之レガ挽回ニ焦慮シテ益商店ヲ窮地ニ陥レタルノ責ヲ免カル、能ハズ、遂ニ前年上半其革職ヲ見ルニ至リシガ、其最後ノ決定ニ至ルマデ商店ヲ去ルハ其本意ニ非ザリシコト之レヲ窺フニ難カラズ、出処進退其宜シキヲ得ザルノ非難ハ免カレザランモ其裏情亦深く察スベキ所ナシトセズ

唯事ノ革職タルト而シテ其当時商店自身正ニ死活ノ刃端ニ立チ居リシ場合、流石ニ部下ニ厚キ店祖ヲ以テスルモ恩賞ノ手段全ク執ル可キモノナカリシガ、尔来一年商店ハ幸ニシテ確實ニ再生ノ

曙光ヲ認ムルニ至リタル折柄、原亦北米視察ヲ終ヘテ帰神シ、愈同方面トノ取引ノ歩ヲ進メントシ、資力ヲ要スルコト切ナリシニ際シタレバ、店祖ハ此年四月勤続賞与トシテ金六千円ヲ同人ニ追賞シタリ、實ニ當時商店總資力ノ10%ヲ超ユル大金ナリ

東京支店相住居ノ境涯ヲ脱シ、独立店舗ニ復ス

三十四年大改革ニ際シ、深川佐賀町二丁目所在鈴鹿肥料部店舗ノ一部ト住居用部トヲ分割占領シテ之レニ合併同居シ、家賃ノ節約ト共ニ鈴鹿氏ノ監督当務ニ便セシ、我東京支店ハ此年九月鈴鹿肥料部ガ事業拡張ノ結果同丁目所在地ノ店舗へ移転スルニ及ビ、止マリテ従来同店ノ使用セシ部分ヲ合併セテ使用スルコトトナリ、四ヶ年振リニ寄生の店舗営業ノ境ヲ脱シテ独立ノ事務所ヲ構ヘテ表通りニ其看板ヲ掲グルヲ得タリ、家賃月廿六円半

店祖漸ク居ヲ諏訪山邸ニ復ス

前年ノ業績初メテ面目ヲ改メ得ルニ引続キ、今年上半ノ形勢ハ更ラニ佳ナルモノアリ、店運挽回ノ胸算漸ク熟セル折柄、恰カモ諏訪山旧邸ノ賃貸期モ満了シタルヲ以テ此年九月末店祖ハ渡濠中ナリシモ、布引通りハ引払ハレ、居ヲ諏訪山旧邸ニ復サレタリ

曩ニ此処ヲ去リテヨリ正ニ四年余、不自由ナル陋居生活ヲ忍ンデ今日アルヲ得タル留守夫人ノ感察スルニ難カラズ

店祖ノ第八次渡濠——店祖最後ノ行（二重ノ喜劇）

店運ノ挽回モ漸ク確實ニ其端緒ニ就キタル折柄、時ノ千住製絨所長大竹博士近々渡濠ノ内定ヲ聞知シタル店祖ハ此機ヲ捉ヘテ多年ノ宿望タル製絨所原毛買次ノ端ヲ作ランコトヲ期シ、博士ニ先チ八月一日發 *Empire* 号便ヲ以テ渡濠十二月中旬帰神セシガ、此行店祖ガ貿易調査会ノ西川書記ヲ伴ヒタルハ、予テ店祖ガ神戸貿易調査会ヲ起シ、其中心トシテ神戸築港ノ議ヲ熱心提唱シ居リシ立場上、シドニー港湾ノ設備并ニ其 *Harbour Trust* ノ内容等ニ関シ充分ノ調査ヲ遂ゲンガ為メナリシナリ、然ルニ帰航ノ途店祖一行ガ偶木曜島ニ上陸中、発船ニ遅レ所謂着ノ身著ノ俣ニテ他船ニ乗継ギ、香港ニ到リテ漸ク前船ニ追及セシ喜劇ノ外ニ、本船 *Port Darwin* 寄港ノ際、一行ノ空室ヲ臨檢セシ税関吏ガシドニー港湾ノ詳細ナル図面等ヲ始メ多数ノ書類ノ存スルヲ見テ空室ノ主ヲ軍事探偵ナリト独断シテ聯邦政府ニ急電シ、店祖ノ知ラザル間ニ濠洲ノ新聞界ヲ賑ハシ

タルニ重喜劇ヲ生ミタルガ、凶ラザリキ此行遂ニ店祖最後ノ渡濠トナリ、其帰朝後屢葉餌ニ親シミタル店祖ハ其後七年有余ニシテ世ヲ去リ、且其一代記タル「兼松濠洲翁」カ此時ノ隨行者薇園西川君ニ依リテ編著セラレントハ

千住製絨所所用羊毛注文引受ノ素願初メテ達ス

商店創業当時ハ勿論、近年民間ノ毛織事業漸次發達シ来リシ後ト雖モ、依然本邦ニ於ケル拔群最大ノ羊毛消費工場タリシ千住製絨所々要原毛買次注文引受ニ関シテハ、多年店祖ノ努力至ラザル所ナカリシニ拘ラズ、十年ノ奔走殆ンド寸効無キノ故ヲ以テ近年ハ聊カ放任シテ機運ノ自ラ熟シ来ルヲ待ツノ姿ナリシコトハ、既ニ屢述ベタル所ナリ

然ルニ、前年対露宣戰ノコトアルヤ製絨所ハ其設備ノ拡張ニ努メ、且昼夜兼行其全力ヲ拵ゲテ作業ニ従事セルコトトテ原毛消費量ノ急増數倍セル事論ヲ俟タズ

於是乎、店祖ノ注視ヲ再ビ此大需要ニ集焦シ、不得止ム従来ノ特定納入者タル大倉組・福島組等ヲ排スルコトナク、両社ハ納入ヲ商店ハ買附ヲ夫々分担スル組織ノ下ニ三者ヲ聯合シテ買次納入ノ注文ヲ引受ケ、手数料ハ三者間ニ適宜協定分配シテ以テ両社ガ外商ニ支払ヒ来リシ手数料ヲ節

スルト同時ニ日本ノ注文ヲ一手ニ集メテ競市場ニ於ケル無益ノ競争ヲ減シ、且運賃保険料等ノ引下ゲニ努メンニハ為メ二千住製絨所ノ節スル所年額十萬円ニモ及バントテ、一月軍馬ノ件ニテ上京中此提案ヲ以テ勧誘ニ着手スルニ至リシモ、両社ノ之レヲ好マザルヲ見テ再ビ单独直進ノ策ニ復シ重ネテ濠洲羊毛市場ノ組織ト商店ノ人的設備市場資格等ヲ説キ、十數年来民間需要ノ大部分ヲ引受ケ、3%ノ手数料ヲ以テ純然タルコンミッションビザネストシテ誠実ニ取扱ヒ信頼ヲ受ケ居ル所以ヲ陳ベ、試ミニ需要ノ一部買次ノ注文下命アリタキ旨ノ願書ヲ一月末製絨所長并ニ陸軍經理局長ニ提出スル所アリシガ、当時恰カモ軍閥所長去リテ篤学真摯ノ人格者大竹工學博士新ニ同所長ニ任セラレ、果斷ニシテ事理ニ通ゼル頭腦明敏ノ士、阪口事務官入りテ之レヲ補佐スルニ至リシカバ、窃カニ形勢ノ有望ナルヲ思ハシメシガ、六月店祖上京ノ際当局ノ注意ニヨリ、更ラニシドニー支店開設以來最近ニ至ル滿十五ケ年間東京製絨会社ニ対スル二百四十萬ポンドヲ筆頭ニ民間諸工場ノ注文ニ対スル買次供給總量四百萬ポンドニ垂ントスル詳細ナル統計ヲ添ヘテ、重ネテ委托下命願ヲ差出スニ至リシガ、此時既ニ戦後軍備ノ擴張充實ニ応スベキ千住製絨所設備増大及ビ将来ノ經營策樹立ノ大任ヲ帯ビテ、大竹所長ガ濠洲并ニ欧米へ出張ノ事内定シ居リシモノ、如ク、店祖ハ前頃ノ通り八月初出發濠シ、大竹所長亦同月十五日神戸寄港独逸船 *St. Leonard* 号ニテ渡濠サレタルガ、彼地着後市場ノ実況并ニ商店ノ実力北村等ノ技倆等ヲ親シク査察ノ上、十月ニ至リ *Scoured* 羊毛二十五萬ポンド買次方ノ委托注文ハ遂ニシドニーニ於テ同所長ヨリ我

支店ニ發セラレ、拳店十五年来ノ素願茲ニ初メテ達セラレタレバ、商店ハ内外上下ヲ通シ歡喜極マル所ヲ知ラザリシガ、奚ソゾ知ラン製絨所ノ為メニ謀リテ忠ナル博士ノ此英斷ハ、却テ某方面ノ忌諱ニ触レ、他日其地位ニ累ヲ及ボスニ至ラントハ

猶改年ノ前後更ラニ同品六十万ポンドノ第二次注文シドニーニ於テ發セラレタリ

年度商量一躍倍加二百万円（輸出ハ不振八万円ニ減退、
輸入ハ小麦初メ諸品大商盛）

当年ノ対濠輸出ハ戰時物価高ノ影響モ加ハリ至テ不振ニシテ、首品ノ Towel ハ一万六千打四万円ニ減シテ猶輸出総額ノ過半ニ当リ、硝子瓶ハ三千五百哥一万円ト少シク増加セシモ、幸ニ無理ナル金融策ノ必要ナキニ至リシ結果、精米ノ輸出ハ之レヲ全廢シタレバ、外ニハ僅カニ魚油ノ五千円、刷子類・板紙・落花生・鞣皮等各三千円ヲ算スル位ノモノニテ、例ノ雜品少許ヲ加ヘテ輸出総量五百六拾屯 Ton 価七万八千円ニ過ギザリシモ

輸入ハ本年ニ入りテ戰時ノ好影響益著シク、彼地ノ豊作ト相俟チテ取扱高頓ニ加ハリ、小麦ノ八千数百屯六十五万円ヲ筆頭ニ、Tallow ノ八百六十屯廿三万円、肥料ノ三千四百屯廿一万円、大麦ノ千屯弱八万円、Oleane ノ三百廿五屯八万円、椰子油ノ百余屯三万五千円等アリ、羊毛ノ輸

入高八千八百俵三十二万円ニ近ク、靴底皮ノ輸入亦廿万ポンド十万円弱ヲ算シ、屠業雜貨ノ二百
余屯三万円、其他ヲ加ヘ輸入総量約一万五千屯着価総額百七十五万円ニ上リタレバ、前文輸出及
内地売買高ヲ通算スレバ、当年ノ商量ハ約二百万円ニシテ（対清貿易除外ノ立場ニ於テハ）遠ク
創業以來ノ記録ヲ破リタルヤ論ナシ

空前ノ年度巨益（内外通算九万余円）ニ商店正ニ再生ス

商量前項ノ如ク膨大シタル上、戦時ノ商買自ラ利益率モ平時ニ比シテハ余地多ク、殊ニ前年来極度ニ緊張セル堅実無比ノ營業方針ノ嚴守セラレテ、別項膠原料再輸出分ノ損失ガ屠業雜貨ノ収益ヲ喰込ミタル以外、一ノ見込品モ損勘定品モ無之コトトテ、結局日本側年度益ハ六万五千円ニ近キ巨額ヲ示シ、シドニー支店亦輸出手数料收入ノ急増ニ加ヘテ馬ノ利益モアリ旁二千八百円ノ巨益ヲ挙ゲタレバ、内外通算年度純益実ニ九万二千数百円トイフ予想外ノ好成績ヲ獲、最近数年間死活ノ堺線ヲ彷徨シ来リシ商店ノ再生茲ニ到リテ初メテ確實トナル
内外ノ収支概数ヲ表示スレバ左ノ如シ

〔表 4 参照〕

〈表4〉明治38年度 収支概表

明治三十八（一九〇五）年

輸入利益内容		総損益概括表	
Wheat	¥19,000	輸入商品益左表ノ通り	¥81,000
Tallow	13,000	輸出手数料 Towel 1,600	} 2,350
肥料	11,000	其他諸品 750	
羊毛	9,500	内地売買（確安）益	2,000
Oleine	8,700	以上総営業益	<u>¥85,350</u>
Sole leather	6,800	利息収支	4,200
Barley	4,900	家屋賃貸料	1,250
屠業雑貨	3,700	雑益	<u>700</u>
古金属	1,800	合計益金	¥91,500
木材	1,300	内左表諸経費	<u>26,800</u>
椰子油	750	差引日本側純益	¥64,700
種牛其他	550	シドニー支店同上（次頁ノ表）	〃27,750
合計	<u>¥81,000</u>	内外通算年度純益	<u>¥92,450</u>

経費内容	
原前支配人へ追贈	¥6,000
本店俸給	7,750
ゝ 課税	2,700
ゝ 旅費	2,700
ゝ 通信費	500
ゝ 保険及修繕	500
ゝ 其他諸雑費	3,550
東京支店諸経費	3,100
合計	<u>¥26,800</u>

シドニー支店収支概数 Nov. 1st 1904 to 31st Oct. '05

<u>Loss</u>		<u>Profit</u>	
Salary & wages	£760	Import Profit	£900
Travelling expenses	70	Export Com <u>tion</u>	2,300
Rent (office)	120	Fre' t & In <u>sc</u> e Rebate	550
Export expenses	250	Amount transferred	1,050
Import Dis Advertising a/c	120	from Horse a/c	
Income Tax	20	Balance of interest	<u>20</u>
General Expenses	<u>330</u>	Total	<u>£4,820</u>
Total	<u>£1,670</u>		<u>1,670</u>
		Balance Nett	3,150
Writing off Bad Debts	£230		
〃〃 Office furniture	100		
Nett Amount transferred to Head Office			<u>£2,820</u>

年度純益并ニ姑息ナル準備金及積立金ノ全処分

滯貸約五万円ノ一掃銷却切捨テ

地所勘定ニ重誤計算二万二千余円ノ訂正銷却

牛莊出張所勘定尻及什器勘定取合数千円ノ銷却

商店ノ資産漸ク茲ニ再ビ固シ

前項ノ巨益ヲ得タルヲ本トシテ店祖ハ資産ノ大整理ヲ決行スベク、右年度益九万二千数百円ニ昨年ノ決算処分ニ際シ不取敢再設定シタル積立金八千円ノ金額并ニ三十四年減資ノ際之レヲ設ケ（当時繰入金額約一万九千円ナリシ）更ラニ昨年決算ニ当リ追加（其額約三千六百円ナリシ）シタル滯貸準備金勘定尻（以上二口合計二万二千数百円ナルモ、此四年間ニ債権ノ一部全然死滅シタル分アリテ之レガ補填ノ為メ充當シタルモノ四千数百円ヲ減シ、此時ノ勘定尻ハ一万八千円前

後ニ減シ居リシナリ）ノ全部ヲ加ヘテ約十二万円ヲ得、之レヲ資源トシテ先ヅ滞貸総額約五万円ヲ一掃銷却シテ資産勘定ヨリ切落シ、更ラニ葺合共有地所ニ対スル商店持分価額ハ仮勘定中ニ資産ニ計上サレアルニ拘ラズ、誤リテ其総価二万二千余円ヲ地所勘定ニ二重ニ計上サレ居リシヲ除算訂正シ、猶前年来資源不足ノ為メ全然無価値ト承知シ乍ラ資産ニ計上シ来リシ牛莊出張所勘定尻二千数百円并ニ什器勘定千余円等ヲ夫々銷却シタレバ、数年来止ムヲ得ザルノ窮策トシテ糊塗ヲ重ネ虚数ヲ列ベ来リシ商店ノ資産勘定ハ茲ニ漸ク健全トナリ、其公称資本金五万円ハ小ナリト雖モ初メテ充實シタル上、猶差引四万五千余円ノ純益ヲ残シタル事左ノ如シ

〔表 5 参照〕

〈表5〉明治38年度 利益並びに準備金・積立金処分概表

滞貸切捨銷却高	¥49,450	前項年度純益	¥92,450
葺合地所価二重計上分訂正	22,050	積立金ヲ処分ス	8,000
牛莊出張所勘定尻銷却	2,350	滞貸準備積立金尻ヲ処分ス	<u>18,050</u>
什器勘定銷却	<u>1,150</u>	合計総資源	¥118,500
	75,000>	75,000
		差引残益	<u>¥43,500</u>

明治三十八（一九〇五）年

銷却整理処分後ノ殘益三万円ヲ繰込ミ資本ヲ八万円トス

前項資産大整理ヲ決行シテ猶剩ス所ノ純益四万三千五百円ノ内、店祖ハ金三万円ヲ資本金ニ繰込ミテ三十四年ノ改革減資以來初回ノ増資ヲ行ヒテ資本金ヲ八万円トシ、更ラニ其殘金ノ内五千元ヲ自己ニ収得シ、五千元ヲ店員賞与トシテ分配シ、端金三千数百円ヲ次年度ニ繰越シタリ

顧ルニ、前年ニ引続キノ本年ノ好成績ニシテ其来ルコト一兩年ヲ遅カラシメンカ、折角山川正金氏ノ俠氣ト勇断トニヨリ三十四年ニ救済セラレタル我兼松商店モ遂ニ療養行届カズシテ没落シタルヤ毫モ疑ヲ容レズ、戦役ノ好響ト濠洲ノ豊作ト共ニ機ヲ失セズシテ来リ援ケ、商店ヲシテ茲ニ確實ニ再生ヲ獲得セシモノ必ラズシモ「僥倖」「偶然」等ノ語ヲ以テ單純ニ評スベキ限リニ非ルヲ信ズ

以上処理後ノ商店資債概表

前項諸銷却増資等凡テ処分ヲ了シタル直後ノ概表如左

〔表 6 参照〕

明治三十八（一九〇五）年

〈表6〉明治38年度 貸借対照表

<u>借方（資産）</u>		<u>貸方（負債）</u>	
地所家屋	¥59,800	資本金	¥80,000
共有土地	27,900	輸出入荷為替手形	195,700
公債及有価証券	13,100	支払手形	11,500
輸出入商品	4,200	割引手形	41,800
受取手形	131,600	借入金	80,500
貸売、貸金、仮勘定及ビ現金	4,300	預り金及店員信認金	10,600
預ヶ金	80,500	借買	400
濠洲支店	44,500	銀行借越	2,000
東京支店（事実上全部貸売）	60,100	繰越利益金	3,500
計	<u>¥426,000</u>	計	<u>¥426,000</u>

逆算シテ知ル前年初頭ニ於ケル商店赤裸ノ資力
回顧スルダニ肌ニ粟スル大負債超過

数年振りト言フヨリモ、約十年振りニ始メテ堅実味ヲ復シタル前葉所載ノ商店資産状態ヨリ出発シ茲ニ到達スル為メ、昨今兩年ノ利益ヲ以テ銷却スルコトヲ必要トシタル内外既掲ノ数字ニ従フテ試ミニ之レヲ逆算スルトキハ、昨三十七年初頭ニ於ケル商店ノ赤裸ナル実状ハ、少クトモ一万余千円即公称資本額ニ対スル約參割ノ負債超過ナリシコト何人モ容易ニ立証シ得ル所、殊ニ前表所有地所家屋ノ評価モ、戦勝ニ輝ク当年末ニ於テコソ安全数タルヲ失ハザランモ、戦前暗雲低迷ノ不況時ニ於テハ甚ダシク高価ニ失セシ点ニ論及センカ、当時ノ負債超過額ハ寧ろ数万円ナリシトイフモ過言ニ非ルベク、戦役ノ来ルコト今一年遅カリセバ、商店ハ恐ラクハ没落ノ外無カリシナラン

回顧シテ茲ニ及プトキ肌ニ粟ノ生ズルヲ覺ユ

明治三十九（一九〇六）年

店祖此年頭欽定憲法ニモ比スベキ協定書ヲ發表ス

我商店ノ事業ハ店祖一人ノ私有物ニモ兼松一家ノ独占物ニモ非ズシテ、他日店祖亡キノ後ニ於テモ店員等ニヨリ永久ニ繼承セラレテ益發展ノ実ヲ挙グベク、且店主ト店員トハ常ニ其福利ヲ共ニシ共存共榮ヲ期スベキモノ也トノ店祖年来ノ断案ハ、既ニ去三十二年秋店員談話会ノ席上店祖自ラ宣明セル所ニシテ、当事店祖ノ意中一兩年ナラズシテ具体的方法ヲ以テ之レヲ実現スルノ腹案ナリシコトハ毫モ疑ヲ容レズ

蓋シ第一編ニ於テ詳説シタルガ如ク、明治廿二年創業以來辛酸具サニ嘗メ曲折数次ヲ重ネタル店運モ、廿七八年ノ日清戦役以來着々トシテ進展ノ跡頗ル著シキモノアリ、数次累計一万五千円ニ過ギザル総投資額ヲ以テシテ三十二年末決算後ニハ早くモ純資産額約十五万円ヲ算シ、当時ノ世情ニ於テハ相当ノ貿易高トシテ敢テ恥シカラザル資力程度ニ達シ居タレバナリ

然ルニ第二編ニ細述セル通り、連年ノ好蹟ニ乗ジテ積極商策ノ歩ヲ進メ一大飛躍ニ着手シタル明治三十三年ニハ、不幸ニシテ内ハ店祖病ニ伏シ外ハ業蹟逆転シテ忽チ資産ノ大半ヲ失ヒタル先、折悪シク三十四年ノ大恐慌ニ襲ハレ数万ノ債権ハ殆ンド回収ノ途ナク店運ハ遂ニ瀕死ノ窮境ニ陥リ、正金銀行ノ救済ニヨリテ辛クモ一条ノ血路ヲ開キタリト雖モ、大改革ヲ経タル同年ハ勿論、三十五六ノ兩年モ引続キ損失ヲ重ヌルノミニシテ、折角ノ大手術決行ニヨリテ一応取り留メタル商店ノ生命モ予後ノ衰弱ノ為メニ最早近く自滅ノ日ヲ待ツノ外ナキ感アル折柄、恰カモ好シ濠洲ノ大豊作ノ上ニ日露戦役ノ勃発アリ、之レ等ノ好影響ヲ被リテ突然トシテ意外ノ商盛ヲ見タル商店ハ三十七年ノ決算ニハ早クモ相当ノ利益ヲ収メテ初メテ回復ノ曙光ヲ認メシメ、翌三十八年ニハ実ニ空前ノ巨利ヲ挙ゲテ茲ニ商店ノ再生ヲ確實ニシ、同年末決算処分後ノ資力ハ八万円トナリタレバ、之レヲ六年前ニ比スレバ未ダ僅カニ其一半ヲ過グルノミナルモ、絶大ノ試練ヲ経テ数年振りニ漸ク堅実トナリタル場合店祖ハ此上ノ実行延期ヲ忍ビ難シトシタルモノ、如ク、当三十九年一月一日ヲ以テ次項ノ協定書ヲ發表シ以テ先年ノ声明ヲ実現スルト共ニ茲ニ商店ノ歴史ニ一新紀元ヲ画シタリ、其後十有数年歐洲大戦ニヨリテ醸成セラレタル現代ノ世態ヨリ之レヲ觀察スルトキハ、店祖ノ此挙ハ敢テ必ズシモ驚クベキニ非ルガ如キモ、日露戦役前後ノ世界思潮特ニ其當時ノ日本実業界ノ思潮裡ニ在リテ、店祖ガ如此英断ニ出デタルハ其根底思想ノ一世ヲ抜テ甚ダシク進歩セル点ニ於テ將又其信念ヲ実行スルノ勇氣ニ於テ共ニ絶大ノ驚嘆ヲ値スル所ニシテ、此一

拳実ニ我商店ノ為メニ形已上ノ基礎ヲ置キ、以テ吾人并ニ将来ノ從務各員ヲシテ商店并ニ其事業トノ關係ニ於テ世界独歩ノ誇アル現組織ヲ享有セシムルノ根底ヲ作りシモノナリ
殊ニ八万円ノ資本ヲ十二万円ト仮定シテ総テノ約項ヲ作成スルガ如キ苦心ノ跡ニ見ルモ、店祖ガ如何ニ其所信ニ忠ニシテ之レガ実行ニ急ナリシカヲ窺フニ足ルベク、只此一点ノミスラモ後人ノ為メニ優ニ一大教訓タルニ値スルモノト称スルヲ得ン

協定書ノ全文

協 定 書

明治三十九年一月一日ヲ以テ店主兼松房治郎ハ店員諸氏ニ店主ノ意旨ヲ開示スルノ光榮ヲ有シ互ニ協約スル処ノ事項左ノ如シ

第一条 明治三十八年度ノ年末決算ニ於テ収益金ノ内ヲ在来ノ滞貸金中回収ノ見込ナキ分其他諸損失金等悉皆ヲ償却シ、猶ホ賞与金ヲ引去リ、残ル純益金ハ総テ元資金ノ充実トシテ積立金トス

第二条 店主ハ數年来忠実ニ勤続シ且ツ功勞アル店員諸氏ニ今後猶ホ忠良ニ勤続シ共ニ福利ヲ享有セラレン事ヲ希望スルノ意旨ヲ以テ、明治三十九年度ヨリ左ノ方法ニヨリ利益金ヲ分配スベシ

第一項 兼松商店ノ資本金ヲ拾貳万円ト仮定シ、内六万円ヲ店主ノ持分トシ又六万円ヲ店員ノ持分トナシ右ニ対シ利益金ヲ分配スルモノトス、其持分ノ内訳左ノ如シ

一金六万円	兼松房治郎	一金貳万円	北村寅之助
一金壹万円	古立直吉	一金四千五百円	四方素
一金五千元	前田卯之助	一金五千元	入江金三郎
一金四千五百円	大西金次郎	一金貳千五百円	稲葉定造
一金貳千五百円	鈴木小右衛門	一金貳千五百円	妹尾麗多
一金壹千元	山本一郎	一金貳千五百円	予備

小計 拾貳万円

予備ノ分ハ追テ功勞アル店員ニ付予スルモノトシテ備ヘ置ク、又予備ノ分ヨリ生ズル利益金ハ店員慰勞積立金中へ算入ス

第三条 持分ニ対スル利益金ノ配当ハ資本金充実スル迄ノ間ハ収益金ノ多少ニ拘ラズ壹割以下（百分ノ十以下）ト限定ス、又資本金充実後ト雖モ当商店ノ基礎ヲ強固ニスル旨趣ニ依リ例令多額ノ利益アルモ壹割五分（百分ノ捨五）以下ト限定ス

第四条 明治三十九年度以後ハ収益金ノ内ヨリ店主功勞金、利益配当金、店員賞与金、地所家屋減価償却金及店員慰勞積立金等ヲ引去リタル残余金ハ資本充実トシテ積立ツルモノトス、又資

本充実後ハ第一種積立金トス

第五条 入店後勤続滿廿年以下ニシテ退店スルモノハ第二条ニ割当タル金額ノ半額以下ヲ勤続賞
与トシテ交付ス、但退店ノ事情ニヨリ且特ニ功勞アル者ニハ金額ヲ増加スルコトアルベシ

第六条 入店後勤続滿廿年以上ニシテ退店スルモノハ第二条ニ割当タル金額ノ全額ヲ勤続賞与ト
シテ交付ス、但退店員ノ功蹟特ニ著シキモノニ対シテハ店主ノ意旨ヲ以テ積立金ノ一部ヲ特別
賞トシテ又退職年金トシテ或期間手宛金ヲ交付ス

第七条 退店スルモノハ退職辞令ヲ受ケタル日ヨリ利益配当ヲ受クル權ヲ失フモノトス

第八条 店員ニシテ店規ニ背反シ或ハ当店ニ対シ不誠実ノ行為アリシモノト認ムルモノハ、第二
条ニ割当タル金額ヲ交付セザルハ勿論相当処分ヲ為スベシ

第九条 純益金ノ内恣割（百分ノ拾）ハ店主ノ功勞金トシテ店主ニ又店主ノ死後ハ其遺族ニ贈与
スルモノトス

第十条 店員ノ年末賞与金ハ純益金ノ百分ノ拾以下トシ、店主ノ見込ヲ以テ適宜其割合ヲ定メ配
当ス、但特ニ功勞アルモノニ対シテハ臨時賞与金ヲ増与スル事アルベシ

第十一条 規定ノ資本金拾貳万円ニ充実シ又資本金額ト同額迄ニ積立金額ノ達シタル時ハ積立金
ノ一部又ハ半額ヲ資本金増額ニ振替ル事アルベシ、此場合ニ於テ利益配当付勤続賞与金ノ割当
額ハ店員ノ功蹟ヲ詮考シ店主ノ意見ヲ以テ適宜処分ス

第十二条 資本金充実スル迄ノ期間利益金分配方法ハ左ノ規定ニ依ル

一金六万円 仮定純益金

内

一金六千円 店主功勞金

一金壹万貳千円 利益配当金 資本金十二万円ニ対スル百分ノ拾ノ割

一金六千円 店員賞与金

一金三千円 地所家屋減価償却金

一金壹千五百円 店員慰勞積立金

一金參万五千五百円 元資充実積金

但利益金少数ナル時ハ利益配当金及店員賞与金ヲ壹割以下ニ減少スル事ハ第三条ノ通
資本金充実後ノ利益金分配方法ハ左ノ規定ニ依ル

一金六万円 仮定純益金

内

一金六千円 店主功勞金

一金壹万八千円 利益配当金 壹割五分ノ割

一金六千円 店員賞与金

一金參千円

地所家屋減価償却積金

一金壹千五百円

店員慰勞積金

一金貳万五千五百円

第一種積立金

但書前項ト同シ

第十三条 地所家屋減価償却積金ハ凡テ貳万円ヲ程度トシ、其以後ハ新築準備トシテ積立ツルモノトス

第十四条 此協定書ノ個条ヲ更正スル必要アル時ハ利益配当ノ權ヲ有スル店員ノ意見ヲ聞キ、店主ノ意旨ヲ以テ之ヲ改定ス

第十五条 此協定書ハ後証ノ為メ忝通ヲ製シ、各記名調印シテ忝通ハ店主之ヲ保存シ又忝通ハ店員ノ代表者トシテ主席店員北村寅之助之ヲ保存ス

右協定ス

明治三十九年一月一日

神戸市海岸通三丁目貳番邸兼松本店ニ於テ作製ス

兼松商店店主

兼松房治郎

前項ノ旨趣承知致候也

兼松商店員

(以下氏名前現ノ通りニ付略ス)

明治三十九(一九〇六)年

一四七

郵船会社ノ濠洲航路復活

明治三十六七年ノ交日露間ノ交渉益切迫スルヤ我政府ハ郵船会社ニ対シ御用船ノ内命ヲ下シタレバ、同社船中速力設備等第一流ニ属スル濠洲航船ハ先ヅ全速力ヲ以テ日本ニ集中ヲ命ゼラレ、新造船日光丸ノ如キハ就航ヲ見ルニ至ラズシテ同航路ハ三十七年早々一時廢航ノ姿トナリ、尔来三十八年夏僅カニ八幡丸ノ一往復センコトナリシノミナリシガ、戦局既ニ平キ、戦後ノ輸送モ稍進捗ノ結果此年二月中旬八幡丸ガ濠洲ニ向ヒシヲ第一船トシ、引續キ日光丸・熊野丸ヲ配船シ、茲ニ滿二年ニシテ郵社濠洲航路ノ復活ヲ見タリ

前田瀨次臺灣ニ出張ス

領臺以來約十年我行政次第二進ミ産業上ノ施設漸ク起ルニ際シ、当局官憲ノ保護奨励ニヨリテ先ツ台頭シ来リシモノヲ樟腦ノ採取及ヒ甘蔗製糖業トス

新式製糖業ノ嚆矢ハ臺灣製糖会社ニシテ、三十三年末ノ創立ニ係リ土匪ノ襲撃ヲ防ギツ、次第二事業ノ歩ヲ進メ、甘蔗作改良ノ範ヲ土民ニ示ス可ク其直營セル試作蔗園用トシテ又ハ土民ニ試用セシムル為メ配付スルノ目的ヲ以テ近年肥料ヲ購入シ始メ、現ニ前年臺北三井物産会社ガ当店ノ濠肥若干ヲ買取リタルモノハ此臺灣製糖会社用ナリシコトヲ知リタルニツキ、恰カモ其購入時季タル此年新年早々前田初メテ臺灣ニ渡航其売込ミヲ試ミタルニ、恰カモ總督府ニテハ糖務局ヲ置キ、採取区域法ノ制定、肥料ノ共同購入補助等大ニ力ヲ糖業ノ奨励助長ニ致スニ会シ、肥料ノ新需要地トシテ大ニ有望ナルノミナラズ一面基隆築港工事用トシテ濠洲堅材ノ大契約成立スル等諸

取引予期以上ノ展開ヲ示シタレバ、前田ハ此年臺灣ニ往復スルコト五回殆ンド年ノ一半ヲ彼地ニ費シタルノミナラズ、其間或ハ鈴鹿肥料部トノ配合肥料ノ製造打合セノ為メ上京数次、或ハ濠肥販路ノ開拓ノ為メ北陸其他へ出張シテ三日仕込ミノ肥料字ヲ以テ地方ニ講演ヲ試ムル等席ノ暖マルニ違アラズ、店祖此夏古立及前田ニ臨時賞与各若干ヲ給シテ其勞ヲ犒フ

肥料ノ販路ヲ臺灣ニ拓ク

前田ノ臺灣ニ出張スルヤ、先ツ臺南ニ至リ三井物産同地出張員トノ間ニ提携取扱ノ諒解ヲ作ルノ要アリシガ、偶同窓者ノ故ヲ以テ頗ル好都合ニ進捗シ、之レト共同シテ忽チ臺灣製糖会社ヘ肉骨粉二百屯ノ売込ニ成功シ、一口ノ取引トシテ稀ニ見ルノ巨利ヲ拳グルヲ得タリ、即本年度肥料収益二万余円中上半期ノ収得一万九千余円ノ多キヲ算セシハ此約定ニ負フ所頗ル大ナリ

又此行総督府糖務当局ノ官憲ニ会シ、同島蔗作用トシテ奨励スベキ肥料ノ品種成分并ニ其供給等ニ関シ深く商議スル所アリ、帰神後直チニ配合肥料ノ商標トシテ印ヲ登録シタルモ、商店ニハ配合製造ノ設備ナク且原料蒐集等ノ関係モアリ、旁其製造ハ鈴鹿肥料部ニ托シ、商店ハ其売込ヲ担当スルノ陣立ヲ以テ進ミシガ、此年末ヨリ翌四十年ニ亘リ明治・塩水港・東洋等ノ大製糖会社続々創立セラル、ガ如キ糖業勃興ノ時運ニ際会シ、先入ノ地歩ヲ占メ得タル結果、其實質ハ強味

ノ少ナキ取次式立場ナルニ拘ラズ、翌四十年初頭ノ季節ニモ臺肥益金五千余円ヲ挙ゲ、同夏前田渡濠後ハ藤井其後ヲ承ケテ其衝ニ当リ、尔後商店ノ有力ナル一収源トシテ能ク数年ノ命脈ヲ保チタリ

基隆築港工事ニ濠洲木材ノ大契約

年初前田臺灣出張ノ主要目的ハ固ヨリ肥料ノ売込ニ存セシモ、同島到処ノ建物ガ白蟻ノ害ニ苦シムノ事実ヲ見聞シテ電柱用トシテ濠洲産 Cypress Pine ノ試用ヲ勧誘シタルニ、万事進取的ナル同地当局ハ速カニ試注文ヲ發シタルガ、之レハ意外ニモ供給不如意ノ為メ本式輸入ニ進ムニ至ラザリシモ、一方基隆棧橋改築ノ議アルヲ耳ニシ、Turpentine piles ノ使用ヲ勧誘セシコトガ動機トナリ、海底乾燥浚渫作業ノ為メニスル臨時築堤材料 sheet pile トシテ Turpentine 及 Blue Gum 米國産 Oregon Pine ト比較使用スルノ議進ミ、第二次渡航勧誘奔走ノ結果五月初ニ至リ三井物産ヲ名義人トシ臨時基隆築港局ニ対シ前文兩材種取合セ六百余屯約四万円ニ上ル大口売込契約漸ク成立シ、Nine Branch 及 Orange Branch ノ兩船ニテ十月及ビ十二月同港へ直輸シ、年末ヨリ翌年早々ニ亘リ無事納入ヲ了シタルガ、濠洲材木トシテハ実ニ本邦空前ノ大取引ニ

シテ本年度木材収益一万三千余円ノ殆ンド全部ガ後半期ニ属スルハ一ニ此取引ニ負フ所トス

陸軍被服廠長ノ渡濠ト羊毛ノ大注文

帝国ノ対露戦勝ハ其世界的地位ヲ一躍一等国ニ引上ゲタリト雖モ、為メニ境域無限人口亦我レニ倍スル強露ヲ仮想敵国トシテ我國軍備ノ大拡張ヲ即行スルノ止ムヲ得ザルニ至ラシメ、出師動員ノ計画モ亦極度ニ拡大セラレタレバ、被服ノ準備亦之レニ伴ハザル可ラズ

従テ千住製絨所ノ設備ハ戦後更ラニ拡大セラレタリト雖モ、到底有事ノ場合此一官立工場ノミヲ以テ全軍ノ需要ニ応ズルコト能ハザルニツキ、當時ニ於テ民間毛織業ニ相当ノ製織注文ヲ与ヘテ其工業能力ノ増進ヲ期スルト共ニ軍絨ノ製織ニ習熟セシムルノ要アリ、況ンヤ戦ヒ久シキニ亘ラシカ我内地ノ産毛ハ百兵ヲ衣スルニモ足ラザルヲ以テ我陸軍ハ常ニ相当大量ノ原毛ヲ貯蔵保有スルノ要アリトスル陸軍部内ノ方針決セラレ、羊毛産地ノ状況視察ヲ兼ネ軍事費ノ余剰ヲ以テ此際数百万ポンドノ脂付羊毛ヲ購入スルノ使命ヲ以テセルモノ、如ク、矢野陸軍被服廠長ハ此年十月

下旬発、渡部千住製絨所技師ヲ帯同シ、八幡丸便ニテ濠洲ニ渡航ス

創業十五年漸ク前年ヲ以テ千住製絨所注文ノ一部ヲ得タル商店ハ此千歳一過ノ大注文ヲ握ル可ク日本ニ於テモ固ヨリ相当ノ勸説尽力ヲ試ミタルハ当然ナリト雖モ、何等確カナル手筈ヲ得ルニ至ラザリシガ、廠長ノ一行ハシドニー着ノ上具サニ市場并ニ内外 *Business* ノ実情ヲ察シ、我ガ北村ノ練熟セル技倆并ニ当務ノ誠意ヲ認メタル結果、購入量ノ大部分ヲ挙ゲテ壺万余俵ノ買次ギヲ数次ニ我ガシドニー支店ニ下命スルニ至リ、其代金ハ一行携帯ノ資金ヲ以テ彼地ニ於テ順次現金支払ヲ受クベキ手筈ニモ有リ且手数料率ノ如キハ固ヨリ廠長ニ一任シタルノ結果 10% ノ低率ニ過キザリシト雖モ、北村ハ商店并ニ当局自身ノ一大名誉トシテ収支ヲ超越シテ勇躍事ニ当リ殆ンド不眠不休ノ慨アリ、支店員等亦空前ノ大事務ニ全ク忙殺サレン斗リナリシモ、総員心事ノ緊張ニヨリテ幸ニモ此大任務ハ美事ニ遂行セラレ彼地羊毛界ニ於ケル商店ノ名声頓ニ重キヲ加ヘタリ尤モ、シドニー支店ノ年度ハ先年来十一月ニ初マリ翌年十月ニ終ル計算法ナルガ故ニ此大注文ノ手数料収入ハ全部翌四十年年度ニ計上セラレ当年度収入ニハ全然影響ナシ

濠洲凍肉ノ第二次試売依然不成功ニ終ル

曩ニ日清戰後邦民生活ノ向上ハ肉食ノ普及トナリ食牛供給ノ不潤沢ト相俟チテ肉価著シク騰貴シタル折柄、明治三十一年小規模ナガラ冷蔵設備アル郵船会社新造船春日丸ガ濠洲線ニ就航シタルヲ以テ恰カモ當時在濠セル慧眼ノ店祖ハ彼地ノ凍肉ヲ日本ニ紹介シ以テ肉価ノ調節ニ資セントシ Q' Land 即チ Frozen Beef 及 mutton 若干ヲ送荷シ来リ、東京ノいろは牛肉店主木村某等ニ謀リテ試売セシモ、其風味ノ邦肉ト撰ヲ異ニセル上、日本ニ冷蔵設備ノ無之コトト凍結状態ヨリ還元スルノ技術設備ヲ欠キシ等ノ弱点ヨリ全然不成功ニ終リタルモ、恐ラクバ船用以外、外国生肉ヲ日本ニ輸送シタル嚆矢ナル可シ

然ルニ、今次日露役後ノ本邦肉価ハ再ビ暴騰シテ神戸辺ニテハ上肉百目一円前後ノ小売相場ヲ示シ、食糧政策上世ノ論議ヲ招クニ至リシ折柄、戰後新事業ノ一トシテ神戸・東京等ニモ新タニ冷

蔵倉庫ノ設備ヲ見ルニ至リタルヲ以テ時運ノ稍熟セルモノアリトシ、当三十九年初商店ハ再ビ Q' Land 内ニ Frozen Beef 120qrs 并ニ Mutton Jawb 等各 doz car cases 等取合セ一万余ポンド (Beef 原価 2d ポンド前後) 着価四千余円ヲ輸入シ、神戸ノ冷蔵業者ト協力シテ之レガ売弘メニ努力シタルモ、兎角小売業者ノ偏見的反感ニ祟ラレ独立ノ小売店ヲ設クルノ必要ニ迫ラル、ニ至リ、且需要者ガ其風味ニ馴レザル為メ売行撻々シカラズ、邦肉ノ対抗の値下ゲ冷蔵庫保管料ノ高率等種々ノ障害アリテ、今回モ大成セズシテ放棄セラレ、僅カニ一時地方ノ肉価ヲ牽制シ得タルニ止マリタリ、尤モ羊肉ノ方ハ洋人向トシテ大ニ歡迎ヲ受ケ相当ノ利益率ニテ売行キタル為メ約一ケ年ニ亘リ数次少量ノ輸入ヲ続ケタルモ、元来珍珠扱ニシテ需要量ノ増加ハ急ニ望ムベカラズ、結局其繁ニ堪エザルガ為メ是亦久シカラズシテ其取扱ヲ中止シタリ

斯クテ当年再興セラレタル輸入商品中肉勘定ハ、結局少額ノ損失ニ終リタリ

汽船オーストレリアン号ノ座礁、後沈没

此年十一月 P&A 会社ノ濠日間定期船オーストレリアン号北航ノ途 Port Darwin 附近ニテ座礁大破シ遂ニ救援ノ術ナキニ至リシガ、商店ハ同船ニ羊毛約四百五十俵ノ積入レアリシモ、八万数千円ノ充分ナル保険契約アリテ何等ノ損失ヲ受ケザリシノミナラズ却テ見达利益其他ノ取得トナリ、猶救難品ノ競売ニ当リテモシドニー支店ハ稍利スル所アリ、翌四十年度ノ決算利益ニ貢献スル所アリタリ

共有土地ノ処分漸ク完結ス

廿九年項下既述ノ共有土地ハ漸ク買手ヲ得テ此年九十月ノ交漸次売却処分ヲ了シタレバ、商店ノ不動産勘定ハ海岸通店舗及其敷地ト諏訪山邸ノミトナリ其帳簿価格六万円弱ニ減退シ、一方正金銀行ニ対スル不動産担保借入金ニ右売却進行ニ従ヒ逐次相当部分ヲ返済シタレバ、十一月ニハ此借入金ハ五万九千円ニ縮小シタリ

而シテ此共有土地ハ買入レ後十ヶ年ノ利息ヲ積算スレバ、結局幾分ノ損失ニ帰シ不成蹟ニ終リタルコトハ既記ノ如シ

不動産担保借入金ノ返弁決済

前項共有土地処分ニ引続き、漸次資力ノ余裕ヲ得テ幾分手許緩和シタルニツキ、此年十二月ヲ以テ不動産担保借入金ノ残額五万九千円ヲ全部返弁シ、改メテ残ル不動産ヲ根抵当トシテ正金銀行ヘ書入ル、ノ手續ヲ了シタリ、猶諏訪山邸ノ増築工事ハ同月完成シ、参千余円ヲ要シタル結果年末ニ於ケル不動産帳簿価格ハ六万三千円トナリタリ

日濠館建築計画ト前田ノ反對論難

明治三十三年ノ業蹟逆転ニ引続キ、三十四年ノ恐慌ニ襲ハレ既ニ其生存ヲ失ハントシテ辛クモ正金銀行ノ援助ニヨリ一旦危機ヲ脱シタル商店モ、不幸ニシテ時利アラズ店運日ニ蹙マリ、三十六年ノ交ニハ再ビ命旦夕ニ迫リシ感アリシニ、戦役ノ突発ニヨリ三十七年後半ニハ漸ク時運回転ノ曙光ヲ認メ、三十八年ヲ以テ漸ク安全圏内ニ入りタルノ思アリ、次クニ本年ノ好業蹟ヲ以テシ老店祖齡還暦ヲ過グルコトニ歳ニシテ茲ニ漸ク意ヲ安クスルト共ニ其年末ノ希望ノ一タリシ偉大ナル紀念建築ヲ実現セントシテ、春夏ノ交ヨリ其意図ヲ指示シテ設計方ヲ専門家ニ囑シ居リシモノ、如ク、此年秋冬ノ頃前田臺灣ヨリ帰任スルヤ恰カモ成レル設計図ニ就キテ幹部店員等瀕リニ其構造等ニ関シテ批評最中ナリシガ、蓋シ当時ノ海岸通りノ事務所ハ三十四年ノ新築ニ係ルト雖モ、元來応急建造ニ過ギザルニツキ隣家及ビ倉庫ト共ニ全部之レヲ取毀チ全地域ニ三階建ノ宏壯

ナル新式 Buildings ヲ作り、一階前面ノ一半ヲ商店ノ事務所ニ後部ヲ倉庫ニ充テ、自ラ使用シ、其他ハ全部貸事務室トスルノ案ニシテ、外国ノ例ニ徴シ日本ニ於テモ此種貸事務所ノ需要漸次多カルベシトノ店祖一流ノ慧眼ニ出ヅ、当時直ニ着手センカ神戸市ニ於テハ勿論ノコト恐ラクバ日本全国ニ於テ此種貸事務室式 Buildings ノ嚆矢ナリシナラン

然レドモ、先年来ノ金融難信用状難等ノ苦痛深ク身ニ泌シ居ル上、三十二年ノ交早クモ商店新築ノ案既ニ就リテ、而カモ果サズリシ事実等ニ関シテハ当時何等知ル所無カリシ前田ハ、此種大建築ハ商店現資力ノ全部ヲ挙ゲテ之レヲ固定スルノ結果ヲ来スべく、投資トシテノ収支計算如何ニ拘ラズ纔カニ其生命ヲ取り留メ得タルノミノ商店トシテハ実ニ以テノ外ノ計画ナリトシ、区々設計仕様等ノ些事ヲ議ス可キ限りニ非ズトテ殆ンド一顧ヲ与ヘズ、日ナラズシテ店祖邸ニ到リ直面極端ナル反対論ヲ主張ス

店祖甚ダ憚バサリシモ、結局本計画ハ着手二年ヲ遅ラサレ、其期間ニ於ケル商店資力ノ増加ト一般景氣ノ悪変ニ伴フ工賃諸材料ノ大下落ニ因ル総建築費ノ著減トハ、両々相俟チテ之レヲ即行セラレタラン場合ニ想定比較センカ、資力固定ノ苦痛ハ全然之レ無キヲ致セリ

店祖再び大患ニ罹リ二年半ノ久シキニ亘リ静養ス

此年十月初店祖明石行ノ途汽車中ニテ胃痙攣ヲ発シタルガ、引籠旬余ニシテ稍輕快シ親シク被服廠長ノ出帆ヲ見立テ得ルニ至リシニ、月末ニ及ビテ突然高度ノ発熱アリ、十一月初京都大学病院ヨリ笠原博士ノ来診ヲ求メタル処肝臓及心臟ノ障害トリユーマチスノ三症ニシテ、就中肝臓障害最モ顯著ナリトノコトニテ、只管静養ニ勉メ著シク輕快ノ風アリシニ、同月下半又モヤ激烈ナル腹痛ヲ起シ注射三回ニシテ漸ク当面ノ苦痛ヲ去リシモ、其後ハ間歇的ニ屢ニ胃痙攣風ノ疼痛ニ襲ハレテ寢床スル能ハズ、年末ニハ遂ニ四年間在任セシ市参事会員ノ公職ヲ辞シ、店務ハ其極メテ重要ナルモノ、ミ容態ヲ見計ラヒテ支配人其他ヨリ之レヲ概聽スルニ止メ、専心病ヲ養フコト二年有半屢周囲ノ心ヲ塞カラシメシガ、四十二年陽春漸ク輕快離床シタリ

店則中資格給料表ノ改正

商店々則其他諸規定ノ完備セシハ明治三十二年ノ頃ニシテ微ニ入り細ニ亘リタルモ、三十四年以來ハ激減シタル小数店員ヲ以テ商店死活ノ分岐戰ヲ闘ヒ來リ、繁文縟札ノ加ハルベキ寸隙無ク万事ハ各自ノ責任觀念ニ依リ商務進行ノ便宜ニ從ヒテ処理スルノ外更ラニ余念ナク、規則ノ如キハ閑人ノ閑文字視セラレテ其存在スラ全ク忘却セラレタルノ觀アリ、而カモ何等ノ支障ヲ來サズリシガ、此年十一月店則第廿二条ヲ全廢シ、改メテ店長給ハ百五十円乃至四百円トシ、店員ハ支配人・副支配人・普通店員ノ三階級トシ、支配人給ハ百円乃至三百円、副支配人給ハ五拾円乃至二百円、普通店員給ハ拾円乃至百五十円トシ、猶等外店員給ハ五円乃至三十円ト規定シタル旨通達セラル、蓋シ店祖ガ近來在床勝ナガラ心事ノ小閑ヲ得テ立案シタルモノナルベク何等何級等繁雜ナル呼称ヲ廢シ、支給額ノ豁達自在ナランコトヲ期スルニ出デタルモノナラン

此当時ノ本支店經費ト商量トノ対照

最近三四年間最モ緊縮シタル神戸本店ノ經費ハ、給料七八千円、諸税三五千円、其他各種ノ雜費ヲ併算シテ總經費年額一万七八千円、之レニ東京支店ノ給料諸經費三千三百円ヲ加ヘテ二万一二千円ヲ普通トシタルコト既掲ノ収支概表ニヨリテ明カナルガ、シドニー支店ノ經費ハ、俸給年額約九百円、家賃月拾円、其他ノ諸費ヲ通ジテ一ヶ年總經費千七百円前後ニシテ、幾分本店ノ下ニ在リ、内外ノ經常費通算約四万円總取引高ノ約 $\frac{1}{10}$ ニ当ル、即チ額ニ於テ敢テ多シトセザルモ率ニ於テハ頗ル重キ負担タルヲ失ハズ、之レヲ今日ヨリ見レバ其經營ノ困難察スルニ足ルベク、時運ノ会セルニ依ルト雖モ、此状態ノ下ニ好蹟ヲ挙グルノ努力大ニ思フベキモノアラン

年度商高貳百万円ノ内容

前年末濠洲ニ於ケル千住製絨所ノ初注文ニ引続キ本年ニ入りテ第二次注文下命アリ、旁当年ノ羊毛輸入高ハ遠ク創業以来ノ記録ヲ破リテ五千四百俵ニ近ク其価額百十万円ニ垂ントシ、牛羊脂ハ九百余屯廿七八万円、肥料ハ二千五百屯十八万余円、Oleine 油ハ四百屯弱十一二万円ヲ算シ、小麦ハ千余屯八万余円、木材二千三百本九百屯六万数千円、屠業雜貨約二百屯參万数千円、椰子油百屯弱貳万五千円、其他雜品三万余円等輸入総噸量ニ於テハ六千七百屯ニ約半減シタルモ、価額ニ於テハ合計百九十万円（運賃・輸入税・陸揚費ヲ含ミタル着原価）ヲ超エテ前年ノ額ニ更ラニ一歩ヲ進メ

輸出ニ於テハ Towel ハ壹万八千打四万八千円ヲ以テ総額ノ過半ヲ占ムルコト前年ノ如ク、板紙ノ百四十屯六千五百円、魚油ノ五六十屯五千円、硝子瓶・メリヤス・鞆皮等ノ各三四千円、燐寸

・刷子・樟腦・絹手巾・大割簾等ノ各二千數百円等、總計六百餘屯、此向弘運賃約八百匁、船乘
總価額約九万円

輸出入価額通算二百万円台ニ上ル

年度収支概表

年度純益前年ノ記録ヲ破リ初メテ十万円ヲ超ユ

当年度ハ羊毛取扱高ガ遠ク往年ノ記録ヲ破リタル結果、同品ノ利益ハ忽チ前年ニ二倍半シテ弐万五千円ニ近キ巨額ニ上リ、肥料亦二万一二千円ノ年収ヲ以テ之レニ続キ、Tallow 及木材ハ各一万三四千円ノ利益ヲ挙げ、Oleine モ一万円弱ヲ収メタレバ、小麦ノ見ル影モナキ不振ニ拘ラズ、輸入総益九万円ニ近ク諸経費ヲ差引キ日本側純益七万八千五百円ニ上リテ前年ニ比シ約二割ヲ増シ、シドニー支店ノ夫レヲ併セテ内外年度純益初メテ十万円ヲ超エタリ

収支概数左表ノ如シ

〔表 7 参照〕

〈表7〉明治39年度 収支概表

<u>輸入利益内容</u>			<u>総損益概括表</u>	
羊毛	¥24,800		左表輸入総益	¥87,400
肥料	21,600		輸出手数料	1,700
Tallow	13,500		内国売買益	500
木材	13,200		計総営業益	89,600
Oleine	9,500		有価証券評価益	1,250
屠業雑貨	4,300		利息収入	6,650
小麦	800		家屋賃貸料	1,400
其他諸品差引	1,450		雑益	500
小計	89,150		滞貸回収	300
海外発電料	1,750		合計総益	99,700
差引輸入益	87,400		内 総経費(左表ノ通り)	21,200
			差引純益	78,500
			シドニー支店益(次頁ノ表)	22,150
			内外年度純益金	¥100,650

<u>経費内容</u>		
本店俸給	7,600	
公課	5,000	
通信費	550	
旅費	700	
雑費	3,800	
東京支店経費	3,550	
	21,200	

Profit & Loss Sydney Branch Nov. 1st '05/Oct. 31st '06

明治三十九
（一九〇六）
年

<u>Loss</u>			<u>Profit</u>	
Salary & wages off	£890		Export Comm off	£2,400
Travelling Exp.	90		" " Rebate	50
Export Expenses	30		" " Insee interest	450
Import Discount & Bad Debts	100		" " Cartage Dumping	170
Rent (office)	120		Import profit	<u>850</u>
Income Tax	40		Total income	3,920
General Expenses	400			
Total	<u>£1,670</u>			1,670
			Nett Profit	<u>£2,250</u>

純益処分ト資本金増加

協定書ノ仮定資本金十二万円ノ充実

失脚以来ノ大賞与（総額一万円）

当年ノ業績ハ前項所載ノ如ク遙カ二年初ノ予期ヲ越ヘ十万余円ノ巨益ヲ挙ゲタレバ、内一万弍千円ヲ以テ仮定資本金ニ対スル10%ノ割合ヲ以テ協定書ニ依ル第一回ノ利益配当ヲ行ヒ、四万円ヲ資本金ニ加ヘテ協定書ノ仮定資本金十二万円ヲ一挙ニシテ充実セシメ、店長功勞金一万円ト共ニ同額一万円ナル三十二年以来ノ巨額ヲ店員賞与金トシテ支出シ、更ラニ積立金弍万五千円ヲ作り猶数千円ヲ次期ニ繰越ス等綽々タル処分振り左ノ如シ

〔表8参照〕

〈表 8〉 明治39年度 利益処分概表

年度純益金（前項表示ノ通り）		¥100,650
前年度ヨリ繰越益金		3,500
合計		<u>104,150</u>
此処分		
資本金へ繰込	¥40,000	
積立金へ	25,000	
店員慰勞積立金へ	2,500	
協定書権利者配当	12,000	
店長功勞金	10,000	
店員賞与金	10,000	99,500
差引次年度へ繰越高		<u>¥4,650</u>

明治三十九
（一九〇六）
年

漸ク七年前ノ実資力ニ復ス

明治三十二年末決算処分後ノ商店実資力約十五万円ニ上リシコトハ同年項下記述ヲ経タルガ、翌三十三年店運逆転以來商店ハ忽チ死活ノ堺線ヲ彷徨スルコト数年、不計モ大戦ニ遭ヒ一昨年ノ好転二次クニ、昨年并ニ本年ノ巨益ヲ以テシ前項処分後ノ商店資力ハ茲ニ七年前ノ数字ト相伯仲スルニ至リタリ

明治四十（一九〇七）年

シドニー羊毛市場ニ於ケル日本即我商店地位ノ躍進

明治廿三年シドニー支店開設ノ当年ヨリ商店ハ早クモ同地羊毛買方組合ニ加入シ斯業ヲ開始シタリト雖モ、当時本邦需要ノ大部分ヲ占メタル官業ノ注文ハ一二寵商ノ独占ニ歸シテ外商ノ買付ニ委セラレ、民間毛織業ノ進歩ハ兎角遅々タリシカバ、尔来十有數年間商店ノ羊毛市場ニ於ケル買付高ハ一羊毛年度二千俵ヲ超ユルコト稀ニシテ數百俵ニ止マルヲ常トシ、偶ニ一八九八―九年度ニ於テ初メテ二千俵ヲ超エタルモ、其翌年ヨリハ忽チ又數百俵ニ下リ三十七八年即一九〇四―五年度ニ至リテ戰時ノ急需ニヨリテ漸ク再ビ式千俵以上ニ上リシ位ノコトナレバ、同地羊毛市場ニ於ケル唯一ノ日本人買方タル商店ノ地位ハ猶至テ微々タルモノニシテ、其競市場ニ於ケル其席次（坐席選扱權ノ順位）ノ如キモ第四十位前後ヨリ第三十何位ニ上リシ程度ナリシガ、一九〇五―六年度ニ於テハ大竹所長ノ渡濠ニ因スル製絨所ノ大注文ノ加ハルアリテ、我が買付高躍進四千俵

ニ垂ントセルニ引続キ、翌一九〇六―七年度ニハ前年項下既述ノ被服廠空前ノ大注文ニヨリ商店ノ買付高一躍一萬俵台ヲ突破シテ諸国ヲ代表セル同業者ヲ驚カシ、市場坐席ハ忽チ廿位以内ニ進ミタレバ、シドニー及ブリスベン羊毛市場ニ於ケル日本即兼松ノ地位ハ茲ニ明カニ一時代ヲ画シ、此時以後全市場ハ日本ノ需要即兼松ノ進退ヲ市勢消長ノ一勢力トシテ注視怠ラザルニ至リタリ

買次ノ羊毛ニ対シ初メテ歩留リ品評書ヲ添付ス

商店ノ羊毛取扱開始以來既ニ廿年ニ近キ歲月ヲ経タリト雖モ、其間注文ハ多ク Scoured Wool ニ屬シ、而カモ主トシテ成行注文ニシテ偶ニ指値アル場合ニ於テモ現品一封度ニ対スル指値ニシテ見積リ純毛一封度ニ付何程ト指定スル類ニ非ザレバ、買次品ニ歩留リ表乃至品評書ヲ添フルガ如キコトハ絶テ之レ無カリシガ、今次被服廠ノ出張購入ハ殆ンド全部 Greasy Wool ナリシ為メ歩留リ問題ハ茲ニ愈緊切トナリ、且流石ニ自重主義ノ北村モ其多年ノ經驗ト研鑽トノ結果自己ノ鑑定ニ関シ深キ自信ヲ有スルニ至リタレバ、此大購入ヲ機トシテ買次品個々ノ Lot ニ対シ Clean・scoured・yield ノ見込率ヲ附シタル品評書ヲ添へ以テ買次人トシテ徳義上及名譽上一定ノ保証ヲ為シテ其責任ヲ明カニスルコトヲ開始シ、尔来之レヲ全部ノ注文ニ適用スルニ至リタレバ他ノ同業者モ自信ノ有無ニ拘ラズ亦止ムヲ得ズ漸次之レニ倣フニ至リタリ

シドニー支店羊毛洗上ゲ試験ノ設備ヲ為ス

前項北村ガ其買次羊毛各口ニ其歩留リ見積リ率并ニ品質概評ヲ添付スルコトヲ決シタルハ、固ヨリ多年ノ經驗ト研鑽トニ依リ自己ノ鑑識力ニ関シ相当ノ確信アリテノコトニ属スト雖モ、支店開設以來十有数年間同人自ラ局ニ当リテ買次ギタル羊毛ノ過半ハ *Scoured Wool* ニシテ其手掛ケタル脂付羊毛ノ数ハ必ズシモ多カラザルニ鑑ミ、事ヲ苟クモセザル北村ハ其決行ニ先チ此年初支店建物ノ地下室ヲ増借シ、之レニ簡單ナル洗毛試験ノ設備ヲ施シ、自己ノ買次品中苟クモ歩留リニ疑念アル *Lot* ハ勿論大口ノ *Lot* 等ハ為念其平均見本ヲ試験的ニ洗上ゲ当初ノ鑑定ト対照シテ之レヲ確ムルコトヲ開始シタルガ、手不足等ノ為メ思フ程ノ *Lot* 数ニ対シ之レヲ行ヒ得ザル憾アリシガ、翌年暮廣戸ノ入店スルニ及ビ前田ハ更ラニ此設備ヲ改善シ、一ハ肝腎ノ北村帰朝中 *Coss* ト協力シテ買附ケタル羊毛ニ対スル歩留リ鑑定ノ安全ヲ期シ、二ニハ廣戸ノ研究練習ニ資スル為

メ之レヲ利用スルコト愈多キヲ加ヘタリ

明治四十（一九〇七）年

同業者ノ瀨出―大沢商会・高島屋・三井・大倉・増田屋

商店ノ創業当時ニハ極メテ微々言フニ足ラザリシ日濠間ノ貿易量モ日清戦役後漸次増進ノ実ヲ示シ、更ラニ最近ノ日露戦後我邦羊毛需要量ノ急増ヲ主因トシ急激ノ發展ヲ来シテ、我貿易界ノ視線ヲ惹キタル結果近時邦人ノシドニーニ開店シテ同業ヲ営マントスルモノ尠ナカラズ、大沢商会・高島屋・三井物産・大倉組・増田屋等即チ之レナリ

大沢商会ハ京都ノ時計商大沢善助氏ノ事業ニシテ、対濠輸出ニ着目シ、三十三四年頃其支配人森田金蔵氏初メテ渡濠シ、十数年来シドニーニ在留セル邦人井手・小村両氏等ヲ引キ入レテ同地ニ支店ヲ開キ、絹綿製品・雑貨等日本品ノ輸出販売ニ従事シ、傍ラ骨蹄類時ニハ *Tallow* 等ノ輸入ニ手出シセリ

高島屋ハ呉服商ヨリ出發シ従来御用商人トシテ官辺ニ縁故浅カラズ、先年他ト共同シテ千住製絨

所ノ拂下ゲヲ受クルコトヲ計画スルヤ、去ル明治三十五年中其店員松本武雄氏ヲ濠洲ニ臨時出張セシメ羊毛ニ関シテ兩三ヶ月間滯留調査セシムル所アリシガ、一昨三十八年ニ至リ店員大沢銕三郎氏（後年辭シテ商店ニ入ル）ヲ派シ其シドニー代理店タル Foreign Agency ニ常駐シ羽ニ重・絹布等ノ輸出ノ傍ラ羊毛輸入ノ研究ヲ進メシメ、昨年暮被服廠長渡濠ノ際ニ八百万奔走ノ結果一小部分ノ注文ヲ受ケ、更ラニ海軍等ニ其製品納入代理ノ關係ヨリ日本毛織其他民間会社ノ羊毛注文引受ニ奔走スル等漸次羊毛輸入業ニ力ヲ注クニ至ル

三井物産会社ガ出張員淺野長七氏ヲ濠洲ニ派シタルハ明治三十三年頃ノコトニ屬シ、其後社員關善八氏（後年軋々シテ商店ニ入ル）ヲ之ニ附シ、淺野個人ノ名義ヲ以テ事務所ヲシドニーニ設置スルコト三年余ニ及ビシガ、當時羊毛ニ関シテハ多ク注意ヲ向ケズ、輸入品トシテハ鉛・小麦、輸出品トシテハ木材・肥料等ニ重キヲ置キシモノ、如ク、且之レ等モ商買トイフヨリモ調査本位ナルモノ、如クナリシガ、時機尚早ノ結論ニ到達シタルモノカ此出張員ハ三十六年頃一旦引揚ゲタルガ、偶々日露ノ開戦トナリ、曩ノ淺野出張員ハ予備役主計トシテ応召中三十八年初濠洲ヨリ軍馬購入ノ事アルニ際シテ同社ノ為メ意外ノ効果ヲ發揮スルアリ、更ニ戦後羊毛ノ需要急増スル等ノ狀況ニ鑑ミタルモノ、如ク四十年六月社員馬場玲三氏ヲ渡濠セシメ、今回ハ社名ヲ以テ出張所ヲシドニーニ開設シ、漸次人員ヲ加ヘ久シカラズシテ出張所ヲ支店ニ昇格シテ、廣ク輸出入業ヲ営ムト共ニ、特ニ羊毛部ヲ置キ工業学校出身ニシテ毛織工場ニ多少ノ実験ヲ有スル井島重保氏

ヲ採用配屬シテ大ニ同品ノ買次ニカヲ用ユルヲ見ル

大倉組ニ至リテハ過去何十年ニ亘リ千住製絨所原料ノ供給ヲ独占シテ多大ノ利益ヲ得來リシ關係上、他日ニ備フル為メ明治三十年以來社員玉木誠次郎氏ヲメルボルンニ派シ、其買次代理店タル獨商 *Moest* ニ常駐シテ羊毛買付ノ研究ニ從事セシメ居リシガ、三十八年ノ製絨所長ノ渡濠ニ引續キ三十九年暮ニハ被服廠長ノ渡濠アリ、形勢一變シテ自營ノ買次機關無クシテハ到底從前ノ地位ヲ保チ難キヲ悟リタルモノ、如ク、一応玉木ノ研究員ヲ召還シ改メテ此年初秋渡濠シドニーニ支店ヲ開設セシメ、専ラ羊毛買次ニ從事セシムル傍ラ自家系統ノ皮革会社ニ對スル生皮ノ買付輸入等ヲ開始シタリ

横浜ノ砂糖・麥粉商増田屋ニテモ近時貿易部ヲ設ケ濠洲トノ取引ヲ開始シタルカ、日本木材ノ輸出等ニテ輕カラザル紛糾ヲ來シタルモノ、如ク之レガ解決旁此年七月店員岡部正氏ヲ渡濠セシメ、次テ竹内清之介氏ヲ増派シ、岡部&竹内名義ノ下ニシドニーニ開店シタルガ、同店ハ差詰メ材木・肥料等ノ輸出、礦石ノ輸入等ヲ主業トシ、羊毛ノ取扱ニハ多クカヲ用ヒズ、其 *log* ノ輸入ニ熱中シタルハ後年ノコトニ屬ス、後歐洲大戰ノ頃ニハ盛ンニ活動セルガ、大正九年大恐慌ノ襲來ニ際シ大ナル犠牲ノ一トナリ一敗殆ンド起ツ能ハズ

年度商高一躍四百三十万円

本年ノ羊毛輸入取扱高ハ約七千三百俵ニ上リテ其価額百五十万円ニ近く、肥料ハ三千屯弱、小麦ハ貳千五百余屯ヲ以テ何レモ廿万円ニ垂ントシ、Olive 油ハ四百五十屯弱十五六万円、Tallow ハ三百五十余屯十三万円、木材ハ約七万円ノ扱高ニ上リ、椰子油百余屯四五万円、屠業雜貨貳百五十屯四万余円、鉛百屯二万円、其他諸品取合七五万余円ヲ併セテ輸入総額約八千屯着価二百四十万円ノ外、シドニー支店ガ上半期(前年十一月ヨリ本年四月ニ至ル)中被服廠ノ注文ニヨリ彼地ニテ買次ギ引渡シタル羊毛無慮(空字)一俵代金約十八万£アルヲ以テ、之レヲモ加算スルトキハ羊毛ノ扱高ハ三百三十万円ニ近く、他ノ輸出入品ヲ加ヘテ商店ノ年度総商高ハ実ニ前年ニ倍シテ四百三十万円ヲ超エタル次第ナリ

其輸出ハ Towel 一二万打五万五千円ヲ最トシ、木曜島行諸雜貨一万円之レニ次キ、板紙ノ百八十

屯七千五百円、樟腦ノ六千余円、鞞皮及メリヤスノ各五千円、硝子瓶・絹手巾・刷子類各四千余
円、落花生・魚油・燐寸・絹綿織物等ノ各二千円前後、木材及羽二重製シヤツノ各千余円、其他
諸品ヲ併セテ総計約十二万円トス

シドニー支店破天荒ノ年度業績、附帳簿鑑査ノ始メ

先年来我がシドニー支店ハ前年十一月ニ始マリ当年十月ニ終ル十二ヶ月ヲ以テ計算年度ト定メ居ル結果、前年暮以來ノ被服廠大注文ニ因スル巨額ノ羊毛買次手数料ハ全部支店当年度ノ収入トシテ見ハレタレバ、店務ノ膨張ニ伴フ經費ノ増加亦相当急激ナルニ拘ラズ殆ンド大局ニ影響セザル程ノ勢ニテ、支店当年度ノ収支ハ左表概數ノ如ク無慮五千£ニ近キ純益ヲ挙ゲ実ニ破天荒トモ稱スベキ好成績ヲ収メタリ

猶左表經費中從來ニ之レ無キ Audit fee ノ初メテ見ハレシハ、業務ノ膨大ニ伴ヒ一層計算ノ精確ヲ期スル為メ該地商賈一般ノ習慣ニ從ヒ北村平素ノ持論ヲ實現シテ自衛上鑑査人ヲ置キシヲ知ルべく、又從來羊毛見本売却代金ハ其金額モ敢テ多カラズ北村ノ所謂帆待トシテ店員間ニ分配シ来リシヲ、本年ハ取扱數量急増ノ結果其売却代金モ輕視ス可ラズトシ正式ニ商店ノ収入トシタル

モノ即下表ノ Wool a/c 収入ナルヲ知ル

又 Rent ノ増大ハ羊毛見本貯蔵并ニ歩留リ検査ノ為メ地下室ヲ増借シタル結果ニシテ、旅費ノ増加ハ Brisbane 市場へ出張往復ノ瀨繁ヲ加ヘタルヲ証シ、一般経費ノ急増ハ格別ノ繁忙ヲ考慮シ雇外人等ニ対シ X'mas 并ニ Easter ノ二期ニ給スル Bonus 額ノ倍増ニ負フ所尠ナカラズ

[表9参照]

〈表 9〉 Sydney Branch For 12 months ending 31/10/07

<u>Loss</u>		<u>Profit</u>	
Salary & wages off	£1,000	Export Commission	£5,420
Labour (Export)	300	Insce Rebate	470
Travelling Expenses /	220	Balce of Car tage & } interest also Dumping }	220
Bad Debts (Import)	90	Horse a/c	210
Rent	180	Wool /	360
Audit fee	80	Rebate (Freight)	200
Income Tax	50	Import Profit	<u>1,070</u>
Writing off Furniture	50	Total	<u>£7,950</u>
General Expenses	<u>1,030</u>		
Total	<u>£3,000</u>	> <u>3,000</u>
		Nett Profit	<u><u>£4,950</u></u>

明治四十(一九〇七)年

羊毛本位ノ年度決算成績引続キ佳

当年度本店ノ決算ニ於テハ羊毛ノ収益前年ニモ勝リ二万七千円ヲ超エテ輸入総益ノ四割ヲ占メ、肥料ノ利益ハ前年ノ半ニモ達セズト雖モ猶一万円ニ近ク、外ニ臺灣向ケ配合肥料ノ取次益五千余円アリ、木材ノ収益モ亦前年ニ及バズト雖モ、三菱建築部ノ注文 Hard wood 一万円、三菱・川崎両造船所注文 Cedar Pine 類約二万円等ノ取扱ノ外、前年基隆納殘荷ノ収益モ加ハリテ本年計上益九千円ニ近ク、Tallow 及び Oleine ノ収益ハ各四千余円ニ減退セシモ、小麦ノ復活シテ四千五百円ヲ收ムルアリ、利息収入ノ八千円ヲ超エテ数年前ニ比シ收支正ニ相反スル等旁日本側純益ハ前年ニハ及バサルモ猶五万七千円ニ近ク

シドニー支店ハ被服廠長注文ノ羊毛ニ因スル手数料額激増ノ結果、前項ノ如ク年度利益実ニ五万円ニ近ク、内外通算年度純益十萬五千円ヲ超エ前年破格ノ好成绩ヲ持續シ得タリ

年度収支及利益処分ノ概表

当年度損益収支ノ概数并ニ利益ノ処分ヲ表示スレバ左ノ如シ

〔表10参照〕

明治四十（一九〇七）年

〈表10〉明治40年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

<u>輸入商品々別利益</u>		<u>総損益概括表</u>	
羊毛	¥27,400	輸入商品益 (左表ノ通り)	¥64,100
肥料	9,700	輸出手数料収入	3,000
木材	8,800	臺灣肥料収益	5,300
小麦	4,500	内国売買 (硫安)	600
Tallow	4,500	以上営業総益	73,000
Oleine	4,300	利息収入	8,200
椰子油	1,800	家屋賃貸料	2,100
麻屑	2,100	雑益	100
屠業雑貨	1,750	以上総計	83,400
小計	64,850	内 総経費 (左表ノ通り)	26,600
其他諸品差引損	750	差引日本側純益	56,800
差引純益	<u>¥64,100</u>	シドニー支店々	48,600
		内外合計純益	<u>¥105,400</u>
<u>経費内容</u>			
本店俸給	¥8,700		
々 公課	6,600		
々 旅費	2,200		
々 通信費	550		
々 雑費	4,750		
合計	22,800		
東京支店経費	3,800		
総計	<u>26,600</u>		

B 利益処分

年度利益金 (上表ノ通り)	¥105,400	
前年度ヨリ繰越金	4,650	
合計	110,050	
<u>此処分</u>		
積立金へ	65,000	
店員慰勞同上へ	2,850	
配当金15%	18,000	
店主功勞金	10,500	
店員賞与金	10,500	106,850
差引次年度へ繰越	3,200	<u>3,200</u>

利益処分後ノ商店実資力初メテ廿万円ヲ超ユ

引続キテノ好成績ニ協定書条項ニ依ル第二年ノ利益配当トシテハ 15% ノ高率ヲ分配シ、其他前表ノ通り夫々処分ヲ行ヒタル結果、資本金十二万円ニ対シテ諸積立金ハ九万円ヲ超エ此合計商店実資力ハ実ニ廿一万円以上トナリ、去三十三年ノ失脚以來茲ニ八年ヲ閲シテ始メテ其以前即三十二年末ノ実力ヲ凌駕スルコト三分ノ一強ニ及ビタリト雖モ、其因テ来ル所ハ直接間接最近ノ戦役ニ在リテ存スルト共ニ、我ガ財界ノ規模ハ此戦役ヲ経テ凡テノ方面ニ躍進膨大シタレバ、之レヲ關係的立場ヨリ見ルトキハ商店現在ノ地位ハ猶遠ク八年前ニ及バズ、サレバ三十三年ノ失蹟ハ之レヲ商店百年ノ長計ヨリ論ズルトキハ絶大ノ教訓ヲ与ヘタル功果没ス可ラズト雖モ、当面ノ店力ヨリ論ズルトキハ商店ノ發達少クモ十年ヲ遅カラシメタルモノト謂ハザル可ラズ

明治四十一年（一九〇八）年

東亜セメント会社代理店ノ引受

日露戰役中我政府ガ起シタル外債ノ一部ガ日本内地ニテ消費セラレタル上、三十八年末ヨリ三十九年ニ亘リ政府ノ奨励ノ下ニ日本興業銀行ヲ介シテ民間ニ輸入セラレタル外資甚ダ少ナカラズ、三十九年後半ニ及ビテハ金融甚ダシク後遂状態ヲ呈セシ折柄、米作ハ豊穰ヲ伝へ、生糸貿易ハ好調ニ転ジタレバ、株式熱ハ茲ニ勃興ノ氣運ヲ示シ、三十九年末ヨリ四十年初ニ亘リテハ国内到处聊カ新事業濫設ノ嫌アリ、臺灣ニ於テハ製糖業、内地ニ在リテハセメント業・水産業・電気業等ノ興ルモノ特ニ著シカリシガ、四十年春夏ノ交ヨリ一般景氣ハ早クモ反動期ニ入り同年末ノ諸株式相場ハ年初ノ半ニ達セザルモノ多ク、銀行ノ取付、商人ノ破綻整理等尠ナカラズ、彼ノ北浜銀行ガ五百万円ヨリ一躍千万円ニ増資ヲ決議シタルモ亦四十年一月ノコトニシテ、其実行期ニ入り此急變ニ遭遇シテ之レヲ糊塗シタルコト實ニ後年岩下ノ失脚シタル主因ナリトス

東亜セメント会社モ亦三十九年末ノ新設会社ニシテ、店祖ガ清商具錦堂氏等ト共ニ主唱創立シ、商店ニテ数百株ヲ応募シ、店祖自ラ其重役トナリ、橋本元客員ノ戦時勤務ヲ解カレテ帰還スルヤ同社ニ従事セシメタル等ノ関係モアリシガ、今夏同社ガ製品ヲ出スニ及ビ商店ハ其代理販売店ヲ引受ケ、八木ヲシテ其事務ニ当ラシメ後林ノ輸入部ニ転ズルニ及ビテ亦此代理事務ヲ兼任スル等継続兩三年ニ亘リシモ、手数料収入ハ多キヲ算スルニ至ラズシテ遂ニ之レヲ解約シタリ

店祖ノ叙勲

店祖ノ日濠貿易開拓ノ功ハ広ク天下ノ認ムル所ナルノミナラズ、一般実業界ニ於ケル功劳公共事業ニ対スル尽力亦没スベカラザルモノアリ

其前年来久シク病床ニ在ルヤ、時ノ兵庫県知事服部一三氏ヨリ叙勲ノ誉請アリタルモノ、如ク、天恩優渥此年三月御沙汰アリ、店祖ハ実業界ノ功劳ニ依リ勲六等ニ叙セラレタリ

北村ノ第二次帰朝

前年八月シドニーニ着任シタル前田ハ、九月羊毛新季節ノ開始ト共ニ連日北村ニ随伴シテ羊毛倉庫ヲ巡回評価シ其買入レニ関スル研究ヲ続ケ居リシニ、不幸十一月突然肺炎ヲ発シ、予後数月間転地療養ノ止ムヲ得ザルニ至リシモ、此年四月快癒復任シタルヲ以テ北村ハ支店ノ責任ヲ之レニ托シテ七月シドニーヲ発シ第二次帰朝ノ途ニ就キ、八月十日着神、日本滞留約十ヶ月ニシテ翌四十二年夏発帰任ス

競馬熱ノ勃興―商店亦聊カ此熱ニ浮カサル

最近戰勝ノ後政府ハ銳意陸軍ノ大擴張ニ努メ且戰役ノ実績ニ鑑ミ産馬奨励及馬匹改良ノ急ヲ認メ、新タニ馬政局ヲ置キ多大ノ經費ヲ充當シテ種々画策施設スル所アリ、更ラニ最近ノ議會ニハ競馬法案ヲ提出シタルガ、一種ノ官許賭博トモ稱スベキ性質ヲ含ミタルニ拘ラズ、議會ハ忽チ之レヲ可決シタレバ春來各地ニ馬匹改良會簇成シ到處競馬ノ瀕次興業セラル、アリ、自然濠洲ヨリ新馬ノ輸入ヲ仰グニ至リシガ、商店ハ之レ等新馬ノ輸入注文ヲ引受クルノ便宜ノ為メトノ理由ノ下ニ諸競馬業ノ株式ニ応募シテ馬匹ノ輸入ヲ引受ケ、廣告ナリトノ理由ノ下ニ自ラ競馬ヲ有シテ各地ノ會合ニ出場セシメタルノミナラズ、上級者中競馬ニ熱心ナル者多クシテ毎回相携ヘテ出場觀覽スル為メ競馬熱ハ馬券熱ト變シテ店内上下ヲ風靡シ、年少店員ヨリ倉庫係員ニ至ルマデ屢店務ニ托シテ競馬場ニ出入シ競フテ馬券ニ輸贏ヲ爭フニ至リタレバ、店風ヲ毒スルノ甚ダシキモノトシ

テ前田ハシドニーヨリ痛ク論難警告シタル程ナリシガ、年末馬券ノ禁令一下シテ凡テハ忽チ解決シタリ

羊毛注文ノ不振ト被服廠ノ補充注文

北村ノ歸リテ日本ニ在ルヤ各毛織工場ヲ訪ヒテ親シク注文ヲ促ス所アリシモ、業界一般ニ不振ノ場合トテ其獲ル所甚ダ少ナカリシガ、陸軍被服廠ニテハ前々季購入原料ノ一部ヲ民間工場ニ給シテ賃織セシメタル補充ノ意味ニ於テ本年十一月先ヅ脂付二千俵ヲ発註シ後千俵ノ追加注文ヲ発シタリ、而シテ此一九〇八―九季節シドニー支店ノ買次総高五千俵前後ニ過ギザリシ事實ハ民間注文ノ依然トシテ増加遅々タリシコトヲ明カニスルニ足ル

千住製絨所注文羊毛 Scoured ヨリ Greasy ニ移ル

千住製絨所需要ノ羊毛ハ創業以來専ラ Scoured ニテ購入シ来リ、去ル明治三十八年以來商店ガ時々引受ケ得タル注文モ亦凡テ Scoured ナリシガ、前年陸軍被服廠ガ多量ノ脂付羊毛ヲ常ニ貯藏シテ有事ニ備フルノ方針ヲ立テ、以來ハ、製絨所亦其購入品ヲ Greasy ニ一変シ、順次被服廠貯藏ノ古毛ト交換使用シ以テ同廠貯藏原料ノ保全ニ資スルコトニ決シ、本年ノ注文ヨリハ初メテ凡テ Greasy Pieces トナリタリ

早くモ起ル羊毛買次手数料ノ引下ケ戦

我が民間毛織業ハ、最近ノ戦役中ハ何レモ相当ノ好果ヲ収メタリト雖モ多クハ其基礎未ダ堅カラズ、一昨年来ノ不況ニ遭遇シテ氣勢甚ダ昂ラズ、殊ニ当業ノ先覚タル東京製絨会社及ビ大坂毛糸会社ノ後身タル日本フランネル会社等ハ近時経営首脳部ノ交迭瀕繁ニシテ自然一貫シタル操業ノ大方針無ク動揺甚ダシキ中ニ立チテ、新進ノ日本毛織会社ハ創立以來既二十余年ヲ経テ社運次第ニ隆昌ニ赴キ、其原毛ノ注文高ノ如キモ近年他社ノ群ヲ抜キ濠毛需要高年額数千俵ヲ数フル有様ナレバ、前年来羊毛ノ買次ニ染手シタル同業者等ニ取リテハ唯一ノ目標トナルハ自然ノ数ニシテ、特ニ高島屋ノ如キハ同社ノ製品ヲ海軍省等へ納入スル代理店タルノ縁故ヨリ買次ギ新開業ノ手習双紙トシテハ当然ノコトニ属スト雖モ、手数料ノ如キハ素ヨリ問フ所ニ非ズトシテ同社ニ原毛ノ注文ヲ懇請シ来ル有様ナレバ、川西社長ハ之レヲ利用シテ早くモ当店買次手数料率ノ引下ゲヲ交

渉シ来リタレバ、本店古立ハ帰朝中ノ北村ト議シ新買次人ノ続出ニ拘ラズ可成注文ノ大部分ヲ依然トシテ当店ニ仕向クルノ諒解ノ下ニ、同社ニ対スル商店ノ買次手数料ハ之レヲ内外通ジテ原価ノ $11\frac{2}{2}\%$ ニ引下ゲタリ

猶被服廠本年ノ注文ハ先年ノ原地発注ト異ナリ商店ニ於テ Finance シ日本ニテ納入スル迄ノ手数ヲ要スルノ故ヲ以テ、手数料ハ $11\frac{2}{2}\%$ ヲ給セラル、コト、ナリ、千住製絨所モ亦同率ニシテ、民間諸会社ノ分ハ前文特例ノ外 2% 乃至 3% ノ間ニテ適宜調節進退シタリ

濠肥ノ stock 停滯ト臺肥

先年来濠洲産肥料ノ輸入ハ次第ニ鈴鹿商店本位トナリ内地商況大不振ニモ拘ラズ、同店ニテハ他日ノ好転ヲ思ヒ産地ノ供給筋ハ他商ノ勢力ヲ侵入セシメズ年来ノ特殊關係ヲ持續セン目的ヲ以テ、苟クモ濠洲ニ供給アル限り勉メテ之レヲ引受ケ商店亦之レヲ慫慂シ来リシ結果、此年季節後鈴鹿商店ハ多額ノ滞荷ヲ抱擁シテ其苦痛甚ダシク後続ノ輸入ハ動モスレバ中止ノ外ナキニ瀕セシガ、藤井再三渡臺熱心画策運動ノ結果相当ノ注文ヲ獲得シ以テ著シク鈴鹿ノ滞荷ヲ消化シテ難局ヲ救ヒタルノミナラズ商店亦為メニ五千円ニ近キ利益ヲ収メタリ

造船用濠洲木材ノ商盛—年度収益ノ首位ニ上ル

一昨三十九年漸ク長崎三菱造船所へ売込ノ端緒ヲ得タル造作用濠材ハ、昨今兩年ニ及ビテ本式ニ盛用セラル、ニ至リ、本年中三菱造船所へハ Colonial Pine 挽材一万三四千立方呎 (@1.70 cub. ft) 約二万二千円、Red Cedar 大丸太材五千立方呎 (@2.90 cub. ft) 一万四五千円、White Beech 同上五千呎 (@2.20 cub. ft) 一万千円、神戸川崎造船所へハ Colonial Pine 製材サネ板二万立方呎三万四千五百円ノ外、東京川村材木店へ Black Beat, Red Cedar, White Maple 等取合セ二三千円ノ売上アリ、小口 Hard wood ノ商買ヲ併セテ当年木材ノ総仕切高ハ九万円ノ新記録ヲ作り、其収益亦一万円ヲ超エテ羊毛・肥料・油脂等重要商品何レモ不振ノ折柄忽チ利益表ノ首位ヲ占メタリ

顧ルニ、木材勘定ハ一昨三十九年基隆築港用材大契約ノ為メ取引高六万余円ニ上リ一万三千余円

ナル意外ノ巨益ヲ挙ゲ突如トシテ主要商品ノ列ニ入りタルモノニシテ、昨四十年ニハ Hard wood
ヨリ Soft wood 本位ニ移リテ約七万円ヲ取扱ヒ九千円近キ好収アリ、当四十一年ハ更ラニ進ミ
テ商量九万円ニ上リ利益亦一万円ニ達シタル次第ナルガ、翌四十二年ニハ造船界早クモ不況ニ入
リテ造作用材ノ売行ハ杜絶セシモ、幸ニ神戸築港工所用 Hard wood 約七万円ノ入札ヲ占メテ木
材総扱高八万円ヲ維持シ七八千円ノ収益ヲ続ケタリ、然レドモ其翌四十三年ヨリハ堅材軟材何レ
モ著シキ取引ナク木材勘定商量ハ忽チ一万円左右ニ墜落シテ復タ振ハズ、尔来十数年断続的ノ商
買ハ無之ニ非ルモ、産地原価暴騰ノ結果特殊ノ用途ニ向ケラルベキ Hard wood 等ノ外到底多キ
ヲ望ミ難ク、商店輸入品 List 二於ケル木材ノ盛期ハ明治三十九年乃至四十二年ノ僅々四年ニ止
マリシ觀アリ

牛脂代金停滯ニ関スル稻葉丹浜堂組合経営ノ失敗

大阪ノ石鹼製造業丹浜堂ノ経営者稻葉潤吉氏ハ丹後久美浜ノ産ニシテ少時曾テ商店ガ経営セシ鍵
栄堂ニ従事シタルコトアリ、後同業ヲ自營スルニ及ビ原料ハ主トシテ商店ヨリ薬品香料等ハ多ク
春元商店ヨリ供給ヲ受ケ居リシガ、業態ニハ不似合ノ論客ニシテ動モスレバ空想ニ趨ルノ風アリ、
近年其一流ノ理想説ニ基キ販売方法ニ新規軸ヲ出シ事業ノ規模ヲ拡大シタルニ、地方ノ景氣不振
ニシテ売行之レニ伴ハズ、金融從テ円滑ヲ欠キ、三十九年末ヨリ四十年初ニ巨ルノ交統々着荷ス
ル先約原料ノ引取り兎角滞滯ノ嫌アリシガ、商店モ亦強テ之レヲ迫ラズ新規先約ヲ停止シ既約原
料ヲ徐々ニ消費セシムルノ方針ニ出デシ結果、四十年七八月頃ニハ商店ノ同商ニ対スル債権ハ四
千余円ノ約束手形一通ヲ残スノミトナリ居タリ

然ルニ此手形ノ其期日タル八月末日ニ至リ、丹浜堂ハ支払能力ヲ欠キ止ムヲ得ズ更新ヲ許シタル

ガ、稲葉ハ事業継続ノ善後策トシテ二大債権者タル当店及春元ニ説キ相当ノ出資ノ下ニ組合経営トナシ以テ原料材料ノ供給ヲ継続セシメントシ、古立ハ先年ノ鍵栄堂経営ノ前例ニヨリ原料商買ヲ続ケツ、徐々ニ此四千余円ノ債権ヲ回収セントノ希望ヨリ此提議ニ応シ、四十年末ヨリ当四十年初頭ニ跨リ七千五百円ノ組合出資ヲ決行シタルガ、一般ノ不況ト共ニ丹浜堂ノ経営ハ益困難トナリテ商店ハ着々深ミニ落込ミ、翌四十二年三月ニハ稲葉ノ手形債務総額五万余円ノ一半即弍万六千円ハ当店ノ債権ニ属シ、出資金ト併算シテ三万三千五百円ノ巨額ヲ算スルニ至リタレバ、稲葉所有ノ機械・動産・商標権等一切ノ財産ヲ八千円ニテ当店及春元商店ニ二ト一トノ割合ニテ書キ入レシメ、両店ハ尔後稲葉ノ経営ニ監督権ヲ行使スルノ契約ヲ結ビテ營業続行裡ニ其回収ヲ謀リシモ、既ニ業ニ手後レニテ僅カニ利息ヲ支払ハシメ得タルノミニシテ、元金ノ回収ハ数年ニ亘リテ毫毛進マザル内ニ稲葉ハ不遇ノ境ニ死亡シ、出資及債権総額三万五千余円ニ対シ死後ノ整理ニヨリテ回収シ得タル総額一万五千円ニ過ギズ

四千円ヲ救ハントシテ十年ノ煩勞ヲ続ケ却テ二万円ノ純損ニ膨大帰着セシムルノ結果ヲ来シタリ

官製煙草清国輸出組合出資ノ損失

店祖ノ知人松尾寛三氏煙草専売局へ運動シテ対清輸出特許ノ内諾ヲ得タルモ、支那貿易ニ経験ナキ同人名義ニテハ体面上如何ニモ特許ヲ公表シ難シトスルノ故ヲ以テ商店ニ組合加入方ノ勧誘來談アリシハ三十八年七月中ノコトニ属シ、当時店祖ハ其名義ヲ共同ニスルコトヲ諾シタル結果、三十九年ヨリ四十年初ニ亘リ商店ハ組合出資トシテ千五百円ヲ払込ミタルモ経営ノ実務ニハ携ハルコトナカリシガ、此事業ハ結局失敗ニ帰シテ四十二年末組合ヲ解散シ商店ハ僅カニ三百円ノ返還ヲ得タルノミニテ、千貳百円ト之レニ伴フ雜費ハ全損ニ帰シタルニ拘ラズ組合出資トシテ一時資産ニ計上セシガ、四十三年末決算ニ当リ漸ク損失トシテ処分シタリ

戊申ノ詔書下ル

本年ニ於ケル我国ノ經濟界ハ昨年末ノ不振依然タル有様ニシテ、紙商・革商等ヲ始メ商人ノ破綻ハ続出シ、銀行ノ取付モ亦屢起リ、綿糸紡績ハ聯合シテ操業ヲ短縮スルノ状態ナルニ拘ラズ、戦勝後財界ノ一時的好調ニ伴ヒ釀成セラレタル一般ノ侈美輕佻ノ弊風ハ依然トシテ止マズ、射利僥倖ノ念強クシテ勤勞ヲ賤ミ享樂ヲ思ヒ一タビ逆境ニ立チテハ忽チ自棄スルノ風アリ、馬券ノ流行会社員ノ費消事件続出等皆此一面ヲ語ルモノナリ

七月桂内閣成ルヤ財政ヲ整理シテ事業ノ大繰延ヲ断行シ、毎年一定額ノ公債償還ヲ公約スル等政府先ツ範ヲ示シテ一般ノ緊縮ヲ促シ金融漸ク緩和ニ向フヲ示セシガ、此年ノ輸出額ハ三億七千八百余万円、同輸入額ハ四億三千六百余万円ニシテ差引五千八百万円ノ輸入超過ヲ示シタリ
畏クモ明治大帝ガ「忠実業ニ服シ勤儉産ヲ治メ華ヲ去リ実ニ就キ荒怠相誠メ自彊息マザルベシ」

ト宣ヘル戊申ノ詔勅発布セラレタルハ実ニ此年十月ノコトニ属ス

馬券禁止ト商店ノ大損失

競馬ノ盛行ハ殆ンド停止スル所ヲ知ラズ、此年十月ニハ全国ニ廿二近キ団体ヲ有スルニ至リシガ、馬券ノ弊ハ益其度ヲ高メ或ハ狂シ或ハ産ヲ破リ或ハ自殺シ或ハ互ニ相殺傷スル等事故続出瀕發シ、馬ノ改良ノ為メ二人ヲ改悪スルノ実遂ニ蔽フ可ラザルニ至リ、政府ハ遂ニ馬券ノ發売ヲ禁止シタレバ、元々競馬ハ表看板ニ過ギスシテ馬券賣出シノ利益ヲ目的トスル競馬會、馬券賭博ヲ目的トスル看客ガ其大部分ヲ占ムル実情ナレバ、馬券ヲ禁ゼラレタル競馬ガ存続スベキ筈モナク、各地ノ競馬団体ハ忽チ閉息シ、而カモ之レ等団体ノ中心人物ハ多クハ所謂無産無信用ノ政治破落利權屋ノ徒ニ過ギザレバ、商店当年輸入取扱ノ馬匹七十余頭ノ内恰カモ当時入着シタル新馬十數頭ハ注文主タル団体ニ破約セラレテ殆ンド全損ニ歸シシ、当年ノ馬勘定ハ差引一萬円ニ近キ損失ニ歸シタルノミナラズ、更ラニ翌四十二年度ニ計上セラレタル損金四千五百円ノ外鳴尾・京都・関西

三馬匹改良会株式払込高約三千八百円ノ全然無価値トナリシ損失并ビニシドニーニテ養成中ノ馬
ノ損失等ヲ加フレバ、商店ガ競馬熱ニ浮カサレタル直接損失ハ実ニ二万円ヲ下ラズ

廣戸ノ年末シドニー入店、羊毛専務者初メテ育ツ

廣戸茂吉此年十二月シドニーニテ支店ニ入り（作州ノ人廿六才、林ト共ニ昨年東京高等商業学校ヲ卒業シ商店ニ応募セシニ採用一人ニ止マルヲ知りテ年少ノ林ニ譲リタル折柄、偶メルボルンニ万国婦人博覧会ノ開カル、ヲ聞キ、空想ヲ懷キ多少ノ商品ヲ仕入レテ渡濠セシガ事志ト違ヒタル結果、シドニーニテ Technical College ニ入り羊毛ノ研究ニ従フコト一年、此年 Shearing season ニ方リ支店ノ紹介ニテ Bellfrees 牧場ニ実習ヲ畢ヘテ歸市シタルガ、羊毛界ニ立ツノ希望切ナルニ任セ北村帰朝中ナルモ予テ多少ノ諒解モアリ前田ノ取計ニテ入店セシメタル次第ナルガ、永勤シテ商店ノ羊毛専務者トナリ、大正十二年濠洲兼松商店ノ Director トナル）専ラ羊毛買次業務ノ見習ヲ開始ス、十年前ノ舟津今夏ノ安東等日本側ニ於ケル羊毛専務者養成計画何レモ遂ゲサリシニ対シ廣戸ハ幸ニ成功シ、当時既ニ北村ノ指導下ニ訓練セラレツ、アリシ Costs ト相

並ビテ後年 Bayer トシテ北村ノ衣鉢ヲ継グニ至ル

年度商高激減二百万円ニ充タズ

三十九年ノ被服廠羊毛ノ大注文ガ四十年度ノ計數ニ入りタル後ヲ承ケ且ツ本邦財界一般ノ不況ニ影響セラレ当四十一年ノ商店商量ハ急激ナル減退閑散ヲ示シタルガ、羊毛ノ輸入量ハ五千俵弱七十五六万円ニ減退シテ僅ニ輸入総額ノ一半ヲ占メ、牛羊脂ノ七百屯廿三万円、肥料ノ三千余屯廿一万円ヲ兩翼トシ、Olive ノ三百余屯十万余円、木材ノ九万円、屠業雜貨ノ四百屯弱四万五千円、馬匹ノ七十余頭五六万円、牛ノ三十頭弱一万五千円、馬糧ノ一万二三千円等輸入着価総額百五十数万円ニ過ギズ

輸出ニ在リテハ、Towel ハ八千打一万四千円弱ニ急減シテ、魚油ノ百四十屯一万五六千円ニ首位ヲ讓リ、板紙ハ二百六十屯一万余円ヲ以テ第三位ヲ占メ、硝子瓶ノ六七千円之レニ次ギ、種油・寒天ノ各二千五六百円、綿織物・花莖ノ各二千円前後ノ外殆ンド言フベキモノナク、木曜島行ノ

雜貨六千數百円ヲ加ヘテ輸出總額八万円ニ充タズ
以上輸出入通計百六十余万円、外ニ臺灣肥料ノ取次価格十万余円ヲ加フルモ猶總高百八十万円ニ
モ達セズ

業績不振、年度利益前年ノ半ニ達セズ

前項ノ如ク商量ノ減退甚ダシキ上、馬ノ巨損等アリ、旁々日本側ノ營業益ハ一昨年ノ九万円弱昨年ノ七万三千円ニ対シ本年ハ僅カニ四万余円ニ減退シ、利息収入ハ連年漸増シテ本年ハ初メテ一
万円ヲ超過シタルモ、給料其他ノ諸経費モ亦漸増ノ結果、純益金ハ一昨年ノ八万円弱昨年ノ六万円弱ニ対シ本年ハ僅カニ二万五千円弱ニ急減シ、一方シドニー支店ノ収益モ一昨年ノ二万二千余円昨年ノ四万八千余円ニ対シ本年ハ僅カニ一万六千余円ニ過ギザリシ結果、内外ヲ通シテ本年度純益ハ漸ク四万余円ニ止リタレバ、其処分ニ当リテモ配当ハ $12\frac{1}{2}\%$ ニ止メ、店租ハ協定書ニ拠リ自己ノ収ムベキ功勞金ノ一部ヲ削リテ店員賞与金ニ加ヘ僅カニ一万余円ヲ積立金ニ累加シ得タリ

年度損益内容并ニ利益処分概表

前項概評セル所ヲ更ラニ表示スレバ左ノ如シ

〔表11参照〕

〈表11〉 明治41年度 収支及び利益処分概要

A 収支概要

輸入損益内容			総損益概括表	
木材	益	¥10,650	輸入利益 (左表ノ通り)	¥33,000
肥料	〃	9,800	輸出手数料	2,000
乳種牛	〃	6,650	臺灣肥料収益	4,600
羊毛	〃	5,200	其他ノ内国取引益	800
Tallow	〃	4,600	委托品利益	200
屠業雑貨	〃	3,100	総計営業益金	40,600
Oleine	〃	1,400	利息収入	10,800
輸入運賃割戻シ		1,200	家屋賃貸料 (前期ノミ)	450
合計		42,600	雑益	400
競馬 (附馬糧) 損	9,300	} 9,600	合計収益	52,250
輸入雑費	300		内 経費総額 (左表ノ通り)	27,850
差引輸入利益		¥33,000	差引日本側純益	24,400
			次表シドニー支店々	16,400
			合計内外総益	¥40,800
経費内訳				
本店俸給		¥9,750		
公課		6,800		
通信費		600		
旅費		900		
雑費		5,100		
本店合計		23,150		
東京支店総経費		4,700		
総計		27,850		

B 利益処分

年度純益 (上表ノ通り)		¥40,800
前年度繰越金		3,200
合計		44,000
此処分		
積立金へ	10,000	
店員慰勞積立金へ	1,000	
配当金 12 1/2%	15,000	
店主功勞金	3,000	
店員賞与金	6,000	
有価証券値下リ準備	4,000	39,000
差引次年度へ繰越		5,000

C Sydney Branch For 12 months ending 31/10/'08

<u>Loss</u>			<u>Profit</u>	
Salary & wages off	£1,370		Export Commission	£2,820
Labour	250		Insce Rebate	330
Travelling expense	250		Dumping / (wool)	140
Import Dis & Bad Debts	60		Interest charged and	} 350
Misc loss & Writing off	50		balce Cartage a/c	
Rent	185		Fre't Rebate	625
Audit fee	40		Import Profit	<u>185</u>
Income Tax	90		Total	£4,450
General Expense	<u>480</u>			
Total	<u>£2,775</u>			
				> 2,775
			Nett Profit	<u><u>£1,675</u></u>

輸入商品益ノ大不振注目ヲ惹クモノアリ、旅費ハ Brisbane 出張等營業向ノモノ微ニシテ北村帰朝ニ因スルモノ多キニ居ルコト見逃ス可カラズ

明治四十一年（一九〇八）年

明治四十二（一九〇九）年

陸軍糧秣廠ニ馬糧ノ売込ヲ試ミテ成ラズ

昨年十月馬券ノ禁止ニ因リテ濠馬ノ輸入ハ当分絶望トナリタルガ、競馬盛行中商店ガ輸入シタル各種濠洲産馬糧ノ残存セルモノアリ、折柄北海道ノ燕麦凶作等ノコトアルニツキ、北村此年二月上京ノ機ヲ以テ陸軍糧秣廠ニ対シ濠洲馬糧ヲ紹介シ其売込方ニツキ大ニ努力スル所アリシモ、遂ニ調談ヲ見ルニ至ラズ

米國小麥ノ輸入聯給ヲ試ミテ亦成ラズ

小麥ハ商店ノ濠洲輸入品トシテ既ニ重要ノ地位ヲ占ムルコト茲二年アリ、其需要者トノ關係モ頗ル円満良好ナルモノアレドモ、奈何セン日本ノ需要額ハ毎年多ク渝ラザルニ拘ラズ、産地作柄ノ豊凶并ニ米濠兩地ノ麥価比較如何等ニヨリテハ往々一年ヲ通ジテ全然無取引トイフガ如キコトアリテ取扱商品トシテノ安定性ヲ欠クコト甚ダシキニツキ、之レガ見返リトシテ米國産小麥ノ取引ノ途ヲ拓カントシ、此年偶々來訪セシ Seattle ノ小麥輸出商 Connell Bros. ト聯絡ヲ約シ九月頃ノ新季節ヨリ数次電信ヲ往復シタルモ、五百屯ノ見本荷取引ヲ見タルノミニテ遂ニ大成スルニ至ラズ、兩三年ニシテ此聯絡關係モ亦自然消滅ニ帰シタリ

対南阿輸出ノ端緒

茨城ノ人古谷駒平氏曩キニ邦人絶無ノ南阿ニ渡航シ、Capetownニ少ヤカナル日本品小売店ヲ開キ、苦辛經營既二十年ニ近ク次第ニ其規模ヲ拡大シテ近時稍成功ノ域ニ進ミタレバ、此年初久々ニテ帰朝シ日本品ノ買次ニ関シ適當ナル聯絡店ヲ物色シ居リシガ、恰カモ帰朝中ノ北村ト旧知ノ關係アルヨリ商店ニ接近シ来リ、輸出兼務主任四方之レヲ引受クルニ至リタレバ、此年二月ヨリ同氏ノ為メニ一定ノ手数料式ニテ邦品ノ買入レヲ開始シ、七月ノ船便ニテ始メテ約三千円ノ積出シヲ為ス、之レ商店ノ対南阿輸出ノ端緒ニシテ尔来幾多ノ變還ヲ経テ続業十有七年ニ及ブモ、其成績兎角不満足ヲ免レズ

神戸築港工用濠洲堅材ノ大口納入

店祖曩ニ神戸財界ノ同志等ト共ニ貿易調査会ヲ組織シ屢会合ヲ開キテ各種ノ調査ニ努メ居リシガ、同会ニテハ神戸築港ノ必要ヲ唱ヘ熱心調査且政府当局ヲ動かサント謀ルコト茲二年アリ、三十八年店祖最後ノ渡濠ニ際シテハ特ニ同会ノ西川書記ヲ伴フテ、シドニー港湾制度等ニ就キ深く調査シテ報告スル所等アリシガ、政府モ遂ニ其議ヲ進メ、四十年九月神戸築港式ヲ挙ケル来着々其工ヲ進メ来リシ結果、本年ニ入りテ岸壁防護等ノ目的ニ多量ノ濠洲産 Hard wood ヲ需要スルニ至リ、競争入札ノ結果遂ニ商店ニ Turpentine Piles 50' 付ノ 八百余本（一本ノ代金約八十五円）、Mixed Hard wood Girders 約八百挺此代金總計約六万八千円ヲ納入スルコト、ナリ、入札ハ一月ニ始マリテ三月ニ決シ其納入ハ十二月ニ終リタル近来ノ大取引ナリシガ、此注文確定ノ際支配人心得古立ハ本店当局トシテ支店ニ対シ通関用 Invoice ノ記入価格及表示運賃率ニ関シ指図スル

所アリ、支店当局前田亦軽々之レニ応シタル為メ数年後ニ至リ同業者ノ摘発ヲ受ケタルモノ、如ク関税通脱事件ヲ惹起セントシ幸ニ穩便ノ終局ヲ見タルモ一步ヲ誤ランカ、店祖ノ晩年ヲ汚サントスルノ危機ヲ醸生セシコト当時ノ関係者等ノ齊シク恐懼措ク能ハザル所トス

(藤井附記)

本件後半ノ記録ハ其当時幸ニ穩便ノ解決ヲ告ケタルコトニモアリ、余リ好マシカラザル事實ナルヲ以テ之レヲ削除スルコト然ルベシトノ意見モアリタレトモ、執筆者前田氏ノ意ハ記シテ以テ後ノ従業者ノ戒トナサントスルニアルヲ以テ、其意ヲ尊重シテ之ヲ存シ機密ヲ守ル為メ拙者手記シタリ

日濠館ノ建設愈決シ本店一時京町ニ移ル

店祖ノ不幸ナル病氣ノ為メカ夫レトモ前田ノ反對論ガ幾分ノ功果ヲ収メタル結果カ兎ニモ角ニモ約二ケ年間握リ潰シノ姿ナリシ日濠館建設問題ハ本年ニ入りテ愈確定シ、本店ハ此年三月四日居留地七十三番館ヲ附属倉庫ト共二月百五十円ニテ賃借移転シ、海岸通りノ建物ハ直チニ全部之レヲ取毀チテ四月下旬地鎮祭ヲ行ヒ工事ニ着手シタリ

前年北村ノ帰朝セントスルヤ或ハ其滞在中此議ノ再燃センコトヲ慮リ予メ諫止方ヲ勸説シ置キシ在濠ノ前田ハ此議ノ決セルヲ聞キテ憚ハズ、藤井亦窃カニ尚早論ヲ抱キシモ、此拳実ハ店祖年来ノ宿望ニシテ理外ノ問題ナル旨ヲ北村ヨリ承知スルニ及ビテ何レモ復タ再ビ言ハザリシガ、後年薇園氏ノ著兼松濠洲翁出版セラル、ニ及ビ初メテ深ク店祖ノ意此建築ヲ以テ天下逆境ノ青年ヲシテ奮起セシムルノ資料タラシメントスルニ在リシヲ知ル

其様式ノ貸事務室トシテハ実ニ贅沢ニ失シ、甚ダシク不経済ナル建物タルコト敢テ怪ムニ足ラズ

明治四十二（一九〇九）年

店祖ノ健康漸ク恢復ス

三十九年秋来ノ店祖ノ大患ハ一時店員等ヲシテ危懼ノ念ヲ懷カシムル程ナリシガ、漸ク褥中ニ新年ノ祝杯ヲ挙ゲタル病体モ医療漸次効ヲ奏シ、四月ニハ一年半振りニテ而カモ諏訪山ヨリ徒步居留地ノ臨時事務所ヲ訪ヒ、同月末ニハ店員ノ妻女等ヲ又五月初ニハ店員等ヲ招キテ全快ノ祝宴ヲ張ルニ至リ、尔来或ハ別府ニ避暑シ有馬ニ湯治スル等只管体力ノ回復ニ勉メシガ、秋冬ノ交ニ及ビテハ殆ンド病前ノ健康ヲ恢復シ店員等初メテ安堵ノ思アリ

商高一時神戸ヨリ東京ニ偏ス

被服廠・製絨所等官庁ノ羊毛買次方下命ヲ受クルニ至リテ以来、東京支店ノ扱高ハ数字上頓ニ重要ノ度ヲ加ヘ、前年ノ同支店仕切高ハ本店ト略同額ニ上リシガ、更ラニ今年ハ被服廠ノ三千四百俵、千住ノ千三百俵、東京製絨会社ノ四百俵等アリテ、同支店ノ羊毛仕切高五千俵ヲ超エ金額七十万円ニ上リタル外、鈴鹿商店ニ対スル肥料ノ仕切高亦十三四万円ヲ數ヘ何レモ商店総扱量ノ七八割ニ居リ、牛羊脂ノ十万円、Oleine ノ六万円等亦総扱高ノ過半ヲ占ムル有様ナレバ、品種コソ本店ニ比シ少ナケレトモ、支店本年度仕切高ハ忽チ百万円ヲ超エテ本店ノ夫レニ倍セントス然レトモ、翌年ヨリハ *Wool* ノ取引開始セラレ本店扱ノ毛斯綸紡ヘノ仕切高巨額ヲ占ムル結果、本店仕切高ハ早クモ支店ノ夫レヲ凌駕スルヲ見ル

依然トシテ苦シキ商店ノ金融

明治三十八年以來商店ノ業績ハ着々トシテ挙リ、其實資力ハ一時ノ *Illness* ニ比シテハ無限大ヲ致セリト雖モ、其商量ニ対シテハ固ヨリ充分ト言フベカラズ、殊ニ一旦失墜シタル信用ノ恢復ハ自ラ求メテ得ベキ筋合ニ非ザレバ、正金銀行ニ対シテハ一々約定ノ詳細内容ヲ具申シテ初メテ信用狀ノ発行ヲ得ル次第ナルハ勿論商店ノ状態ハ時々之レヲ報告スルノ外毎年幾回時ヲ期シテ諸帳簿ノ檢閲ヲ受クルコトハ依然タリシガ、此年偶々同行神戸支店買弁ノ大費消事件發覺シ青木支店長ハ責任上革職セラレ、宮川久次郎氏新タニ支店長トシテ着任セルニ及ビ万事ニ対スル同支店ノ警戒的態度ハ實ニ甚ダシク商店ノ如キモ為メニ受クル所ノ不便苦痛尠カラズ、年末店祖ハ三菱銀行ニ一部ノ金融策ヲ目論ムニ至リシ形跡アルモ之レ亦成功セザリシモノ、如シ

三井ノ組織変更

合名会社三井銀行ハ此年十一月資本金貳千万円ノ株式会社ニ組織ヲ変更シ、三井物産モ従来合名会社組織ナリシヲ右ト同時ニ資本金貳千万円払込済ノ株式会社ニ改メタリ、而シテ兩社ガ現在ノ資本一億円ニ増加変更シタルハ大正八九年ノコトニ属ス

濠洲ニ Top 製造業起ル

予テシドニ一近郊ニテ洗毛業ヲ営ミ来リシ F. W. Hughes ナル者一兩年前ヨリ Top ノ製造ヲ企テ、労働党政府当局ヲ動カシテ Top ノ製造業補助法案ヲ作ラシメ着々其準備ヲ進メツ、アリシガ、其販路ハ専ラ日本ヲ目的トスルモノナレバ、北村ハ夙ニ之レニ接触ヲ保チ彼レノ為メニ或ハ日本ノモスリン工業ニ適スル Top ノ見本ヲ蒐集シ或ハ其需要量ヲ調査シ各種ノ情報ヲ与フル等援助尽力スル所尠カラズ、自然其製品ヲ出スノ曉ニハ其販売ニ関シ先ヅ商店ニ謀ルベキ言外ノ諒解アリシニ拘ラズ、Hughes ハ前年末遮ニ無ニ之レニ接近シタル三井ノ勢力ヲ信シテ不徳義ニモ当方ニ一言ノ挨拶ナク其製品ノ一手販売ヲ三井ニ約シ、三井ハ又之レヲ年来英国 Top ノ供給上特殊ノ関係アル東京モスリン会社（当時ノ専務ハ端善次郎氏）ニ特約シタルモノ、如ク此年後半 Hughes ガ弗々製品ヲ出ダスヤ順次三井ヲ經由シテ東京モスリンへ納入セラレ毛斯綸紡織（大坂）

ノ如キモ東京モスノ立場ヲ羨望シテ心平カナラザル觀アリシガ、未ダ半年ナラザルニ早クモ品質并ニ水分等ニ関シテ東京モスリンニテ大苦情ヲ惹起シ、翌四十三年早々 Hughes ハ三井ノシドニー支店井島羊毛主任ト共ニ来朝シ親シク端モスリン専務ト接衝セシガ、兩者互ニ譲ル所ナク暴言ヲ交換シテ交渉忽破裂シ加フルニ此間三井ノ暴利暴露セラレタルヤニテ、旁 Hughes ト三井トノ特約關係亦破レ、Hughes ハ新タニー手販売店ヲ契約スルコトナク当店・増田屋・ラスペ商會（独商）其他ノ在日本輸入商ニ齊シク製品ヲ販売スル方針ノ下ニ前年東京製絨会社ニ備ハレ来朝滯留セル英人 J.A. Hallam ヲ其日本駐在代表者トシ、市況ノ情報苦情等ノ解決ハ勿論シドニーニ機関ナキ輸入商ノ注文取次キニモ当ラシムルコト、シタレバ、尔後商店ニテハ正面ヨリハシドニー支店ニ依リ側面ヨリハ Hallam ヲ使ヒテ Hughes 製品ノ大部分ヲ買収シ一定ノ手数料ヲ以テ毛斯綸紡織等へ供給スルニ至リ、尔来幾多ノ變遷ト波瀾アリシハ勿論大正九年ニハ商店空前ノ大訴訟問題ヲスラ惹起セシモ、而カモ其商買ハ其後十有七年ノ今日猶繼續シ商店取扱重要品ノ一タルヲ失ハズ

年度輸入金額前年同調百五十五万円

本年ノ輸入扱高ハ羊毛ニ於テ三四割ノ増加ヲ来シテ約七千俵百万余円ニ上リタルモ、肥料ハ約三割減ノ二千三百余屯十五万円、牛羊脂ハ半減ニ近キ三百八十屯十二万余円ニ下リ、木材ハ稍増加シテ十万円ヲ超エタルモ、Oleineハ稍減シテ式百八十五屯八万五千円ニ止マリ、屠業雜貨四百数十屯五万円弱、椰子油・皮革類各二万円前後、其他雜品ヲ併セテ着価総額約百五十五万円ニシテ結局昨年ノ金額ト略相同シ、而シテ此総額中運賃ハ約十万円、輸入税金ハ約三万円、陸揚費ハ約五千円トス

輸出扱高初メテ廿万円ヲ超ユ

商店創業後数年間ニ於ケル対濠輸出扱高ハ概シテ其輸入扱高ト相角逐シテ多ク遜色アルヲ見ズ、明治廿七八九年ノ頃ニハ輸入金額ノ急増ニ伴フ能ハズシテ約其半額ニ下リシモ、三十年ニハ輸入額反動減ノ折柄、輸出ハ年額十七万円ニ増進シテ再ビ輸入額ト相拮抗セン、概ヲ示センニ、翌三十一年ヨリハ肥料・羊毛等ヲ主トスル輸入貿易ノ發展ノ外、蚕糸部ノ拡張ニ次デ、対清貿易ノ経営等ノ為メニ商店幹部ノ注意ヲ傾倒スルアリテ対濠輸出ハ全然疎外セラレ、本店ニテハ鈴木・妹尾ノ兩人ニ全任放棄セラレ、シドニー側ハ大西一人事ニ当ルノミ、兩者互ニ其地ヲ踏マザルハ勿論相互ノ面識スラ無之、僅カニ不完全極マル通信ヲ頼リニ其日暮シ式ニ之レニ従事スル有様ナレバ、三十年ノ輸出货量十七万円ニ漸減シテ、三十五年ニ八十万円ニ下リ、三十六年ニハ金融ノ窮策上精米五万円ノ輸出ヲ加ヘシ為メ輸出年額一躍十七万円ニ上リシモ、尔来再ビ漸減シテ屢十万円

ヲ下ルニ至レリ、三十八年古立ノシドニーヨリ帰朝スルヤ為メニ其主力ヲ輸出ノ振興ニ用フルノ約ナリシモ其実行持久セズ、於是乎、四十年ニハ妹尾ヲシドニーニ転シ、四方會計主任ニ輸出兼務ヲ命シテ本務ト兼務トヲ転倒セシ計リニ之レニ従事シ、四十年ヨリハ漸次学校出ノ青年ヲ加フル等其振興ヲ策シタル効果必ズシモ空シカラズ、植物性油類及ビ羽二重ノ輸出ニ多少ノ生面ヲ開キ板紙ノ進展ヲ見ル等本年ノ輸出高ハ始メテ廿万円台ニ上リテ総額廿二三万円ヲ算シタリ其金額ノ重ナルモノヲ挙グレバ

植物性油	六万二千元	桐紙	一万三四千打	三万五千元
羽二重	三万二千元	板紙	三百七八十屯	一万五千元
玉葱	一万二千元	硝子瓶		八千元
卓掛類	七千元	合利籠類		七千元
絹手巾	六千五百円	樟腦		五千元

外ニ南阿輸出約五千円等トス

然レトモ、輸入ハ三十七八年来既述ノ通り急増シ、昨今兩年ノ大不振ヲ以テスルモ猶年額百五十万円台ニ在ルヲ以テ、輸出ノ金額ハ輸入ノ15%前後ニ過ギズ

日本側年度益二万円ニ達セズ
シドニー支店収益三万円ヲ超ユ

当年ノ濠洲輸入ハ羊毛約七千俵ヲ数フレドモ為メニ得ル所ハ五千元ニ達セズシテ *Oleine* ノ収益七千元ニ及バス、肥料モ亦甚ダ振ハズシテ、木材・牛羊脂等ト共ニ各四千元百円ノ利ヲ拵ゲ得タルニ過ギザルニ、昨年ノ馬ノ累ハ今年ニ及ビテ猶四千元百円ノ続損ヲ来タシ、旁々輸入ノ年度総益ハ僅ニ二万四千元ニ充タズ、輸出手数料収入ハ昨年ニ倍加シタリト雖モ猶四千元百円ニ止マリ、内国売買益ハ臺灣肥料ノ引続キ成功セシヲ主因トシテ珍ラシク一万円ヲ超過シタルモ、昨年来競馬会社ノボロ株ノ外、店租ガ神戸海上・東亜セメント等ノ新会社ノ株式ヲ引受ケ数万円ノ資力ガ有価証券ニ固定シ、而カモ配当ナキ為メ利息収入ハ昨年ニ及バザルニ、近年漸増セル日本側経費ハ本年ニ入りテハ本店ノ家賃ヲ要スル等ト旁ニテ三万円ノ巨額ニ上リタレバ、日本側年度純益ハ

僅カニ一万八千四百円ニ下リタリ

反之シドニ支店ニテハ、輸出手数料式千余円、輸入利益千八百余円、諸割戻シ金千円、雑収入三百円ノ外、本店ニ対スル Over charge 千円等總計六千百數十円ノ収入ニ対シ、俸給千七百円、家賃百六十円、商品及什器銷却三百七十円等ヲ含ム總損三千余円ヲ以テ差引殆ンド前年ニ倍スル參千百余円ノ總益ヲ挙ゲタレバ、之レガ換算額約三万八百円ヲ總決算益ニ加算シタリ

但シ、シドニ支店ノ本店ニ対スル前文 Over charge 約千円ハ其起因内容審カナラザル所アルモ、所得税關係上本店主脳部ノ請求ニ基キ便宜取計ラヒタルモノ、如ク自然シドニ支店ノ所得ヨリ削減シテ本店所得ニ加算スベキ性質ニ屬スルモノ、如シ

以上、内外通算四万九千余円ノ処分ハ前年ト大差ナク、只積立金ニ於テ幾分ノ増額ヲ決センノミ次項概表ニ之レヲ明カニセン

明治四十二年度収支并二利益処分概表

〔表12参照〕

明治四十二年（一九〇九）年

〈表12〉 明治42年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

輸入収益及損失内容			総損益概括表	
Oleine	利益	¥7,000	輸入純益 (左表ノ通り)	¥23,900
羊毛	〃	4,750	輸出手数料収入	4,400
肥料	〃	4,650	内国売買益金	10,200
木材	〃	4,550	諸割戻シ金	1,200
Tallow	〃	4,300	以上営業益合計	39,700
屠業雑貨	〃	3,550	利息収入	8,550
皮革	〃	1,500	雑益	150
椰子油	〃	1,000	以上総益	48,400
計		31,300	内 総経費 (左表ノ通り)	30,000
馬及馬糧	損失 4,500		差引純益	18,400
雑品損及雑費	1,400		シドニー支店純益 (次頁ノ表)	30,800
後半期 Cables	1,500	7,400	計内外年度純益	¥49,200
差引輸入純益		<u>23,900</u>		
経費内容				
本店給料		11,100		
〃 課税		6,500		
〃 家賃		1,700		
〃 通信		700		
〃 旅費		500		
〃 雑費		4,900		
小計		25,400		
東京支店経費		4,600		
総経費		<u>30,000</u>		

B 利益処分

上表年度純益	¥49,200
前年度繰越金	5,000
合計	54,200
此処分	
積立金へ	22,150
店員慰労同上へ	1,250
店主功労金	4,000
店員賞与金	6,000
配当金 12 1/2%	15,000
差引次年度へ繰越	<u>¥5,800</u>

明治四十二（一九〇九）年

C シドニー支店収支内容

俸給	1,700		輸出手数料収入	£2,050
家賃	160		輸入商品利益	1,800
旅費	130		特別収入	1,000
輸出諸費	170		諸割戻金	1,000
雑費	500		雑益	<u>310</u>
商品及什器銷却高	370	3,030	以上総益	6,160
差引純益		<u>£3,130</u>		

明治四十三年（一九一〇）年

協定書持分ノ一部更訂、藤井・守田・井垣ノ参加

四年前店祖ノ欽定発表シタル協定書ニハ当時式千五百円ノ持分予備ヲ存セシ上、其後稲葉ノ辞任退店ニ因リテ其持分式千五百円モ亦帰属ヲ失ヒタルガ、此両口五千円ヲ以テ店祖ハ今年頭持分ノ一部更訂ヲ行ヒ、古立二千円、四方二千五百円ヲ附加シ又新タニ藤井（入店後僅ニ三年有余）ニ式千円、守田二千円、井垣二千五百円ヲ附シテ協定ニ加入セシメタル結果、各員ノ持分ハ左ノ通り改訂セラレタリ

店祖	六万円	北村	二万円	古立	一万千円
前田・入江・四方	各五千円			大西	四千五百円
鈴木・妹尾	各千五百円			藤井	式千円
山本・守田	各千円			井垣	五百円

計 拾貳万円

市場金利下落、三井銀行トノ取引再開

勤儉ノ御詔勅ハ漸次都鄙ノ人心ニ浸染シ一般不況銷沈ノ折柄、政府ノ公債政策亦之レニ伴ヒ企業熱ハ昨年来頓ニ萎靡シ、日本銀行ハ春来二回ニ亘リテ金利ノ引下ゲヲ行ヒ、国債担保ノ貸出シ日歩ハ遂ニ一錢三厘ニ下リタルモ、商量漸増ノ上日濠館工事ノ進行ヲ控ヘタル商店ノ金融ハ其苦シキコト依然タル有様ニシテ、本店ハ此年三月三井銀行トノ取引ヲ再開シテ以テ何分ノ融通力増加ヲ図ルニ至リタリ

同行トハ創業直後数年間ハ頗ル密接ナル取引關係アリシモ、貿易銀行ノ設立前後ヨリ最近十余年間ハ取引断絶シ居リシモノナリ

前田東京支店長ヲ命ゼラレ、入江交替渡濠ス

四月一日前田ニ東京支店長ヲ命ジ、前支店長入江ハ一時本店詰トシテ店務ノ全般ニ亘リ研究ノ上、シドニー支店詰ヲ命ゼラレ七月下旬發赴任シタリ

東京支店ヲ丸ノ内ニ移ス

明治三十四年ノ改革期以來、我が東京支店ノ深川区佐賀町ニ在ルコト十年ニ近ク場所柄上輸入品ノ荷捌キ指図ニハ至テ便利ナルモ、取引先トノ地理隔絶シテ其不利甚ダシキノミナラズ、佐賀町ハ肥料商ノ巢窟ニシテ貿易商トシテハ如何ニモ適ハシカラザルニツキ、前田ハ予メ入江ト謀ル所アリ、着任ト共ニ内幸町一丁目ノ貸事務所万国館内ノ二室ヲ賃借シ、四月廿日ヲ以テ支店ヲ之レニ移転ス、家賃月六十円ナリ

前田千住製絨所注文ニ突進ス

千住製絨所ガ其開設以來約三十年ニ亘リ日本ニ於ケル羊毛ノ最大消費者タリシコトハ屢記述シタル所ニシテ、殊ニ日露戰役終局後軍備充實ノ為メ設備ノ倍加セラレテ以來其原毛消費量ハ急激ノ増加ヲ来シ、昨四十二年度即一九〇九—一〇羊毛年度ノ如キハ濠洲脂付羊毛ノ買上高實ニ一万余左右ヲ算シ、之レニ対シ被服廠ノ総買上高ハ約四千俵、民間ニテハ日本毛織ノ需要量ガ陸軍ノ羅紗服地ノ注文ニヨリテ著シク増加シタリト雖モ猶年額四千俵ニモ達セズ、況ンヤ社運不振ノ東京製絨・後藤毛織等ノ需要ハ殆ンド論ズルニ足ラズ、東京毛織ハ漸ク会社ノ成立シタルノミ然ルニ被服廠ノ注文ハ幸ニ數年来殆ンド商店独占ノ觀アリ、日本毛織ノ注文モ亦十ノ七八ハ商店ヘ發セラル、ノ実情ナルニ拘ラズ、独リ最大需要者タル千住ハ三十八九年來漸ク商店モ亦之レニ参加シ得ルノ端ヲ開キタリトハ言ヘ、其注文ハ依然トシテ大倉組本位ニシテ既ニ昨年度一万余俵

ノ購入中商店ハ其四分ノ一タル二千五百俵ヲ買次ギタルノミテ他ハ全部大倉組ノ占ムル所トナリタル実状ナレバ、商店ノ羊毛扱高ノ増加ハ此製絨所ニ向ツテ突進スルノ外ナキコト明カナリ。於是前田ハ東京就任第一ノ任務トシテ千住注文ノ大部分ヲ其手中ニ収メンコトヲ期シ、シドニー在勤中ニ得タル羊毛智識ノ限りヲ尽シテ千住当局ヲ説キ、洗上ゲ歩留リ試験ヲ行ヒ、大倉組納品ト商店扱品トノ実蹟比較ヲ示サンコトヲ要望シ、一面羊毛ニ関スル商店ノ実力ヲ示ス為メ創業以來ノ羊毛取扱高・市場席次表・其他諸統計ヲ添ヘテ願書ヲ提出スルニ至リシガ、前所長大竹博士ハ此年五月他ニ転シ、軍閥因縁ノ臭味深キ俣賀主計監之レニ代リ、坂口事務官ハ曩ニ去リテ稅務官ヨリ転シ来レル岡林事務官ハ就任日猶淺ク、之レ等ノ事情ハ目的ノ達成ニ困難ノ度ヲ加ヘタリト雖モ、邦利ト店益ト相両立シ得ベキ正々堂々ノ論陣ナレバ何等ノ遲疑ヲ要セズ、前田ハ毎週兩三回往訪説得ニ勉メタレバ希望ハ漸次実現セラレ、当年度（一九一〇—一九一一年羊毛年度）ノ注文分配率ニ於テハ、大倉組五、商店三ノ比ニ上リ、翌一九一一年度ハ更ラニ進ミテ大倉組ト同率迄漕ギ付ケタルモ、其間後門三井・高島屋等ノ新顔ヲ容ル、ノ止ムナキニ至リ之レ等兩店モ亦各一小部分ノ注文ヲ獲得スルニ至ル

羊毛取扱高ノ著増、年度買次輸入高壹万三千俵

我がシドニー支店ノ羊毛買次ハ三十八年大竹千住製絨所長渡濠中同所所要原毛買次ノ端緒ヲ得テ新生面ヲ開キ、翌三十九年矢野陸軍被服廠長ノ渡濠ニ因スル大注文ニヨリテ一九〇六―七羊毛年度ノ支店買付高ハ更ラニ破天荒ノ増進ヲ示シ一躍一萬数千俵ニ上リテ市人ヲ驚カシタルモ、翌一九〇七―八及一九〇八―九ノ兩年度ニハ被服廠ノ注文切レト一般ノ不振トノ為メニ、我買附高ハ再ビ年額五七千俵ニ逆轉シテ四十一二兩年度ノ商量激減ヲ致シタル次第ナリシガ、四十二年秋ニハ被服廠ノ補充注文四千俵ノ下命アリ、千住製絨所ノ注文高亦二千俵ヲ算シ、多年ノ得意タル東京製絨ハ甚ダ振ハズシテ注文量漸ク千俵前後ニ過ギザリシモ、新進日本毛織ノ注文高ハ三千俵ヲ超ユルノ好調ヲ示シタル結果、一九〇九―一〇年度我シドニー支店ノ買付高ハ再ビ一萬俵台ニ上リタルコト北村前年帰朝中ノ勸説尽力ニ負フ所亦尠カラズ、斯クテ今年商店ノ輸入高ハ前半期ノ

ミニテ既ニ一万俵ニ垂ントシ、下半期末ノ輸入高亦三千俵ヲ超エ、合計曆年輸入高ハ約一万三千俵ヲ数ヘ価額ニ百万円ヲ超過スルヲ見ル

明治四十三（一九一〇）年

創業以来廿年間ニ於ケル羊毛取扱高ト注文先

商店創立ノ翌年即明治廿三年四月シドニー支店ヲ開設シ同年初メテ六万ポンド弱ノ Sourced Wool ヲ輸入シテ以来、昨四十二年末ニ至ル廿年間ニ於ケル商店羊毛取扱総高ハ約千四百七十万ポンド此俵数概算五万俵ニ近シト雖モ、此内被服廠ノ大注文アリタル明治四十年ハ約五百五十万封度一万八千余俵ヲ以テ優ニ其三分ノ一ヲ占メ又三十八年ヨリ四十二年ニ至ル最後ノ五ケ年ノ取扱高ハ千百三十万ポンド三万六七千俵ヲ以テ総量ノ約四分ノ三ヲ占ムルニ見テモ、当初十五ケ年間ノ取扱高ガ如何ニ微々タリシカヲ知ルニ足ルベク、最初ノ五ケ年間八年数万ポンド、次ノ十ケ年（自明治廿八年至三十七年）ハ毎年二三十万ポンドニ過ギズシテ、只三十二年ニ於テ二千俵六十万ポンドノ巨量ヲ取扱ヒタル一異例アルヲ見ルノミ、更ラニ之レヲ各注文先ニ区分シテ觀察セシニ

最モ古キハ大坂毛糸会社及ビ東京製絨会社ニシテ

大阪毛糸会社ノ注文ハ明治廿三年ノ唯一回ニシテ、廿四五六ノ三ヶ年ハ既ニ断絶シ、廿七八九、三十、三十一二ノ六ヶ年ハ経営ハ何レニ移リ居リシカ之レヲ審ニセザルモ多少ノ注文アリ、三十三四五六ノ四年ハ又取引ナク三十七八九、四十ノ四年度ハ既ニ日本フラネル製造会社又ハ日本フラネル会社時代ナリシガ幾分ノ売込アリ、四十一二ノ兩年度ハ又々断絶セシガ、先代後代ヲ通シテ此廿年間ノ売込高ハ約八十五万ポンド、而シテ此工場ハ今ハ大坂毛織会社トナリ居ルモノナリ

東京製絨会社ノ注文ハ一年遅ク明治廿四年ニ初マリ翌廿五年ノ外ニハ中絶ナク、廿七年以前及ビ三十四五六ノ三ヶ年間ハ年数万ポンドニ過ギザリシモ、其他ハ大抵毎年二三万ポンドノ注文アリ、商店ニ取りテハ所謂書キ入レノ得意先ニシテ三十二年ニハ五十万ポンドヲ超エ、廿年間総注文高約三百三十万ポンドヲ以テ民間注文ノ群ヲ抜き居ルガ、此会社ハ後年東洋毛織及ビ東京毛織物ト三社併合シテ今日ノ東京毛織会社ノ一部ヲ為スニ至リシモノナリ

後藤毛織（現在ノ後藤毛織ニ取りテハ先代カ先々代カ先々代カ起伏瀬繁ニツキ明示スルコト難シ）トハ廿六年ニ取引始マリ居ルモ、其後ハ後身タル品川毛織ヲ通算シテ廿七八九、三十及ビ三十八、四十二年ト断続的ノ取引ニ過ギズ、総量モ亦十五万ポンドヲ数フルノミ

福島組及大倉組ニ対スル千住製絨所所要羊毛ノ注文下請ハ、三十年ニ始マリテ三十六年ニ終リ、

総量十三万ポンド

大阪毛布及其後身大阪毛織物製造所へハ三十二四七ノ三年ニ小取引アリシモ、総量七万ポンドニ過ギズ

新進日本毛織ノ注文ハ三十二年ノ二万ポンド弱ニ始マリ翌三十三年ニハ僅カニ数千ポンドニ減シ、三十四五六ノ三年ハ各十万ポンド前後、三十七八兩年ハ中絶、翌三十九年ハ七万ポンドニ過ギザリシモ、四十年以後ハ毎年六八十万ポンドニ急増シ、四十二年末迄ノ十ヶ年注文高総計貳百六十余万ポンド

千住製絨所ニ対スル直接納入ハ三十八年末ノ廿万ポンドニ始マリ、四十二年末迄四五年間ノ総納入高二百三十万ポンドニ近ク

陸軍被服廠へノ納入ハ明治四十年三百六十余万ポンド、四十一年四十四万ポンド、四十二年百二十余万ポンド合計五百三十万ポンドニ近ク、千住分ト併算スレバ僅々三五年間ニ民間ニ対スル過去廿年間ノ総量ヲ凌駕セルヲ見ル

濠洲羊毛ノ日本輸入総量ト商店扱高トノ対照

之レヲ大蔵省ノ統計ニ徴スルニ、明治十六年以前ハ明カナラザルガ同十七年ニ於ケル濠毛ノ輸入数量八万余ポンド、十八、十九、廿ノ三年ハ十数万乃至三十万ポンドナリシガ、廿一年ニハ一躍七十余万ポンドニ急増シ、尔来明治廿七年迄ハ毎年四五十万ポンドヨリ七八十万ポンドマテノ間ヲ上下セシガ、廿八年ニハ日清役ノ結果百六十万ポンドニ倍加シ、尔来三十六年迄ハ百一二十万ポンド乃至百五七十万ポンドノ間ヲ往来シ、日露開戦ノ明治三十七年ニ至リテ忽チ四百万ポンドヲ超エ、三十八九ノ兩年ハ二百万ポンド前後ニ減セシモ、四十年ハ再躍千万ポンドニ垂ントシ、四十一年ニハ再ビ二百万ポンド台ニ下リシモ、四十二年ニハ四百万ポンドニ復シ、廿三年ヨリ四十二年ニ至ル廿年間ノ総輸入累計ハ四千百余万ポンドヲ示ス

サレバ前項当店ノ取扱高ハ此総量ノ三分ノ一ヲ超エ三割五六分ニ当ルト雖モ、之レヲ期間ニ分ツ

トキハ日清役前ハ僅カニ五七分ニシテ一割ニ達シタルコトナク、其後三十八年迄ハ三十二年ノ特ニ高率ナリシ一例ヲ外ケバ大体一割乃至二割ノ間ヲ往来シタルニ止マリ、三十九年千住ノ注文ニヨリテ一躍四割ニ近ツキ、四十年ニハ被服廠ノ大注文ヲ扱ヒテ再躍五割五分ニ上リ、更ラニ四十年ニハ七割ニ進ミタルモ、四十二年ニハ六割弱ニ一退シタルモノニシテ其後数年間商店ハ常ニ総輸入ノ三分ノ二ヲ取扱フコトヲ目標トシテ奮闘シ六割前後ノ実績ヲ収メタルガ、同業大倉組ガ商店ノ為メニ其牙城千住ヲ衝カレテ漸次潤落ノ風情ヲ示スニ反シ、新參三井及高島屋八年々其勢力ヲ扶植シ来リ、尔来十有余年現今ノ総輸入高ハ量ニ於テハ往年ニ数倍シテ年々十数万俵ヲ数ヘ商店扱高モ連年数万俵ノ多キヲ致シタルモ、其分野上ノ商店ノ目標ハ漸次低下シテ三分ノ二ヨリ一半トナリ、五割ヨリ四割トナリ、其実績ハ四割ヨリ三分ノ一二近カラントスルノ勢ヲ示ス、亦止ムヲ得ザルモノ乎

新旧羊毛輸入業者間ノ注文獲得戦漸ク激シ

高島屋ハ曩ニ大沢シドニー出張員ニ実業練習生ノ任命ヲ得テ羊毛ノ研究ニ従ハシメ、三十九年暮被服廠長ノ渡濠ニ際シ少量注文ノ割当ヲ得テヨリ、四十年夏秋ノ頃ニハ早クモ買次手数料引下ゲノ手段ニヨリテ日本毛織ノ注文引受ニ努力シテ漸次其歩ヲ進メツ、アリシガ、昨四十二年ニハ磯兼店員ヲシドニーニ派シ、今年初ニハ大沢ニ一時帰朝ヲ命ジテ千住製絨所工場ニ就キテ短期実習セシムルト共ニ、多年御用商人トシテ海軍省始メ諸官庁納品ニ従事シ来リシ縁故ヲ以テ、千住製絨所及被服廠ノ羊毛注文引受ニ運動スル所アリ、遂ニ今秋ノ新季注文ニ当リ被服廠ヨリハ数百俵、千住ヨリハ数万ポンドノ初注文ヲ獲得シテ大沢ハ九月癸再ビ渡濠シテ其買付ニ当リ滞留數ヶ月ニシテ帰朝、更ラニ同店羊毛取扱業ノ進展ヲ画スル所アリ

三井物産亦先年シドニー支店開設以來漸次羊毛取扱ノ段取ヲ進メツ、アル折柄、別項既述ノ通り

Hughes Top ノ独占ヲ失フテ更ラニ躍起運動ノ結果此秋初メテ千住製絨所ヨリ数万ポンドノ試注文ヲ受ケテ、更ラニ被服廠ニ突進シ猶ホ従来ノ取引尻債權ヲ背景トシテ東京モスリン会社（ガ最近自家 Combing ヲ開始シタルニ当リ）ノ Combing 用原毛ノ独占供給ヲ期シテ尽力剩ス所ナク大倉組モ亦多年ノ独占壇場タリシ千住ノ注文ヲ当店ノ為メ二次第二蚕食セラレテ、被服廠ニ反嚙シ来リ、本秋被服廠新季注文千俵ヲ獲得シ又大株主タル關係ヲ利用シテ東京製絨会社ノ注文独占ヲ画スル等

羊毛輸入界ハ益混戦ノ姿ヲ呈ス

濠洲 Top ノ取扱開始、附當時ノ我モスリン界

前年ノ項下既述ノ如ク在シドニー Hughes 工場製造 Top ノ日本販売ニ対スル三井ノ独占關係ハ半年ナラズシテ脆クモ破綻シタレバ、商店ハ時ヲ移サズ行動ヲ開始シ本店ニテハ藤井主トシテ事ニ当リ、先ヅ昨秋來東京モスリンノ独占ニ対シテ垂涎措カザルノ感アリシ大阪ノ毛斯綸紡織会社ト提携シ、正面シドニー支店ヲ通シ側面 Hatfield ヲ利用シテ着々大口先約定ヲ結び、東京支店亦東京製絨・松井モスリンノ両社ニ少量ノ売約ヲ遂ゲ、毛斯綸紡約壹万六千ポンド貳万貳千円前後ノ一口ガ六月着荷セルヲ手始メトシ、同社納メ約廿二万ポンド東京両社納ヲ加へ年内売仕切高廿八万ポンドヲ超工金額約三十六万円ニ達シタリ

當時本邦モスリン界ハ毛斯綸紡織ト東京モスリン（端前專務ハ此頃失脚退引シ青木五兵衛氏事ニ当ル）ガ東西ニ対立シテ当業ノ先驅ヲ為セル外ニハ、僅カニ館林ニ上毛モスリン、東京ニ松井モ

スリンノ二会社アリテ何レモ規模小ナル上紡機ヲ有シテ一兩年ノ経験ヲ積メルノミニシテ、東京ニ新設ノ東洋モスリン会社ハ操業後日猶極メテ浅クシテ新規ノ原料ヲ試用スルノ自信ヲ得ルニ至ラズ、栗原工場ハ漸ク紡機ノ据付ヲ了セルノミナリシ

高瀬貝ノ輸入ヲ初ム

貝釦ノ製造ハ日露戰役後ノ好調時代ニ大ニ發達ヲ來シ相當ノ輸出ヲ見ルニ至リタレバ、其原料トシテ南洋各地方ヨリ貝殻ヲ輸入セラル、モノ近年次第ニ多キヲ加ヘタルガ、シドニーニテモ附近諸屬島ニテ採取サレタル高瀬貝ノ集散少ナカラザルヲ見テ、本店ニテハ古立首唱ノ下ニ此年初メテ高瀬貝四五十屯約一萬円ヲ輸入シテ千五百円ノ好収ヲ得タルガ、貝釦業者ハ何レモ薄資ナルト商況ノ盛衰高瀬至且急激ナルトノ為メ年末ノ着荷ハ早くモ形勢一變買人ナクシテ翌年ニ持越シノ止ムヲ得ザルニ至リ、翌年ノ本品勘定ハ早くモ七百円ノ損失ニ終レリ、尔來本品ノ輸入ハ斷続的ナガラ今日ニ及ブト雖モ、兎角損益常ナクシテ商店扱品トシテ其適應性ノ乏シキヲ証セルノ觀アリ

配合肥料製造ノ開始、附濠肥輸入過去十五年ノ經過概要

濠洲産肉骨粉肥料ノ輸入ハ既述ノ如ク明治廿九年ニ始マリ翌三十年ヨリ着々發展シ来リ、関東一
円ハ鈴鹿肥料部ノ一手販売ニ委シタルモ、関西ハ本店ニ於テ直接地方売ニ当ルノ方針ヲ以テ数年
間東西相競進セル中ニモ、農家ノ知識并ニ金肥施用ノ慣習等比較的進歩普及セル本店直売地域ニ
於テハ広告并ニ出張勧誘ハ勿論、無謀ニ近キ貸売ヲ敢行スル等甚ダシキ積極方針ヲ以テ經營シタ
ル結果、本店売上高ハ当初ニ於テハ遙カニ関東ノ販売高ヲ凌駕セシモ、三十四年ノ恐慌ニ際シ巨
万ノ貸倒レヲ生シテ以来ハ氣勢復タ揚ラズシテ大々的消極方針ニ出ヅルノ外ナク、其間鈴鹿肥料
部ハ鈴鹿商店トナリ専心各種肥料ノ輸入販売ニ従事シ、信州ノ養蚕地ヲ根拠トシテノ不撓ノ努力
着々効ヲ奏シ生糸市価ノ昂騰ニ刺激セラレ、蚕業ノ騒々トシテ發達スルニ従ヒ連年売上高ノ著増
ヲ示シツ、アルニ対シ、本店ニ於ケル本品ノ地方販売ハ唯一ノ当局タリシ稻葉ノ而カモ片手間仕

事ニ放任セラレ前年来ノ墮力ニヨリ僅カニ其余喘ヲ保ツニ過ギザルノ觀アル折柄、偶三十九年初頭前田ノ渡臺ニヨリ臺灣製糖会社ニ対シ大口ノ取引行ハレタルヲ動機トシ富山・愛知・岡山等二三ノ地方ニ稍力ヲ用ヒ初メシモ、現金売方針固執等ノ為メニ思ハシキ進展ヲ示スニ至ラザル内ニ稻葉ハ辞任シ間モナク前田ハ濠洲ニ転シ藤井・八木等其後ヲ承クルニ至レリ

其間肥料界ノ推移ヲ見ルニ、輸入肥料ヲ其俶ニテ販売スルコトニ代ヘ目的タル作物施用地ノ土質氣候并ニ肥効ノ本質的遲速等二稽ヘ數種ノ輸入肥料ヲ適宜混合シ其混合品ノミヲ單用シテ完全ナル肥効ヲ挙グルノ目的ヲ以テセル所謂配合肥料ノ全盛時代トナリ、臺灣糖務局ノ購入肥料ノ如キモ亦此種配合品ニ移リシカバ、肉骨粉ノ直接施用向キ販路ハ日々蹙マリ主トシテ配合原料トシテ取引セラル、ニ至リシガ、幸ニ鈴鹿商店ハ他ノ同業者ニ率先シ夙ニ配合肥料ノ製造販売ニ努メ寧ロ其元祖トモ稱スベク其地方ニ於ケル地盤モ亦強大ヲ致シタレバ、商店ハ輸入品ノ売途ニハ幸ニ窮スルコトナカリシモ、殆ンド輸入ノ全部ヲ挙ゲテ鈴鹿商店ニ売却シ、臺灣ノ入札ノ如キモ同店配合製造品ノ供給ヲ受ケテ以テ同業者ト對抗競争スルノ外ナキニ至リタリ

以上ノ如ク肥料販売ニ関シテハ商店ノ鈴鹿ノ關係本末全ク地ヲ替ユルガ如キ狀勢ヲ慨キ、藤井等商店肥料部ノ再建ニ腐心セル折柄鈴鹿店主ニ於テモ商店ノ関西ニ於ケル配合肥料ノ製造販売ヲ援助シ多年ノ歴史的關係ニ酬ヒ、旁東西相呼応スルノ便益ヲ増サントシテ熱心慇懃スル所アリ、即チ昨四十二年先ツ其手始メトシテ鈴鹿製造ノ配合肥料數種取合セ二三千噸ヲ兩店共同計算ノ下ニ

関西各地ニ試売スルコト、シ、藤井主宰ノ下ニ商店当局八木ハ鈴鹿商店ノ好意ニ依リ其戸塚客員ノ同伴指導ヲ得テ中国各地ヲ巡廻シ以テ売拡メノ端ヲ啓キ、藤井亦同年十月渡臺ノ途ヲ沖繩ニ取リ同地ノ甘蔗用ニ販路ヲ求ムル等準備稍進行ノ結果、当四十三年ニ入りテハ小野浜ノ貸借倉庫ヲ工場ニ充テ小規模ナガラ商店自ラ配合製造ヲ開始シ、同年中ノ製造高約一千呎ヲ手始メニ漸次其歩ヲ進ムルノ段取トシタリ

臺灣糖務局ニ対スル肥料供給取引ノ終焉

三十九年初頭前田ノ渡臺ニヨリテ事实上開始セラレタル商店ノ臺灣甘蔗作ニ対スル肥料ノ供給取引ハ、四十年夏前田渡濠後藤井専ラ其局ニ当リ毎年数回同島ニ往復シ地盤ノ維持拡張ニ努メ居リシガ、其間糖業ハ急速ニ發達シ新式製糖会社ノ数モ連年増加スルニ從ヒ、肥料ノ需要量亦之レニ伴フテ膨張セシガ、自然其供給入札戦モ年ト共ニ猛烈トナリ、特ニ四十二三年業界一般ノ不振ハ内外肥料ノ大滞荷ヲ来タシ、重ナル同業者等均シク臺灣ノ大口需要ヲ掌握セントスルニ至リテ商店ノ苦戦ハ正ニ其絶頂ニ達シ、今年初納入品ノ如キハ昨年暮ノ入札ニ際シ藤井窮余ノ苦策ヲ用ヒテ漸ク八十萬貫ヲ落札シタルモ、之レガ製造ニ当リテ配合材料中多大ノ不足ヲ告グルモノアリ、或ハ曲ゲテ他品ヲ代用シ或ハ納品後成分不足ノ賠償ヲ要求セラル、等種々ノ不祥事件發生セシモ、兎ニ角數千円ノ利益ヲ本年ノ決算ニ加ヘ得タルガ、明年初ノ納品ニ対スル本秋ノ入札戦ハ引続キ

テノ藤井ノ苦闘モ遂ニ其効ナク、配合肥料一万吨ハ新參安部幸ノ法外ナル安値入札ニ奪ハレ黒人筋ハ何レモ啞然タル有様ナリシガ、翌春愈納入ニ当リテ果シテ横浜肥料会社ノ不正事件惹起セラレタリ

斯クテ連年混戦ノ結果競争ハ実効本位ヨリ値段本位ニ移リ、当店ノ特長タル肉骨粉肥料ガ配合ノ材料ヨリ漸次閑却セラル、ニ至リタルヲ見テ、商店ハ此名譽アル敗戦ヲ機トシテ断然糖務局ノ入札ヨリ手ヲ引クコト、シタレバ、過去数年ニ亘リ五八千円ノ年収ヲ挙ゲタル臺灣肥料勘定ハ本年限り商店帳簿ヨリ消滅シタリ

店祖商店ヨリ諏訪山邸ヲ買戻ス
商店ノ不動産勘定單純トナル

三十九年項下ニ記述ノ通り同年末六万三千円トナリタル商店不動産勘定ハ其後二年余間變動ナク、昨四十二年日濠館工事着手前古建物ヲ潰シ屋トシテ売却シ得タル代金九百余円丈ケ帳簿価格モ亦減縮セシガ、今年決算期ニ際シ店祖ハ漸ク其諏訪山邸ヲ一万二千余円ニテ商店ヨリ買取り自己ノ所有ニ移シタル結果、商店ノ不動産ハ日濠館ノ敷地ナル海岸通りノ地所一ヶ所二百四十二坪弱ノミトナリ其記帳価格ハ恰カモ五万円トナリタリ

而シテ此地面ハ地上ノ古建物附ニテ去ル廿七年金一万三千余円ニテ購入シタルモノナレバ、土地ノミトスレバ一万円ヲ出ヅルコト多カラザリシモノナルベク現記帳額ハ五倍ニ近シト雖モ、買入レ後十七年間ノ不動産価位騰貴ノ振合ヨリ見テ敢テ不当ノ評価ニハ非ルベシ

猶着々進行中ノ日濠館工事費ハ新築工事ナル別勘定ニテ処理シ居リタル場合トテ、当年ノ不動産勘定ニハ見ハレザリシモノナリ

有価証券ノ整理、滞り貸ノ切捨

各競馬会社ノ株式ハ二束三文式ナガラ春來夫々処分ヲ了シタル上、年末ニ近ツキ所有公債ノ大部分并ニ神戸海上保險株等ノ処分ヲ遂ゲタル結果、決算當時ノ有価証券ハ店租ガ取締役ニ加ハリ居リシ神戸瓦斯会社株式貳万五千円ヲ主トシ、東京製絨及日本毛織株各貳千円前後、国庫債券數百円等總計三万円以内ニ減退シ、一方稲葉丹浜堂出資七千五百円（四十一年ノ項参照）ヲ始メ、競馬関係債権千六百余円、牛筋代滞り貸千三百円、煙草輸出組合出資回収損（四十一年ノ項参照）千二百円、其他牛脂・牛蹄・膠原料代等ノ小口滞り貸ヲ加ヘ總計一万五千余円ヲ資産ヨリ切り落シタル結果、前文不動産勘定ノ整理ト相俟チテ決算処分後ノ商店資産ハ著シク健全ノ度ヲ加ヘタリ

年度輸出総金額三十万円台ニ進ム

前年既ニ一段ノ進展ヲ示シタル商店ノ輸出事業ハ、昨年暮シドニ支店ニテハ売方トシテ濠人ヲ傭入ル、アリ、本年ニハ早々大西ノ初メテ帰朝シ、彼我ノ事情疏通ニ資シ本店輸出当局ト協力スルアリテ更ラニ一段ノ發展ヲ来シ、当年ノ扱高ハ対濠ノミニテモ三十万円ヲ超エ、南阿向ケ雜貨貳万余円、木曜島向ケ同上六千円ヲ加ヘテ総額三十三万円ニ上リタリ

対濠輸出品ノ重ナルモノヲ挙グレバ、「Toys」ノ三万六千打七万六千円ヲ筆頭ニ植物性油六万円弱、羽二重五万円、卓掛・鞆シ皮・魚油各一万三四千円、板紙二百三十屯約一万円、硝子瓶・絹手巾・籠類各八九千円、藁苞・寒天・綿縮・メリヤス・絹製雜品各三四千円等トス

年度総商高約二百五十万円

本年ノ輸入高ハ別項記述ノ通り羊毛ノ前年ニ倍加シテ一万三千俵金額弍百万円ヲ超ユルアリ、
Topノ新タニ加ハリテ廿八万余ポンド三十六万円ニ上ルアリ、肥料亦三千数百屯ニ復シテ廿四万
円ヲ算シタレバ、Oleine ハ二百五十屯八万円、屠業雜貨ハ四百数十屯六万円ト前年同調ニ止マ
リ、小麦ハ僅カ二年初ノ五百屯弱四五万円丈ケニ減シ、Tallow ハ益減退シテ百屯四万円ニモ達
セズ、木材ニ至リテハ造船業ノ不振其他ノ為メ全然纏リタル商買無ク、僅カニ試用トシテ腕木車
輪用材等一万円前後ニ過ギザリシモ、輸入総価約二百九十万円、売仕切高二百九十五万円前後ニ
上リ、此内東京支店ハ羊毛百三十二万円、鈴鹿売肥料廿万円、Top 八万円、Oleine・小麦各五万
円前後、Tallow 一万円、革一万円等合計百七十三万円ヲ以テ本店ノ百廿二万円ニ対シ、本店ハ
右ノ外内国売買ニ属スル臺灣肥料廿三万円、其他ノ肥料三万五千円、セメント販売高七八千円并

ニ輸出年額三十三万円ヲ加ヘテ漸ク東京支店ノ上ニ出ヅ

シドニー支店年益四万円ヲ超ユ

当年度（先年来シドニー支店ノ計算年度ハ本店ヨリニヶ月ヲ早メ前年十一月一日ヨリ当年十月末ニ至ル十二ヶ月ヲ以テセリ）シドニー支店ノ収支ハ前年ノ如キ小細工の特別収入ナシト雖モ、日本ニ対スル輸出扱高ノ急増ニ伴ヒ輸出手数料ハ前年ニ倍加シ、輸入商品利益モ亦幾分ノ増進ヲ示シタレバ総収入ハ却テ前年ニ比シ千余円ヲ増シタルニ、経費ハ大体前年同事ナリシカバ、純益ハ約千円ヲ増シテ邦貨換算額四万円ヲ超ユルノ盛況ヲ示シタリ

其概数ハ次葉表示概数ノ通りナルガ、其銷却中ニ Live stock 償却百円ヲ含メルモノハ例ノ競馬熱ノ飛沫ト知ルベシ

四十三年度収支并二利益処分概表

〔表13参照〕

〈表13〉 明治43年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

輸入収益内容		総損益概括表	
羊毛	¥19,500	輸入益 (左表ノ通り)	¥52,400
肥料	9,000	輸出益金	7,800
屠業雑貨	5,500	内国売買益	4,700
Top	2,900	以上総営業益	64,900
木材	2,700	利息収入	8,000
Oleine	2,700	有価証券差益	800
高瀬貝	1,500	雑益	500
小麦	600	合計 総益	74,200
Tallow	500	内総経費 (左表ノ通り)	35,500
雑品	200	差引日本側純益	38,700
割戻シ金	11,650	シドニー支店年度益 (次頁ノ表)	40,300
合計	¥56,750	合計内外年益	79,000
電信料	3,200		
雑費	1,150		
差引輸入益	¥52,400		
経費内容			
本店俸給	12,600		
ノ 諸税	5,700		
ノ 家賃	2,300		
ノ 旅費	800		
ノ 通信費	700		
ノ 雑費	6,400		
小計	28,500		
東京支店経費	7,000		
合計	35,500		

B 利益処分

年度利益金 (上表ノ通り)	¥79,000
前年度繰越金	5,800
合計	84,800
此内滞貸切捨充当	15,400
差引	69,400
此処分	
積立金	50,000
配当金	約 6,700
店主功勞金	約 4,700
店員賞与金	約 8,000
	69,400
	0

C シドニー支店収支 For 12 months ending 31st. Oct 1910

Loss		Profit	
Export cable & expense	400	Import Profit	£2,050
Salary & wages	1,750	Export com <u>u</u>	4,550
Travelling Exp.	250	Exchange & Interest	<u>600</u>
Rent & Rates	200	Total Income	<u>7,200</u>
Writing off a/c	180		
General Expense	320		
	<u>3,100</u>		
Nett Profit	<u>£4,100</u>		

年益処分後ノ実資力辛ク三十万円ニ達ス

当年度利益八万五千円弱ノ内約一万五千円ヲ割キテ滞リ貸シノ切り捨ニ充當シタル結果純益七万
円弱トナリ、店租ガ予テ焦慮セル資力充實ノ為メ此内五万円ヲ強テ積立ツル為メ配當金ハ近年ノ
半額以下ニ止メ置キ、其不足額ハ翌年ノ利益ヲ以テ補足配當ヲ行フガ如キ前掲窮策ニ出デタルノ
結果トハ申ナガラ、兎モ角モ此処分ノ結果積立金ハ總計十八万円ニ上リ、資本勘定ヲ併セテ正味
資力恰カモ三十万円ニ達シ一階段ヲ進メタル感アリ
処分後ノ貸借対照表概数左ノ如シ

〔表14参照〕

〈表14〉明治43年度 貸借対照表

借方 (資産)		貸方 (負債)	
公債及有価証券	¥29,000	資本金	¥120,000
商品 (輸入輸出内国)	64,000	積立金	<u>180,000</u>
シドニー支店	134,000	小計	300,000
東京支店	207,000	輸出入荷為替手形	463,000
請取手形	298,000	支払手形	47,000
貸売 (本店ノミ)	80,000	割引手形	114,000
仮勘定及貸金	9,000	預り金及店員信託金	38,000
地所家屋	50,000		
新築工事	83,000		
預け金及現金	8,000		
合計	<u>¥962,000</u>		<u>¥962,000</u>

明治四十四（一九一）年

馨君ノ入家并ニ従務

店祖不幸ニシテ子無キヲ以テ曩ニ同姓ヨリ道彦君ヲ養フテ嗣トシ其後又前後ニ回ニ女子ヲ養ヒシ
モ之レ等ハ何レモ種々ノ事情ノ為メ離縁ノ止ムナキニ至リタレバ、後年人ノ嗣ヲ勸ムルアルモ凡
テ之レヲ謝シ、店員等皆吾ガ子ノ猶シ敢テ他ヨリ求ムルノ要ナシトテ容易ニ応ゼザリシガ、先年
商店ニ在リシ岩城ヲ養ヒテ嗣トセル大阪ノ綿ネル商南為太郎氏ガ昨年来店祖ノ旧友大沢老ト共ニ
熱心勸説ノ結果店祖モ遂ニ意ヲ動カシ、此年三月林馨氏（京都ノ人、数年前東京帝大農科ニ農芸
化学ノ業ヲ畢ヘタル農学士）ヲ入レテ嗣トシ、同月末ヨリ見習トシテ店務ニ従事セシム

前田ノ店内開放主義完全実現ニ近ヅク

商店創立ノ当時本邦一般ノ事業経営法ガ多クハ甚シキ伝統的秘主義ニシテ、大小各種ノ個人商店ハ勿論既ニ小数成立シ居リシ会社事業ト雖モ売買上各般ノ内容知識ハ店主及番頭格ノ小数幹部員ノミ之レヲ胸中ニ収メ、手代以下ハ所謂依ラシムベク知ラシム可ラズノ筆法ヲ以テ遇セラレシ実情ナリシコトハ今更舒説ヲ要セズ

商店ニ至リテモ原支配人ノ行政亦此流儀ナルノミナラズ寧口之レヲ以テ長ク其特色トシタルヤノ觀アリ、彼ノ对濠輸出品ニ対シ多大ノ評価益乃至見込利益ヲ加算シテ之レヲ支店ニ仕切り全然其仕入レ原価ヲ示サヅリシガ如キハ固ヨリ其一例ニ過ギズ、内外往復ノ電信ハ勿論輸入品ノ Invoice ノ如キスラ支配人并ニ古立以外ノ店員ニハ一切其披見ヲ許サヅルノ制ハ創業後十余年ニ及ビテ猶嚴重ニ行ハレ、明治三十三年前田入店後数月ナラズシテ輸入屠業雜貨ノ Invoice ヲ示

サレ其着価計算ノ任ニ当リシトキ、書生上リノ当人ハ店員当然ノ職務ト心得固ヨリ何ノ不審モ抱カザルニ此事実ヲ發見セル故、参店員等ハ以テ異常ノ待遇信認トシテ噂シ合ヒシ事ヲ知ルニ及ビ却テ之レニ驚キタル記憶ハ今日ニ至ルモ猶消ヘザル所ニシテ、東京支店長乃至其主任者ノ如キスラ原価ヲ知ラズシテ販売ノ局ニ当ラシメラル、コト其後猶数年ニ及ビタル有様ナリ

開放主義ノ前田ハ到底商店ノ伝統的秘密経営主義ニ賛スルコト能ハザルノミナラズ、自己ノ主義ノ却テ現代ニ適シ店員ヲ活動セシメ商店ノ利益多キヲ信シ機會アル毎ニ之レヲ主張スルハ勿論、自己管掌業務ノ範圍内ニ於テハ漸次其責任ト判断トヲ以テ公式或ハ非公式ニ關係支店当局及ビ同僚乃至新入店員ニモ事ノ實際ヲ知ラシムルノ方針ヲ続ケ来リシガ、前年濠洲ヨリ歸リテ任ニ東京ニ就クニ及ビテハ直チニシドニー支店ニ対シ直接商務及商況等ヲ通信スルノ例ヲ啓キ、每便之レヲ怠ラズ其写ヲ本店ニ送致シテ事実上ノ暗黙承認ヲ得ルト同時ニ、一面シドニー支店ヨリハ本店宛發信ノ copy ノ直送ヲ求メテ商務ノ進行ニ資シ、更ラニ進ンデ電信暗号帳ヲ備付ケ必要ニ応ジテハ東京・シドニー間ニ直接電信ヲ往復セント計畫セシガ、本店ノ容ル、所トナラズ、為メニ電信ノミハ実行一兩年ヲ見送ルノ止ムヲ得ザルニ終リシモ、本年ニ入りテハ更ラニ一步ヲ進メ本店宛營業狀ノ外支配人狀ノ写モ亦差支ナキ限り之レヲ直接分送センコトヲシドニーニ提議シ、北村亦其意ヲ諒トシテ之レヲ容レタレバ前田入店後十年余ニシテ其店內開放主義ハ苟クモ營業商務ニ關シテハ殆ンド完全ニ實現セラル、ニ至リタリ

原前支配人ニ追賞

原前支配人ハ三十七年退店後輸入并ニ仲立業ヲ営ミ居リシガ業蹟必ズシモ可ナラズ、殊ニ近年ノ不振ニ苦シミ当春店祖ニ救済ヲ請フ所アリシモノ、如ク、部下ニ厚キ店祖ハ同人退店ノ際ニ於ケル支給ノ必ズシモ厚カラザリシヲ思ヒ、此年四月下旬更ラニ在店中ノ功劳ニ対スル追賞トシテ金貳千円ヲ之レニ贈与シタリ

此金額ハ一時仮勘定支出ノ俣トナリ居リシガ、今年末決算ニ当リ損失ニ計上決済シタリ

廣戸実業練習生トナル

征露戰勝後政府ハ我ガ海外貿易振興ノ一助トシテ実業練習生ノ制度ヲ設ケ、相当ノ資格アル青年ニシテ海外ニ在リテ実業ノ研究ヲ為ス者ニ対シ農商務省ヨリ三ヶ年以内毎月数十円ヲ補助給与シ、時々研究ノ結果ヲ報告セシムル外何等ノ拘束ヲ加ヘザルコト、シタル結果、濠洲ニテハ三井ノ井島、高島屋ノ大沢等先年中之レヲ出願シテ採用セラレ補助金以外研究上多少ノ便宜モ有リシ様子ニ付キ、商店ニテモ経費及便宜ノ外研究上ノ刺激等ノ為メ廣戸ニ之レヲ出願セシメ四月採用任命ヲ受ケタリ

北村初メテ New Zealand ヲ巡回視察ス

シドニー支店ニテハ既ニ先年来新西蘭ニ対シ日本商品ノ転送販売ヲモ開始シ居リ、輸出入兩方面ニ於テ同島ヲ調査研究スルノ必要ヲ疾クニ認メラレ居リシモ、何分時日ヲ要スルノミナラズ苦闘時代ノ商店トシテハ其費用モ亦問題トナラザルニ非ズ兎角其実行ヲ見ルニ至ラザリシガ、同島産 Crutchings wool ハ東京製絨会社ノ注文ニヨリ一昨年末相当ノ供給ヲ続ケ居リ且昨年偶々大倉組ガ Victoria 産 XB Crutch 少量ヲ千住製絨所へ供給シタルニ端ヲ発シ同店及ビ商店ヨリ同品數百俵ノ納入ヲ見、千住ニテハ従来ノ支那羊毛ニ代ヘ N.Z. Crutchings ヲ軍用毛布ニ専用セントノ議サヘ起ルニ至リタレバ、入江着任後既ニ一年ニ近ク大西モ亦復任シタル羊毛季外ノ業閑ヲ見計ラヒ、北村ハ此年六月シドニーヲ発シ初メテ N.Z. ニ渡航シ、約一ヶ月ヲ費シテ南北両島各地ヲ巡回シ羊毛其他ニ就キ調査スル所アリタリ、之レヲ商店従務者ニ N.Z. 視察ノ初メトス

日濠館工事落成シ本店之レニ移ル

一昨年四月地鎮祭ヲ行ヒ建築ニ着手シタル店祖意中ノ記念物ノ一タル日濠館ノ工事ハ恰カモ一般商況沈滞ニ因スル諸材料安ノ上不景氣ノ折柄勞力ノ供給モ亦至テ潤沢ナリシカバ、些ノ支障ナク進捗シ、昨年十一月廿三日上棟式ヲ行ヒ本年八月ニハ内外共ニ略工事ヲ終リタレバ、本店ハ同月三十日京町ヲ引払ヒテ復リテ之レニ移リ、九月十九日ヲトシテ落成式ヲ行ヒ広ク披露ノ為メ知名ノ士ヲ招キテ建物ノ一覽ヲ求メタルガ、其大キサニ於テハ必ラズシモ誇ルベキナシト雖モ使用材料ノ充分ニシテ堅牢比ナク敢テ美ヲ飾ル嫌ナクシテ而カモ立派ナル建造物ナリトシテ大ニ世人ノ注視ヲ惹キ、當時神戸ニ在ル二三ノ大建築物ト併セ称セラル

其総工費十二万五千円八年末不動産勘定ニ繰込ミ入帳シタリ

日濠館建設ト商店ノ金融利払等トノ關係

日濠館ノ工事何等ノ支障ナク進行シテ茲ニ其完成ヲ見、店祖ノ一道樂心ガ滿タサレタルハ曾テ反對論者タリシ前田ノ如キモ他ノ店員等ト齊シク欣喜セル所ニシテ、後年此工事ヲシテ若シ更ラニ數年ヲ遅ラシメタランニハ店祖ハ遂ニ之レヲ見ルニ及バザリシヲ知ルニ及ビテハ其情ノ更ラニ新タナルヲ覺エタルノミナラズ、材料及賃銀共ニ極度ニ低落セシ期間ニ進行セラレタル此大建築ハ完成後商店ニ好箇ノ根抵当物ヲ提供シタルガ故ニ商店ノ金融能力ハ敢テ之レガ為メニ多ク減殺サレタリトス可キニ非ズト雖モ、其完成ノ曉敷地ヲ加ヘテ商店ノ不動産勘定ハ一躍十七万五千円ニ上リ、數年來急増倍加セル商店ノ資力ヲ以テスルモ猶其過半ヲ之レニ固定セル実情ナルニ見テ資力不相応ナル計画ナリシコトハ依然トシテ否ム可ラズ、而シテ數年來漸増シツ、アリシ商店ノ利息収入ガ昨年ハ著減シ本年ハ遂ニ全減セシノミナラズ、却テ差引弍千五百円ノ支払超過トナリシ

ガ如キハ主トシテ此建築ニ資力ヲ固定セシ結果ニ外ナラズ
一方其大半ヲ賃貸ニ向ケテ収ムル所本年ノ四百円ハ短期論外トスルモ、翌年ニ至リテモ猶二千五百円ニ過ギズ

店員ノ風紀漸ク弛ミ酒色ニ荒ム者少ナカラズ

由来北村ノ酒量ハ広く商店ノ内外ニ謳ハレ余ノ店員亦酒豪ヲ以テ称セラル、者甚ダ尠ナカラズ、明治三十八年以來店運極メテ順調ニシテ増給相次キ賞与亦漸増スル等店員等ノ懷合著シク改善セラレタル折柄、新タニ日濠館ノ工成リ宏壯善美ヲ世人ニ称セラル、コト自ラ店員ノ心ヲ移スモノアリトスレバ其方向必ズシモ好マシカラズ、殊ニ近年肥料販売ノ擴張、log取引ノ發展等ニ伴フ顧客饗応等ノ機会モ急ニ濶繁ノ度ヲ加ヘ且店員ノ大多数ハ戰前数年ニ亘ル商店死活ノ苦痛ヲ知ラザル關係モアリ、兩三年来酒弊漸次店内ニ拡リ、近時中年者ヨリ青年店員ニ亘リ相競フテ傾斜ノ巷ニ瀕々出入シ市人ノ噂ニ上ルモノ甚少ナカラザルニ及ビ、店租一再一般ニ注意ヲ与フル所アリシモ容易ニ改善ノ実挙ラズ、其余弊後年ニ及ブモノ一二ニ止マラズ之レガ為メ遂ニ退店ノ止ムヲ得ザル者ヲスラ生ジタリ

Top 取引ノ進展ト対松井モスリン会社貸倒レ

Hughes ノ三井物産及ビ東京モスリンニ対スル一種ノ悪感ハ自然商店ニ接近セシムル傾向ヲ生シ、又其代表者 Hallam ハ其受任前既ニ前田ト懇意ナリシ上 Hughes ヲ代表スルニ及ビテ藤井ノ同人并ニモス綸紡当局者タル瀧村・松尾両重役ニ対スル接觸頗ル其宜敷ヲ得テ、商店ノ Top 取引ハモス綸紡ヲ主タル得意トシテ旭日昇天ノ勢ヲ以テ進展シ、東京支店ノ新会社東洋モスリン并ニ千住製絨所等ニ売込ミタル十数万ポンドヲ併セテ本年ノ商量ハ一躍百万ポンドヲ超エ、Hughes Top ノ商買ハ事実上商店一手ノ観アリ、其年度収益モ亦之レニ伴フテ増加シ、手始メノ昨年ニハ僅カニ三千円ニモ満たザリシモノ今年ハ忽チ一万千数百円ニ上リテ羊毛二次グノ成績ヲ挙ゲタル程ナルニ、此年初松井モスリン会社ニ引渡シタル約壹万六千ポンド口ノ代金一万八千数百円ハ漸ク約束手形ヲ受取りテ旬日ナラザルニ、同社ハ二月上半突然整理ヲ発表シ、商店ハ結局約一万五千円

ノ巨積ヲ蒙ルノ不祥事ヲ發生シタリ

蓋シ、最近數年間店運幸ニ順調ニシテ先年ノ瘡痍ハ既ニ全ク癒エタルノミナラズ商店昨今ノ實資力ハ殆ンド三十四年蹉跎前ノ夫レニ倍スルノ有様ナルニ拘ラズ、一ト度ビ失墜シタル信用ノ恢復ハ中々容易ノ業ニ非ズ、殊ニ近年ハ取引高モ急増シ自然与ヘラルベキ信用モ亦多額ヲ要スルコトナレバ、正金銀行ノ警戒ハ依然トシテ緩マズ、諸帳簿ノ定期検査ヲ続行セルハ勿論商店ノ貸シ売（即チ手形売）ニ付テハ個々ノ得意先ニ対シテ夫々限度ヲ定メ（東京方面得意先ニ關スル此年夏秋ノ頃ノ限度ハ東京製絨・東京モスリン・東京毛織物ノ三会社ハ各五万円ヲ限度トシ、後藤毛織ハ貸売全禁）信用狀ノ發行ニ當リ制限ヲ加フルノ状態ナリシカバ、前記松井モスリンニ對スル賣約ノ如キモ東京支店ハ予メ本店ト打合セノ上其注文高ノ一半ノミヲ引受クルニ止メ且正金銀行ノ承認ヲ得タル上ニテ締約シタルモノニ屬スト雖モ、同社ニ對スル僅ニ第二回ノ取引ニ於テ早クモ如此引懸リヲ生ジタル支店当局トシテ前田ノ責任ハ實ニ輕カラザルニツキ、他ノ内外大債權者ト協議シテ整理委員ニ加ハリ、其牛耳ヲ取りテ会社ノ投出シタル全資産ノ有利処分ノ為メ原料ノ残存セルモノヲ製品化スル期間ハ委員會ヲ代表シテ会社ノ管理ニ當ル等極力損失ノ輕減ニ努メタルモ、何分会社ハ前年晩夏ノ大出水ニ當リ巨額ノ損害ヲ蒙リ内容既ニ空疏トナリ居リシ上整理ノ火元タル某羅紗商トノ間ノ融通手形非常ノ巨額ニ上リ居リシコト、テ、結局各債權者ハ各約二割ノ配當ヲ得タルニ止マリ他ノ八割ハ遂ニ損失ニ歸シタリ

予テ正金銀行ノ制限常ニ嚴ニ失スルヲ憾ミ居ル丈ケニ其承認ヲ以テ一種ノ安全保証ノ如ク誤解シタル趣モ無キニ非ザレドモ、1909 商買ノ開始期ニ当リ販売当局ノ通弊トシテ売ルニ急ニシテ相手方ノ内容ニ関スル調査ノ甚ダ不行届ナリシ失蹟ハ歴然トシテ掩フ可ラズ
因ニ此松井ノ工場ハ一旦服部金太郎氏ニ買収セラレ、其後間モナク東洋モスリン会社ノ手ニ移リテ其第二工場トナリタリ

年度商量四百万円

当年ノ輸入ハ羊毛ニ於テハ約一萬俵百五十万円前後ニ著減セシモ、*Top* ハ百余万ポンド百三十万円弱ニ激増シタレバ前者ノ減退ヲ償フテ余リアリ、*Tallow* ハ六百余屯廿三万円ニ恢復シ、肥料ハ三千余屯廿万円ト大体同調ヲ示シ、小麦ハ千七百屯弱十五万円ニ、*Oleine* ハ三百屯十一二万円ニ、屠業雜貨ハ五六百屯八万円ニ何レモ増進シ、高瀬貝ノ百余屯・小麦粉ノ百屯ハ各一萬五千円ヲ、鉛及木材ハ何レモ約一万円ヲ算シ、産地原価総額三十二三万 £ 、輸入売上総高三百六十六万円（本店及ビ東京支店恰カモ折半）ニ上リ

輸出ハ *Towel* ノ八万八千円ヲ筆頭ニ、植物油ノ四万八千円、板紙ノ三万六千円、羽二重ノ二万八千円、卓掛類ノ二万円、硝子瓶ノ一万円、絹手巾・刷子類及ビ寒天ノ各六千円前後、魚油・綿縮・籠類・メリヤス等ノ各五千円前後、樟腦・糸屑ノ各三四千円ヲ主トシ其他諸雜貨ヲ併セ対濠

総額廿九万円、南阿向ケ雜貨二万円、木曜島向ケ同五千円ノ外、シドニー支店ノ縁故ニテ倫敦へ白ナメシ革ヲ輸出シタルモノ約一万円、以上各方面通計三十二万五千円ニテ昨年ト変リナク、内地売買ニ属スル肥料ノ売上高約四万円ヲ加ヘテ年度総商高四百余万元ニ上リタリ

年度益金内外通算九万円台ニ上ル

当年輸入各品ノ収益ハ之レヲ前年度ニ対照シ概シテ其扱高ニ比例シテ順当ノ増減ヲ示シタレバ、四十二年項下記述ノ理由ニヨル木材ノ小損及ビ見込違ニ因スル高瀬貝ノ損ヲ差引クモ猶日本側ニ於ケル輸入業ノ収益ハ前年ヨリ約一〇%ヲ増シテ六万円ヲ超エタレバ、臺灣肥料商買ノ断絶ニヨリテ内地売買ノ利益ハ殆ンド全減シ輸出出益亦昨年ト大差ナク八千円ニ過ギザルモ、営業総益ハ前年ヨリ約5%増シノ七万円近クニ上リタルガ、何分別項記述ノ如ク利息収入ハ全減シ却テ数千円ノ支払勘定トナリタレバ、日本側年度純益ハ前年ニ比シ約一〇%ヲ減ジテ三万四千円ニ下リタリ（而カモ右ハ松井ニ対スル滞リ貸損失ヲ考慮処分セザル立場ノ数字ナレバ、之レヲ明カニ整理シ得タランニハ日本側純益ハ二万円ニモ充タザリシ筈ノ計算ナリ）

然ルニ、シドニー支店ニ在リテハ近年羊毛取扱高増加ノ上、本年ハTopノ取扱急増ノ為メ輸出

手数料ノ収入大ニ加ハリ、輸入商品モ亦別表ノ通り相当ノ好収ヲ挙ゲタル結果、年度純益六千余
円此邦貨五万九千余円ニ達シタレバ、内外通算純益ハ前年ニ比シ二万余円ヲ増シテ九万三千円ヲ
算シタリ

尤モ当時個人ノ海外所得ニ対シテハ日本ニ於テ所得税ヲ課セザル關係上、シドニー支店ノ輸出手
数料ヲ此年ヨリハ特ニ引上ゲ高率トシ以テ利益ヲシドニーニ偏セシムルノ手段ヲ講ジタリシ一事
ハ、内外成蹟ノ比較考查上特ニ見逃ス可ラザル所トス

四十四年度収支并二利益処分概表

〔表15参照〕

〈表15〉明治44年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

輸入品損益内容			総損益概括表									
羊毛	益	¥16,350	輸入益 (左表ノ通り)	¥60,250								
Top	〃	11,400	輸出益金	8,000								
肥料	〃	10,300	内国売買益	200								
Tallow	〃	8,400	以上営業総益	68,450								
屠業雑貨	〃	4,900	有価証券増価益	850								
Oleine	〃	3,200	滞り貸回収金	700								
小麦	〃	1,700	日濠館貸室料	400								
小麦粉	〃	800	雑益	600								
諸割戻シ金		10,050		71,000								
合計		67,050	内利息差引支払	2,450								
損失	<table border="0"> <tr> <td>木材</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>高瀬貝</td> <td>700</td> </tr> <tr> <td>電信料</td> <td>3,900</td> </tr> <tr> <td>雑費</td> <td>700</td> </tr> </table>	木材	1,500	高瀬貝	700	電信料	3,900	雑費	700	6,800	差引	68,550
木材	1,500											
高瀬貝	700											
電信料	3,900											
雑費	700											
差引輸入益		60,250	総経費 (左表ノ通り)	34,500								
			差引日本側純益	34,050								
			シドニー同上 (次頁ノ表)	59,150								
			計内外年度益	¥93,200								
経費内容												
本店俸給		13,100										
課税		6,250										
旅費		300										
通信費		850										
家賃		1,500										
雑費		6,700										
小計		28,700										
東京支店経費		5,800										
総経費		34,500										

B 利益処分

上表尻年度純益ノ処分	
積立金へ	¥20,000
滞貸準備金へ	25,400
配当金15%	18,000
前年分同上補充	8,300
店主功勞金	7,500
店員賞与金	12,000
原前支配人追賞	2,000
合計	¥93,200

C シドニー支店収支

Loss		Profit	
Salary & wages	£1,900	Export Com <u>u</u>	£5,200
Travelling Exp.	400	Import Profit	3,400
Rent & Rates	200	Exchange (仮想付出シ荷為替料)	<u>700</u>
Export cable & expense	350		9,300
General Exp. including Tax	450		
Nett Profit	<u>3,300</u>		
	<u>£6,000</u>		

利益処分ト滞貸準備金勘定ノ再設定

前表九万余円ノ年度利益処分ニ当リ、15%ノ配当ノ外ニ、八千数百円ヲ支出シテ前年度配当ノ不足ヲ補ヒタルハ、前処分ノ際公定セシ所ヲ実行シテ12.1%ニ達セシメタルニ過ギズ、原前支配人追賞モ別項記述済ノ所ニ有之、二万円ノ積立金其他ハ特ニ説明ヲ要セザルモ、之レ等必要支出ノ剰余貳万五千余円ヲ以テ再ビ滞り貸準備金勘定ヲ起シタル所以ハ、四十年項下記載ノ稲葉丹浜堂組合ノ失敗ニ因セル組合出資金七千五百円ノミハ四十三年末決算ノ際損失トシテ切り捨濟ナルモ猶其手形及貸売尻ノ滞り居ルモノ貳万八千円前後ヲ初メトシ、年頭引懸リタル松井モスリンノ未回収額一万五千円ノ外、本店ノ屠業雜貨取引ニ因スル万木豊七千五百円・大野平吉千五百円、古金物取引ニ基ク片岡鶴吉小千円、其他ノ小口ヲモ併算スレバ約五万円ノ悪債ヲ有スルガ故ニシテ、此準備金額ノ如キモ固ヨリ未ダ以テ充分ナリト称スルヲ得ザルモノトス、顧ミレバ三十

八年末此種悪債権ヲ一掃切捨テ、以来僅カニ六年ニ過ギザルニ、既ニ前年末一万五千余円ノ切捨
ヲ行ヒテ猶此巨額ヲ算スルハ馬ノ損失ト共ニ夫々關係当局ノ不謹慎ノ責ヲ免カレザル所ナルベシ

重テ資本金ヲ増加シテ一躍三十万円トス

前年末ノ決算処分後商店ノ正味資産勘定ハ恰カモ三十万円ニ達シタリト雖モ、而カモ其以上一錢ノ余裕トテモ無ク且当時利益処分ニモ多少不自然ノ点ヲ残スヲ免ガレザリシガ、当年末ノ利益処分ノ結果トシテ積立金二万円ノ余裕ヲ生ジタルノミナラズ不充分ナガラ滞貸ニ対スル準備金モ設定サレタレバ、店租ハ茲ニ旧積立金ノ全部ヲ拵ゲテ資本金勘定ニ繰込ミ、去三十九年末八万円ヨリ十二万円ニ充実増加セシメタル資本金ヲ尔来六年ニシテ一躍三十万円ニ増額改定シタリ此処分後ノ貸借概数ヲ表示スレバ左ノ如シ

〔表16参照〕

〈表16〉 明治44年度 貸借対照表

<u>借方（資産）</u>		<u>貸方（負債）</u>	
地所家屋	¥175,000	資本金	¥300,000
公債及有価証券	37,000	積立金	20,000
商品（輸入、内国、輸出）	119,000	滞り貸準備金	25,500
シドニー支店	135,000	輸出入荷為替手形	665,000
東京支店	212,000	割引手形	190,000
本店貸売	102,000	支払手形	90,000
受取手形	563,000	仮勘定	25,000
貸金	7,000	預り金及信認金	35,000
什器	1,000	銀行当座勘定借越	1,500
現金	1,000		
合計	<u>¥1,352,000</u>		<u>¥1,352,000</u>

明治四十五（大正元・一九一三）年

増資ニ伴フ持分ノ更訂

店祖夫人并ニ関・林・國包・廣戸・小池・御前ノ参加

前年末決算処分ト共ニ拾貳万円ノ資本金ヲ三十万円ニ増額シタルニ伴ヒ、店祖ハ從來資本ノ半額
タリシ自己ノ持分ヲ三分ノ一額ニ減率スルト共ニ夫人并ニ関・林・國包・廣戸・小池・御前ノ六
店員ニ新ニ持分ヲ与ヘ各員ノ持分ヲ左ノ通り改メタルガ、旧持分者ハ大体一倍半増ヲ標準トシ、
井垣及大西ハ稍夫レヨリモ多ク、鈴木・妹尾・古立ハ稍夫レヨリモ少ナカリシヲ見ル
而シテ、夫人持分ハ他日現加入者ノ増額乃至新加入者ノ為メニスル持分ノ準備トスル店祖ノ意ナ
リシモノ、如シ

金拾万円	店祖	金四万八千円	夫人
同五万円	北村	同二万五千円	古立

同一万弍千五百円ヅ、	前田・入江・四方・大西	金四千円	鈴木
同五千円ヅ、	藤井・妹尾	同二千円	井垣
同二千五百円ヅ、	山本・守田	同千二百円	林
同千五百円	関	金三百円	御前
同千円ヅ、	國包・廣戸・小池		
合計金三十万円也	式拾名		

初メテ内外在勤者ノ給料ヲ統一シ、海外在勤手宛支給ノ制ヲ設ク

従来シドニ一支店在勤員ノ給与ハ時々店租自身之レヲ定メタルコト無シトセザルモ、常ニハ之レヲ顧ミズ、多クハ北村ノ見込ニヨリ支店限りニテ外人同様毎週英貨幾何ト定メ、日本在勤者ノ俸給額トハ直接何等ノ交渉ナキ習慣トナリ居リ、去ル四十年前田・妹尾相踵デシドニ一ハ転勤シタル場合ノ如キモ、前田ハ本店在勤中副支配人トシテ給料百円即年額千二百円ヲ受ケ、妹尾ハ月三十五円年四百廿円ナリシニ、転任後ハ前田ハ週 4/10、即年額貳百三十四円、妹尾ハ週 3/10、即年額百五十六円ヲ受ケタル実情ナリシガ、前田ハ其在濠中ノ生計ノ苦験ト将来内外転勤交替ノ益頻繁ヲ要スベキ状勢トニ鑑ミ、其帰朝後ハ内外在勤者ノ給料額ヲ共通トシ、一面海外在勤者ニハ手当ヲ給シテ生活万般ノ差異ヲ調節スルノ必要ヲ唱フルコト切ナリシガ、遂ニ今回総員昇給ノ機ヲ以テ初メテ内外在勤邦人ノ給料ヲ統一シ、同時ニ左記海外在勤手宛ヲ附加支給スルノ制ヲ実

施スルニ至リタリ

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 一、給料五十円以下ノ者ニ対シテハ | 年額千六百円以内、支店長ノ見込ヲ以テ定ム |
| 一、給料五十円ヲ超エ七十五円未滿ノ者 | 年千八百円 |
| 一、同七十五円以上百円未滿ノ者 | 〃二千百円 |
| 一、同百円以上百廿五円未滿ノ者 | 〃二千三百円 |
| 一、同百廿五円以上百五十円 | 〃二千五百円 |
| 一、同百五十円以上百七十五円 | 〃二千七百円 |
| 一、同百七十五円以上二百円 | 〃三千五百円 |
| 一、同二百円以上ノ者 | 〃四千円 |

シドニー支店其為替銀行ヲ Bank of Australasia ニ改ム

明治三十七年 Bank of New Zealand ヲ去リテシドニー支店ノ主銀行ヲ Union Bank ニ移シテヨリ八年ニ近ク、同行ハ商店ノ取引ニ対シ常ニ勉メテ便宜ヲ謀リ居リシニ、近来重要行員ノ移動アリテ取扱振復タ前年ノ如クナラズ稍冷淡ニ傾キ来リシ折柄、Bank of Australasia ニテハ商店ノ荷為替取引ヲ望ムコト頗ル熱心ニシテ屢シドニー支店へ接近シ来リ、同支店ニテモ此乗替ヲ利トスルノ意決スルニ至リタレバ、本年初ノ頃ヨリ正金銀行ガ商店ノ為メニ発行スル信用状ハ凡テ之レヲ右全濠銀行ニ宛ツルコトニ改メ茲ニ支店主銀行ノ変更ヲ見タリ

店祖又病ミ一時重態

四十二年晩春全快祝後店祖各地ニ転養ノ効アリ体力ノ恢復著シク、四十三四兩年ニ亘リテハ寒暑甚ダシキ季節ノ外ハ瀬ル商店ニ出勤シテ親シク店務ヲ統べ、瓦斯会社ノ重役会ノ如キモ殆ンド欠席セルコト無ク、近ク老軀ヲ提ゲ夫人ヲ伴フテ七年振りニ渡濠スベキ心組ヲサヘ立テツ、アリシ折柄、此年二月不図感冒ヲ憂ヘ月末ニ及ンデハ発熱甚ダシク店員等多ク杞憂ヲ深クスルニ至リシガ、三月ニ入りテ体温漸次下降シ、月央過ギ再ビ発熱セシモ、月末ニハ多少ノ面談ニ堪ユルニ至リ、四月馨君ノ為メニ井上静雄氏（三井銀行系出身ノ相当知名ナル京都在住ノ実業家、店祖ノ旧知、努力蓄積ヲ以テ知ラル）ノ女ヲ迎ヘテ結婚ノ式ヲ挙グルニ当リテハ病ヲ押シテ短時間其賀筵ニ臨ムノ程度ニ進ミ、夏秋ノ交ニハ早くモ屢商店ニ出勤シテ再ビ渡濠ヲ思フニ至リタレバ、四囲均シク天祐ノ思ヲ為ス

北村ノ第三次帰朝

店祖ノ病篤キヲ知りタル北村ハ羊毛季節ノ大体終了スルヲ待チ兼ネ、三月中旬シドニ一発四月十日五日神戸着ニテ五年目ニ帰朝シタルガ、店祖ハ既ニ輕快シ店業ハ順調ニシテ差詰メノ重要事項トテハ多カラズ、得意先ノ訪問故旧トノ往来等ニ三四ヶ月ヲ費シ、中止トナリタル合資会社案ニ代ルベキ匿名組合契約モ八月作成ヲ終リタレバ、別項大沢ノ入店ヲ決シ、羊毛新季節開始ニ後レンコトヲ恐レ八月末神戸発急ギ帰任シタリ

合資会社組織案ノ見合セ 匿名組合契約ノ成立

店祖曩キニ店員等ト福利ヲ共ニシ店業ノ永續進展ヲ期スルノ主旨ヲ以テ協定書ヲ作成發表シテ以來既ニ六年有餘、店運引続キ順調ニシテ業蹟益挙リ協定書ノ光彩ハ愈發揮セラル、ノ觀アリト雖モ、該協定ノ最高権ハ全然店祖ノ一身ニ存ス、然ルニ店祖齡既ニ七十二近ク、特ニ近年屢大患ニ罹リ到底百歳ヲ期ス可ラザルガ故ニ、此際更ラニ一歩ヲ進メ該協定ヲ具体化シテ一層合法的ノモノタラシメ以テ他日ニ備ヘントハ頃來常ニ店祖ノ意中ニ往來セシ計畫ニシテ、當春北村ノ帰朝ヲ機トシ更ラニ其腹案ヲ進メ且四方ヲシテ法律家トモ謀ラシメタル結果ナルモノ、如ク合資会社ヲ組織スルノ案ヲ立テ、七月一日ヨリ実行ノ意図ヲ以テ之レヲ東京支店ニ送付シ來レリ

其要領ハ店業ヲ資本金三十万円ノ合資会社トシ、出資者及其金額ハ協定書ノ現狀ニ從ヒ店祖并ニ

北村・古立ノ三名ヲ無限責任社員其他ヲ有限責任社員トシ、右三名ノ業務執行社員ノ外支配人及副支配人ヲ置キ之レ等ヲ合セテ成立スベキ「會議」ニ社内ノ最高權ヲ保有行使セシムルノ仕組ニシテ、添フルニ寄附行為及ビ附帶契約ヲ以テシテ店祖ハ店員等ニ夫々協定ノ金額ヲ条件付ニテ贈与シテ之レヲ出資セシメ、其完全ナル所有權ニ対スル其他協定書ノ主旨ニ基ク諸制限ハ此附帶契約ヲ以テ律スルノ案ナリシガ、店祖及北村并ニ本店幹部員ハ既ニ研究ノ進メルモノ有リトスルモ、前田ハ案トシテハ六月廿日始メテ之レヲ承知シタル所ニシテ、定款ノ条項等ニ関シテモ猶考究ヲ要スル所甚尠ナカラザルノミナラズ、商店ノ現資本三十万円ニテハ会社トシテ登記公表ス可ク未ダ如何ニモ貧弱ニシテ世間ノ信用等ニモ懸念少ナカラザルニツキ、近時財界ニ於ケル凡テノ單位トシテ一般ノ認ムル百万円ニ達スル迄ハ之レヲ見送ルコトヲ希望スル次第ナガラ夫レハ長キニ失センモ、セメテ商店資力ガ其一半タル五十万円ニ達スル迄ハ実行延期ヲ適當トスベク、此程度ナラバ兩三年ノ辛抱ニ過ギザルベシトノ所見ヲ以テ直ニ上店勸説スル所アリ、合資会社案ハ茲ニ見合セト決シタルガ、前年嗣ヲ養フテ以来特ニ店祖ノ一家ト商店ノ事業トノ權義關係ヲ明白ニシ、他日或ハ起リ得ベキ紛争ヲ未前ニ防止スルコトノ適當トヲ信ズルコト厚キ店祖ハ、合資会社案ニ代フルニ匿名組合契約ヲ以テシ、此年八月証書ヲ作成シ、夫人并ニ各出資者ト共ニ親ラ之レニ調印セルノミナラズ養嗣馨君ニモ承認調印セシメ、同月十九日ヲ以テ公証人役場ニ登録シ確定日附証書トスルノ手續ヲ履ミタリ

該証書ノ全文ハ之レヲ次項ニ示スベキガ、御前ハ入店以來日猶淺キニ拘ラズ独リ之レヲ除外スルニ忍ビス、金額ニ拘ラズ他店員ハ均霑セシメントノ店祖ノ慈心ニヨリ三百円ヲ附与セラレ、今春協定ニ加入ノ処今回公式契約書作成ノ節三百円ノ組合員モ不体裁トノ斟酌ヨリ夫人分ヲ割キテ千円ニ増額ヲ受ケタルモノトス

匿名組合契約証書（ノ全文）

神戸市兼松房治郎（以下甲ト称ス）ト妻せん及北村寅之助以下十八名（以下乙ト称ス）トノ間ニ匿名組合設立ノ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一条 甲ハ其營業ニ係ル兼松商店（以下商店ト称ス）ノ組織ヲ変更シ、甲ヲ營業者トシ乙ヲ匿名組合員（以下組合員ト称ス）トセル匿名組合（以下組合ト称ス）ト為スコトヲ發起シ、乙ノ同意ヲ経テ此ニ第二条以下ノ条項ヲ協定ス

第二条 甲ハ甲ノ營業、商号、商品其他營業ニ関スル權利義務ヲ包括スル一切ノ資産ヲ価格金參拾万円ト見積リ資本金三十万円ノ匿名組合ヲ組織シ、内金拾万円ヲ自己ノ出資トシ、金四万七千三百円ヲ妻ノ出資トシ、殘金十五万二千七百円ハ第三条ノ通り処分ス

第三条 甲ハ其商店ニ従事セル左記店員ノ功勞ニ酬ユル為メ頭書ノ金額ヲ贈与ス

金五万円 北村寅之助 金貳万五千元 古立直吉

金一万二千五百円 前田卯之助 金一万貳千五百円 入江金三郎

金一万二千五百円 四方素 金一万貳千五百円 大西金次郎

金五千元 藤井松四郎 金五千元 妹尾籠多

金四千元 鈴木小右兵衛 金貳千五百円 山本一郎

金貳千五百円 守田治平 金貳千元 井垣庸治

金千五百円 関楹次 金千二百円 林莊太郎

金壹千元 國包祐一 金壹千元 廣戸茂吉

金壹千元 小池三次郎 金壹千元 御前綱一

合計金拾五万貳千七百円

第四条 甲ハ前条ノ贈与ニ次条以下ノ条件ヲ附スルコトヲ宣言セリ

第五条 第三条記載ノ贈与ヲ受ケタル各員ハ此組合ノ組合員トナリ各其贈与ヲ受ケタル第三条記

載ノ金額全部ヲ其出資トス、但此契約ニ署名ノ日ヲ以テ受贈者ハ贈与ヲ受ケ且之ヲ組合ニ出資

シタルモノト見做ス

第六条 当組合成立後ニ於ケル組合員ノ加入、出資額ノ異動、持分ノ処分ハ重役会ノ承認ヲ要ス

第七條 組合員ハ左ノ事由ニヨリ脱退ス

一、死亡

二、會議ノ承認ヲ經タル時

三、商店ノ營業ニ従事セル組合員ガ商店ヲ退キタル時

四、商店ニ不利益ヲ蒙ラスベキ行為ノタメ重役会ノ決定ニヨリ除名ヲ宣告サレタル時

第八條 第三條ニ掲グル各員ハ商店員ノ資格ヲ得タル後滿廿年間店務ニ従事シタル時ニ於テ始メテ事實上其出資額全部ノ權利ヲ取得ス

第九條 前條ノ期間ヲ經過セザルモノ組合ヲ退クトキハ（以下脱退者ト称ス）其出資ニ対シテハ事實上左ノ割合ニ応ズル權利ノミヲ有スルモノト見做ス

一、滿五年以上十年未滿ノモノハ出資額ノ四分ノ一

二、滿十年以上十五年未滿ノモノハ出資額ノ二分ノ一

三、滿十五年以上廿年未滿ノモノハ出資額ノ四分ノ三

第十條 第八條、第九條ノ年限ニ就テハ商店ガ匿名組合トナレル以前及以後ヲ通算スルモノトス

第十一條 第九條、第十二條ノ規定ニ従ヒ脱退者ノ權利ト看做サレタル金額ト出資額トノ差ハ組合ニ没収ス、前項ノ所得ハ重役会其用途ヲ決定ス

第十二條 重役会ハ脱退者ノ功勞ヲ参酌シ、第九條ニ規定セル金額以上ニ其持分ヲ評定スルコト

ヲ得、但シ出資額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十三条 第七条一乃至三ニヨリ組合員ガ脱退シタル場合ニハ、第八条乃至第十二条ニヨリ定マリタル脱退者ノ権利価額ヲ本人又ハ其相続人ニ払戻スモノトス、前項ノ場合ニ於テ重役会ハ其決議ニヨリ脱退者又ハ相続人又ハ脱退者ノ指定ヲ受ケタル者ヲシテ脱退者ノ権利価額ヲ継承シテ組合員トナラシムルコトヲ承認スルヲ得

第十四条 第七条四ノ場合ニ於テハ重役会ハ脱退者ノ出資ニ対スル持分ノ一部又ハ全部ヲ没収スルコトヲ得、重役会ガ持分ノ一部ノミヲ没収シタルトキハ其残部ハ之ヲ脱退者ニ払戻スモノトス

第十五条 脱退者ノ払戻シヲ受クベキ金額ハ第八条、第九条、第十二条及第十四条ニヨリ定マリタル権利価額ノ総資本金額ニ対スル割合ニ応ジ、脱退ノ当時ニ於ケル組合財産ノ現実ノ価額ニヨリテ算定ス、前項ノ場合ニ於テ組合財産ヲ評定スル権利ハ重役会ニ属ス

第十六条 重役会ハ毎年二回決算期毎ニ損益計算表、財産目録、貸借対照表ヲ審査シ、後期決算期ニ於テハ一年間ノ損益処分案ヲ議決シ之レヲ組合ノ總會ニ報告スベシ

第十七条 甲ハ其功勞ニ対シ報酬トシテ其生存中年々商店純益ノ十分ノ一ヲ取得ス、甲ノ死亡後其妻ハ終身間前項ニ規定セル報酬ノ半額ヲ受ク、此権利ハ他人ニ譲渡シ又ハ継承セシムルヲ得ス

第十八条 此組合ハ甲ノ死亡ニヨリ終了セス、甲死亡シタルトキハ其相続人之ヲ繼承シテ組合ノ
營業者トナル

第十九条 此組合ハ組合員ノ一人又ハ數人ノ破産ニヨリ終了セス、破産者ハ脱退者ト見做ス、前
項ノ場合ニ於テ第十五条ノ規定ニヨリ脱退者ニ支払フベキ金額ハ之ヲ破産財團ニ提供スルヲ要
ス

第廿条 重役会ハ店長、支配人、副支配人ヲ以テ之ヲ組織ス、甲ハ其生存中自ラ商店ノ店長タリ、
甲ノ相続人ハ甲ガ退職ノ後ハ当然重役会ノ一員トナル、重役会ノ決議ハ総員ノ過半数ヲ以テ決
ス、但第廿一条ノ場合ハ総員ノ四分ノ三ノ同意ヲ要ス

第廿一条 重役会ガ将来必要ヲ認ムルトキハ組合ヲ解散シ、又ハ組合ノ組織ヲ變更シ、定款ヲ作
リ、会社ヲ設立シ之ヲシテ組合ノ一切ノ營業、商号、債権、債務ヲ繼承セシムルコトヲ得、前
項ノ規定ニヨリ会社ヲ設立スルトキハ組合員ハ当然会社ノ社員又ハ株主トナル

第廿二条 甲ノ相続人ハ其同意ヲ証スル為メ本契約ニ署名捺印ス

右契約ヲ承認シ一同左ニ署名捺印ス

但シ北村寅之助ハ入江金三郎、大西金次郎、守田治平、國包祐一、廣戸茂吉ノ委任状五通ヲ提出
シ其代理人タル資格ヲ兼ネテ署名捺印シ、前田卯之助ハ山本一郎、林莊太郎ノ委任状二通ヲ提出

シ其代理人タル資格ヲ兼ネテ署名捺印ス

大正元年八月十九日

登簿第九百五拾参号



右相続人

兼松房治郎 印

兼松 馨 印

兼松 せん 印

北村寅之助 印

古立 直吉 印

前田卯之助 印

(以下略)

新夕ニ準店員ノ格称ヲ設ク

先年店員ノ等級称ヲ廢シテ以来店務員ノ格称ハ、支配人・副支配人・店員ノ外ニ等外店員ヲ存スルノミニシテ、等外店員ハ倉庫係員又ハ給仕ヨリ長シテ事務ヲ補助スル若年者等ニ適用シ来リシガ、内外事情ノ変化ニ連レ、近来ノ店状ニテハ、甲種程度商業学校出身ノ青年ニ見習ヲ命ジ数月後本辞令ヲ交付スル場合直ニ店員ノ列ニ加フルコトハ年輩・思慮・実力等ノ点ニ於テ不充分ナルモ、去リ迎等外店員トスルコトモ亦妙ナラズトノ意見ヨリ、前年四月初輸出部ニ見習ヲ命ジタル青年渋谷義夫ニ同九月辞令ヲ交付スルニ当リ初メテ見習店員ノ格称ヲ用キタルモ、此称呼ハ一般入店当初ノ見習ト区分シ難キ嫌アリ、其後数月ナラズシテ同人辞任シタレバ此格称モ自然廢セラレタルガ、大正元年九月肥料分析ニ当ラシムベキ青年田中織四郎ニ辞令ヲ交付スルニ当リ藤井ノ發案ニ依リ新ニ準店員ノ格称ヲ設ケ、尔来十余年引続キ此称呼ヲ使用ス

Whiddon Bros. 工場製造 Top ノ一手販売

Hughes ノ Top 製造計画ニ次ギ同ジクシムニー郊外 Botany ニ洗毛業ヲ経営シ来レル Whiddon Bros. ニ於テモ亦徐々ニ Top 製造ノ計画ヲ立テ居リシガ、昨年後半漸ク機械ノ据付ヲ了シ年末少量ノ製品見本ヲ送付シ来リシガ、経営者兄弟ハ何レモ予テ北村ト別懇ノ間柄ナレバ其製品ノ日本ニ於ケル販売ニ就テハ専ラ商店ニ信賴スルノ態度ニテ、此年二月先ヅ見本荷数俵ヲ委托送荷シ来リ、之レニ依リテ本店并ニ東京支店ニ於テ奔走ノ結果着々先約定ノ成立ヲ見、四月ノ着荷約二万五千ポンドヲ手始メ二年内荷着売仕切高四十万ポンドニ近ク、尔来漸次産額ノ増加ヲ来シタルモ、十余年ノ今日ニ至ルマデ同工場ノ製品ハ全部商店ノ手ヲ以テ本邦各モスリン工場ニ売約シテ、曾テ渝ルコトナク其真摯ナル営業振りハ常ニ顧客ノ信賴ヲ得、相互好意ヲ以テスル円満ナル取引久シキニ亘ルコト殆ンド其類例ヲ見ズ、対 Hughes 取引關係ト絶好ノ対照ヲ成スノ觀アリ

本邦ニ於ケル Wool Combing 事業ノ台頭

東京製絨会社ニテハ民間当業ノ先覺トシテ日露ノ戰役前既ニ Combing (主トシテ雜種用) 器械數台并ニ之レニ伴フ Worsted 紡機ヲ輸入設備スル所アリシモ、當時試験的運轉ノ結果収支ノ成績思ハシカラズトシテ久シク放棄シアリシガ、其後重役総更迭ノ結果之レ等機械ノ起用ヲ計画シ、四十二年末英國ヨリ技術者 Harring ヲ傭入レ、四十三年春ヨリ先ヅ紡機ヲ動カシ次デ梳毛機ノ運轉ヲ再開シテ好成績ヲ挙ゲシガ、千住製絨所ニテモ將校用夏服地ヲ茶褐霜降 serge ニ改メ之レガ製造ニ充ツル為メ四十三四年ノ頃梳毛機少數ヲ据付ケ直ニ其運轉ヲ始メ、東京モスリン会社モ亦曩ニ英國ニ注文シアリシ一組ノ梳毛機四十四年ニ到着シ、前年晩夏ノ洪水ニ因スル大損失ノ責ヲ負フテ同九月引退シタル端專務ノ後ヲ承ケテ就任シタル高木・井上兩常務ノ手ニヨリテ四十四五年ノ交徐々ニ其操作ヲ試ムル折柄、日本毛織会社ガ新タニ輸入シタル大陸式梳毛機十二台ハ四

十四年中ニ早クモ略据付ヲ終リ、アルサス地方ヨリ傭入レタル Comber, Sorter 等ノ手ニヨリテ四十五年春ヨリ着々運転セラル、ニ至リテ、我毛織界ハ茲ニ一新生面ヲ開キ民間ノ原毛需要量ハ著シク増加スベキ勢ヲ示シ来レルニ反シ、千住製絨所払下ゲノ説ハ早クモ巷間ニ伝ヘラレ、官庁ノ需要ハ既ニ其絶頂ヲ越エ近ク減退スベキヲ思ハシムルニ至ル

最近五羊毛年度ニ於ケル原毛売込先

別項ノ如ク当年商店ノ羊毛扱高ハ弍万俵ヲ超ユルノ盛況ヲ呈シタルモ、本年ハ特ニ新季節ノ開始早クシテ年末ノ着荷高例年ニ比シ倍增シタルニ負フ所亦少ナカラズ、曆年ノ数字ハ動モスレバ誤解ヲ醸ス恐アルガ故ニ先年被服廠ノ大買附ノ翌年ヨリ最近ニ至ル数ケ年ノ羊毛輸入取扱高ヲ羊毛年度ニ從ヒテ計表スレバ左ノ如シ

wool year	1908-9	1909-10	1910-11	1911-2	1912-3
明治年	四一ノ二	四二ノ三	四三ノ四	四四ノ五	大正元ノ二
商店扱高(俵)	6,654	10,881	10,603	16,314	11,529

更ラニ其売込先ニ細別表示スレバ左ノ如シ

Season	1908-9	1909-10	1910-11	1911-2	1912-3
	(四一〃四二)	(四二〃四三)	(四三〃四四)	(四四〃四五)	(大正元〃一一)
日本毛織	2,332 B/S	3,245 B/S	3,021 B/S	5,429 B/S	5,528 B/S
陸軍被服廠	3,371	4,027	4,000	5,236	1,690
千住製絨所	677	2,552	3,100	3,742	2,907
東京製絨会社	237	1,051	403	1,119	523
東京モスリン	0	0	20	775	755
其他	37	6	59	14	126
合計	6,654 B/S	10,881	10,603	16,314	11,529

倫敦ヨリ屑毛類、濠洲ヨリ No.1 ノ輸入開始

此年 Hughes ノ代理人 Hallam ノ紹介ニヨリテ東京支店ハ倫敦ノ毛織物及材料商 Arthur Davy ヨリ羊毛及屑毛類ヲ輸入シテ東京製絨会社等ヘ売込ムノ端ヲ開キ、本店亦日本毛織等ヘノ売込ニ尽力シタル結果、東西ヲ通ジテ年商高約三万円ニ上リ千数百円ノ利益ヲ収メタルモ其後撻々敷発展ヲ示スニ至ラズ、久シカラズシテ取引關係モ事実上消滅シタリ

濠洲ヨリ Top ノ副産物タル No.2 ヲ輸入スルコトハ四十二年以來常ニ怠ル所ナク奔走シ来リシモ兎角実績ヲ挙グルニ至ラザリシガ、本年ニ入りテ漸ク商買ラシクナリ、尔来盛衰甚ダ一ナラズト雖モ年ニヨリテハ相当ノ商高ヲ示シ、最近数年ニハ一廉ノ取扱商品ヲ以テ目シ得ルニ至リタリ

騎兵学校用馬輸入取扱ノ始メ

三十七八年戰役後競馬法ノ施行、馬政局種馬所ノ設置等産馬奨励ノ効果次第ニ挙リ、近時本邦ノ産馬ハ質量共ニ著シク進歩シタリト雖モ、其価額モ亦頗ル昂進シ且優秀ノ新馬ハ猶不足ヲ免カレザル折柄、戰時大輸入ノ濠馬中其駿秀ヲ選択シテ騎兵実施学校ノ高等馬術用ニ供セルモノ今ヤ漸次老境ニ入ルヲ以テ、陸軍省ニテハ昨年来濠洲ヨリ年々新馬若干ヲ購入シテ之レヲ補充スルノ議熟シ、本年一月初頭購買官トシテ富永補充部技師ヲ濠洲ニ派スルコト、ナリタルガ、軍馬補充部附増田騎兵中佐ハ戰時濠大購入ノ事ニ当リタル人トテ商店ノ誠意ト技倆トヲ知りテ推薦シタル結果、陸軍省ハ購買官ノ任務遂行ニ関スル全般ノ斡旋ヲ商店ニ委嘱シタレバ、商店ハ之ヲ快諾シ技師ハ我シドニー支店ノ世話ニテ優秀ナル新馬十五頭ヲ選択購入シ三月末無事之レヲ護送帰朝シタリ、尔來購買員ハ補充部騎兵学校騎兵課ト輪番交代ノ姿ナルモ商店ノ取扱ハ渝ル所ナク、毎春

十五頭前後ノ購入ハ年中行事ノ一トナリ十有余年ノ今日マデ中絶スル所ナシ

明治四十五（大正元・一九一三）年

肥料部ノ發展計画更ラニ一步ヲ進ム

商店肥料部發展策トシテ四十二年配合肥料ノ関西方面試売ニ着手シ、翌四十三年ニハ自家配合ヲ開始シタリト雖モ、売行高モ多カラズ經驗モ亦乏シキ為メ万事意ノ如クナラズ、昨四十四年収ムル所僅カニ二百余円ニ過ギザリシト雖モ、大体ノ見当丈ケハ既ニ付キタリトシテ戸塚客員ガ鈴鹿商店ヨリ離レ釜山ニ移リテ肥料商ヲ開業スルノ機会ヲ以テ藤井ハ自ラ渡鮮一ヶ月ヲ費シテ各地ヲ視察シ、此年七月ヲ以テ総勘定元帳ニ肥料部ナル一獨立口座ヲ起シ、従来内国売買中ノ一目トシテ記帳上取扱来リシ内地仕入レ肥料・配合肥料等ノ収支ヲ之レニ移シ、濠入肥料ハ鈴鹿商店ニ売却ノ場合ニ準ジテ輸入部ヨリ肥料部ヘ一旦売仕切ノ形式ヲ踏ミテ以テ肥料部ノ獨立計算ノ基礎ヲ立テ、九月ニハ専門ノ分析技術者ヲ雇入レ、又十月ニハ大沢ノ入店ヲ待チテ藤井ハ之レヲ伴フテ渡臺各地ヲ巡回シ糖務局次回入札ノ状勢ヲ偵察シテ其万一ノ機会ヲ覘フト共ニ、湯淺商店臺中支

店ヲ代理店トシテ同局以外ノ甘蔗用民間小口并ニ漸次起ラントセル米作肥料ノ供給ヲ企画スル等
肥料部ノ一大進展ヲ策スル所アリ、同部本年（下半ノミ）ノ利益ハ二千数百円ヲ算セルヲ見ル

明治四十五（大正元・一九一二年）

年度扱羊毛二万俵・Top 一二百万ポンドノ巨量ニ上ル

Hughes Top ノ商賈ハ同工場ノ産額増加ト相俟チテ愈佳境ニ入り且ツ Whittington 工場ノ製品ヲ加ヘ
タレバ、毛斯綸紡織納百八十万ポンドヲ根幹トシ、東洋モスリン納廿万ポンド弱、日本毛織納メ
五万ポンド弱、東京製絨納二万ポンドノ外、上毛モスリン・東京毛織物会社等ニモ取引ノ端緒ヲ
開キ、東京モスリンモ前年九月 Hughes トノ喧嘩対手タル端專務引退ノ後ヲ承ケ青木・井上兩常
務事ニ当ルニ至リタル結果再ビ少量ノ買付ヲ試ミルニ到リタル等本年商店ノ Top 取扱高ハ忽チ
前年ニ倍シ斤量二百十萬ポンド価値二百四十萬円ヲ算シタルガ
羊毛モ亦日本毛織ノ注文品曆年末早着ノ分多クシテ同社ニ対スル当曆年総納品高八千六百俵ノ多
キニ上リタル上、被服廠納メ高亦六千俵ノ巨数ヲ算シ、千住製絨所納メモ四千俵ニ近ク、此外東
京モスリンニテハ愈 Top ノ自家製造ヲ開始シテ千俵近キ注文ヲ發シ、東京製絨ノ八百余俵其他

ヲ併セ当年商店ノ羊毛輸入総量ハ初メテ二万俵台ニ上リ二〇三二一俵ヲ算シタリ

明治四十五（大正元・一九一二年）

輸出年額一躍五十万円ニ近キモ本店純利ナシ

前年シドニーノ新知識ヲ吸収シテ帰朝シタル妹尾、新進ノ銳氣ヲ以テ濠洲シタル國包ハ既ニ何レモ其新部署ニ落付キタル上、本店ニテハ年初來更ラニ青年従務員ヲ加フルアリ、旁神戸ニ四方・妹尾・鈴木・小池・中井・今村ノ六名、シドニーハ大西・Tunga・國包ノ三名邦品輸出販売ノ事ニ従ヒ、五六年前ニ比スレバ人員恰カモ三倍セシ丈ケニ我輸出部当年ノ業績ハ量ニ於テハ正シク比例的ニ増進ノ実ヲ挙ゲ、Tungaノ十万円弱、植物性油ノ八万円弱ヲ兩大関トシ、玉葱ノ四万円、卓掛類・板紙・羽二重・魚油等ノ各二万五千円前後、硝子瓶及メリヤスノ各一万五八千円、糸屑ノ約九千円、絹手巾・綿縮ノ各五六千円、籠類・木材・刷子・寒天・樟腦・生姜并ニ花莖ノ各三四千円ヲ主トシ、其他ノ雜品ヲモ併セテ濠洲輸出高約四十二万円ニ進ミ、南阿向ケ・倫敦向ケ等亦稍増進シテ各三万円前後ニ上リタレバ、輸出総額ハ一躍四十八万円ヲ算シ数年來隆々タルノ觀

アルモ、之レニヨリテ本店収ムル所纔カニ一万円ヲ超ユルノミニシテ輸出金額ノ 2% 強ニ当ル
ノミ、本店輸出部員給料ノ二倍半ニ過ギザルヲ思ヘバ本店単独ノ計算トシテハ果シテ間接ノ経費
ヲ償ヒ得ベキヤ頗ル心許ナキ状態ニシテ、其真ノ損益収支ハ全ク係リテシドニー支店輸入部ノ業
蹟ニ在ル次第ナリ

年度総商高亦一躍七百万円

本年ノ濠洲輸入品売上高ハ別項既記羊毛ノ三百三十六万円、*Top* ノ式百四十万円ヲ始メ、*Fallow* ハ八百屯廿八万円弱ニ恢復シ、肥料ハ二千百余屯十六七万円、*Oleine* ハ三百五十屯十三万円弱、屠業雜貨五百余屯約五万円、木材二万五千円前後、高瀬貝六七十屯一万七八千円、麦粉百屯一万二三千円其他ヲ併セ、シドニー総原価約五十五万三千£、於日本総売上高六百三十五万円（内本店売約四百万円、東京支店二百三十五万円）ニ上リ外ニ別項倫敦ヨリ毛屑類ノ輸入販売高約三万円、羊毛及*Top* 類内国取次売買約六万円、肥料ノ内地売買高八万円アリ

更ラニ前項輸出総額四十八万円ヲ加ヘ

通計年度総商高七百万円ニ上リ遙カニ開業以来ノ記録ヲ破リタリ

内外年度益十五万円ニ垂ントシ遠ク創業以来ノ記録ヲ破ル

前諸項記述ノ如ク取扱高ノ増加ニ伴ヒ羊毛及ビ^{Wool}ノ収益併セテ五万円ヲ越へ、屠業雜貨・Tallow・Oleine・肥料・木材等何レモ五七千円ヲ収メ、諸割戻金亦一万五千円ニ上リタレバ、輸入ノ年度益八十万円ニ近ク、輸出ノ収益亦一万円ヲ越エ猶内地売買ニ於テ羊毛及^{Wool}類ノ好収六千余円ノ外、肥料部収入弐千余円等營業総益通ジテ十一万八千余円ニ及ビ、之レニ日濠館貸室料及少許ノ利息収入等ヲ加ヘ総益約十二万二千五百円ヨリ総経費三万八千円弱ヲ差引キ日本側純益八万五千円ニ近ク、シドニー支店亦前年ニ比シテ約壹割増シノ六万五千円ニ近キ利益ヲ寄セ来リシカバ、内外通算年度純益ハ実二十五万円ニ垂ントシ、創業以来ノ豊年タリシ明治三十八九、四十并ニ昨四十四年ノ記録タル十万円前後ヲ遠ク超越シ、明治年代營業廿四ヶ年ノ最後ヲ飾ルコトヲ得タリ

年度収支概表（店祖最後ノ決算）

〔表17参照〕

〈表17〉明治45（大正元）年度 収支及び利益処分概表

A 収支概表

輸入収益内容		総損益概括表	
羊毛	¥33,500	輸入業総益（左表ノ通り）	¥99,350
Top	17,200	輸出ノ（ノ）	10,400
屠業雑貨	7,500	内国売買費（ノ）	8,700
Oleine	7,400	以上営業総益	118,450
肥料	6,900	日濠館賃貸料	2,500
Tallow	5,900	利息及配当収入	1,400
木材	4,700	雑収入	200
小麦粉	600	合計総益金	122,550
高瀬貝	600	内 総経費（左表ノ通り）	37,650
Noil	250	差引日本側純益	84,900
雑品	500	シドニー支店ノ（次頁ノ表）	64,700
割戻金	15,150	内外通算年度純益	¥149,600
倫敦輸入	1,400		
合計	¥101,500		
輸入電信料	1,750		
輸入雑費	400		
差引総輸入益	99,350		
輸出益内容			
濠洲	7,800		
南阿	1,650		
倫敦	950		
計	10,400		
内国売買益			
肥料部	2,350		
其他	6,350		
計	8,700		
経費内訳			
諸税金	6,250		
本店俸給	14,700		
ノ 旅費	600		
ノ 通信費	1,000		
ノ 雑費	7,000		
東京支店経費	8,100		
計総経費	37,650		

B 利益処分

上表内外年度純益	¥149,600
此処分	
積立金へ	80,000
滞貸準備金へ（約）	9,650
什器銷却（ノ）	1,200
配当金7%	21,000
店主功勞金	15,000
店員賞与金	22,500
差引次年度繰越（約）	149,350
	250

C シドニー支店収支

Loss		Profit	
Salary & wages	£2,400	Export Com <u>n</u>	£6,000
Travelling Exp.	350	Import Profit	3,600
Export cable & Exp.	400	Exchange & Interest	1,000
Rent & Rate	200	Horse a/c	<u>100</u>
Income Tax	150	Total	10,700
Writing off Furniture	100		
Other General Exp.	480		
	<u>4,080</u>		
Nett Profit	<u>£6,620</u>		

巨益ノ処分、什器勘定ノ全減銷却
空前ノ大店員賞与（店祖最後ノ論功行賞トナル）

店祖ハ前項所載ノ本年度ノ利益ヲ処分スルニ当リ先ヅ八万円ヲ積立金ニ加ヘテ既存ノ分ヲ併セテ十万円ニ達セシメ、配当ハ二万千円ヲ以テ増加セル資本金ニ対シテ15%ヲ行フニ止メ、功勞金トシテ自ラ成規ノ一万五千円ヲ収メ、純益ノ15%ニ当ル二万二千五百円ヲ店員賞与金ニ充テ、千二百円ヲ割キテ什器勘定ヲ銷却全減セシメ、九千數百円ヲ滞リ貸準備金ニ加フルノ案ヲ立ツ予テ商店ノ資力充實ニ焦慮スルコト特ニ甚ダシク、殊ニ今其合資会社案実行延期ヲ主張シテ以來其念一層切ナル前田ハ、恒例ノ忘年会ニ列席スベク当日東京ヨリ來神シテ右ノ案ヲ示サレ分散多キニ失シ、特ニ賞与金ノ振宛厚キニ過グルモノトシテ店祖ノ再考ヲ求ムル所アリシガ、店祖曰ク卿ノ言誠ニ理アリ而カモ予ハ此空前ノ業蹟挙リタルニ際シ店員ノ為メニ其悦ビヲ頒タントス暫ク

予ノ案ニ賛セヨト、斯クテ年七分ノ組合員配当ト左ノ店員賞与金ノ分配ハ即夜実行サレ、各員受クル所多クハ俸給ノ年額ヲ超エ何レモ金封ヲ開キテ其額ノ大ナルニ驚キシ程ナリシガ、誰レカ知ラン此空前ノ大賞与ハ店祖ノ親ラセル今生最後ノ分配ナラントハ「中略」

以上総額二万三千余円ニシテ処分ニ表ハレタル賞与宛金額ヲ超過スルコト數百円ナルガ、此資源不足差額ハ必ズヤ店祖自ラ収メタル功勞金ヨリ割キテ補足シタルモノナルベシ

猶従來行賞撰叙等ハ殆ンド凡テ店祖一人ノ胸裡ニ塩梅セラレ、古立ノ如キモ其内容ヲ知ルコト稀ナル実状ナリシコト、テ従前ノ行賞等モ多クハ其内容ヲ知ルヲ得ザルヲ遺憾トス、只這般ノ最後ノ分配ハ幸ニ記録ヲ存シタルニツキ採録スルコト、シタリ

処分後ノ商店実資力四十万円ニ上リ拳店前途ノ希望ニ輝ク

商量・業績共ニ各人ノ予想ヲ超ユルコト遠ク、配当率ハ低下セリト雖モ各人受クル所ノ配当金ハ前年迄ノ 12 1/2% 率配当ニモ勝リ、更ラニ望外ノ大賞与金ヲ給セラレテ従務多年初メテ懐中ノ温カミヲ体験シタルモノ多ク、上下挙リテ喜悅面ニ溢ル、ヲ覚ユルノミナラズ、一方商店ノ資力ヲ見ルニ、前項処分ノ結果、滞貸ニ対スル準備ハ充実一段ヲ加へ、什器勘定ハ全銷却済トナリ、其他ノ資産ニハ何等ノ無理ナク積立金ハ十万円ニ増加セラレ、商店ノ実資力ハ早くモ確實ニ四十万円ニ上リタルコトナレバ其五十万円ニ達スルノ時期モ目睫ノ間ニ在リトナシ、店祖以下店員齊シク衷心ノ希望ニ輝キテ大正二年ヲ迎フ

試ニ処分後ノ貸借概数ヲ表示スレバ左ノ如シ

[表18参照]

〈表18〉明治45（大正元）年度 貸借対照表

<u>借方（資産）</u>		<u>貸方（負債）</u>	
地所家屋	¥175,000	資本金	¥300,000
公債及有価証券	46,700	積立金	100,000
輸出入商品	47,000	滞り貸準備金	35,000
肥料部	87,300	輸出入荷為替手形	1,281,000
シドニー支店	155,000	預り金及店員信認金	30,000
東京支店	219,000	支払手形	55,000
銀行及現金	29,000	割引手形	45,000
貸売及貸金	178,000	仮勘定	18,000
受取手形	927,000		
合計	<u>¥1,864,000</u>	合計	<u>¥1,864,000</u>

大正二（一九一三）年

店祖遽然トシテ長逝ス

店祖前々冬ノ疾患ハ一時重態ヲ思ハシメ挙店屢ニ寒心セシモ、案外迅速ニ輕快シ昨夏秋ノ交ニハ既ニ医師ト遠カリ瀕次店舗ニ出勤スルニ至リ、且商店前年ノ業蹟亦遠ク予期ヲ超エテ良好往年ニ比無ク店員等齊シク望外ノ年末賞与ニ潤ヒ、今ヤ店資ノ第一期目標ニ充實シ合資会社ヲ實現シテ店業ニ一時期ヲ画スベキノ日モ既ニ目睫ノ間ニ在ルヲ思ハシメ、商店ノ内外ハ靄然トシテ瑞氣濃カニ特ニ希望ニ輝ケル新年ヲ迎へ、店祖ハ何時ニナク「シヤンベン」ノ杯ヲ挙ゲテ店員等ト共ニ之ヲ祝シタル程ナリシニ、誰レカ知ラン尔来僅カニ月余喜悲忽チ所ヲ更へ哀雲立口ニ商店ヲ被ハントハ

店祖曩キニ齡初老ヲ過ギテ我貿易界ノ為メニ荆棘ヲ拓キ特ニ前人ノ曾テ顧ミザリシ新方面ニ邦人通商ノ途ヲ覓ムルノ志ヲ立ツ、其意中固ヨリ生死ヲ顧ミザリシ事ハ初回渡濠ニ際シ遺言書ヲ認メ

其後事ノ処理ニ備ヘシノ一事ニ見テモ之レヲ知ルベク、尔来往々之レヲ更新シテ以テ店業其他ノ近状ニ適応セシムルノ用意アリシハ以テ当初ノ決意ノ曾テ渝ルコト無カリシヲ証スルニ足ル所ナルガ、偶々前年中商店ノ匿名組合組織完成シ旧臘ノ決算亦異常ノ好成績ヲ示セシノミナラズ、養嗣馨君ノ為メニハ伉儷ヲ得タル等商店内外ノ状況ハ著大ノ変化ヲ来シタル為メ復又遺言更新ノ必要ヲ認メタル店祖ハ、此年一月十日前ヨリ多ク自邸ノ一室ニ独リ文書筆硯ト親ムコト句余漸ク新遺言書ヲ作成シ、更ラニ北村・前田等隔地在勤ノ商店幹部ニ与ヘテ大正ノ新時代ニ適応邁進スベキ経綸ヲ論シ或ハ店外ノ旧友別懇ノ向キニ消息ヲ通ズル等書信ヲ認ムルコト約廿通廿二日ヲ以テ完了シタルヲ以テ、翌廿三日新年初出店トシテ日濠館ニ到リ此ノ封緘遺言書ヲ古立ニ托シテ金庫ニ納メシメ且前記書信ノ發送ヲ命シ、元氣ニ満テル店員等ノ常務ニ活動セルヲ見テ会心ノ笑ヲ漏スコト少時ニシテ、帰邸一浴シ心神極メテ爽快意甚ダ安キヲ示シタルガ、途上ノ寒風老体ニ累シ輕微ノ感冒ニ罹リタルモノ、如ク、廿五日來客ト囲碁中発熱ヲ感ジ遂ニ臥床スルニ至レリ而カモ病勢ハ左ノミ重カラズ且前年回春ノ好例猶周圍ノ記憶ニ新タニシテ家人店員等ハ勿論醫師モ亦万一ヲ思フニ至ラザリシニ、二月ニ入りテ經過兎角佳ナラズ、五日深夜病勢遽ニ革マリ、翌六日早暁遂ニ溘焉長逝ス、享年六十九才、九日店葬ノ礼ヲ以テ神戸市北東ノ山腹一眸日本第一ノ貿易港ヲ瞰下スル所春日野墓地ニ葬ル

同年九月六日墓碑就ル

初回ノ渡濠ヨリ廿有七年赤道ヲ縦断スルコト十有六回、商店ノ創立以来正ニ廿四年有半ニシテ当代業界ノ偉人日濠貿易ノ開祖百松園主人兼松濠洲翁逝イテ復タ帰ラズ嗟

大正二（一九一三）年

店祖ノ遺産

業界ノ奇傑トシテ夙ニ天下ニ知ラレ一流ノ紳商ヲ以テ多ク世ニ称セラレ、而カモ常ニ簡素自ラ居リ、殊ニ特得ノ努力主義ヲ以テ六十九年ノ短カラザル生涯ヲ一貫シ、而カモ其晩年引続キ順調ナリシ店運ヲ以テス、之レガ主人公タリシ店祖ノ遺産果シテ幾何

曰ク前年匿名組合組織ヲ完成シタル兼松商店出資以外物質的遺産トシテハ、諏訪山邸宅（先年商店ヨリ買戻シ後多少ノ増築ヲ加ヘ評価額約金壹万五千円）及什器并ニ神戸瓦斯会社株式新旧取合セ壹千数百株此時価大約五六万円ヲ数フルノミ、而カモ此株式ニ対シテハ商店ヨリ四万円ニ近キ立替借アリテ之レヲ差引クトキハ手取二万円ニ充タズ、而シテ生命保険ハ僅カニ貳千円ノ契約在リシニ過ギズ

斯ノ如キハ偶以テ店祖ノ如何ニ其天職ニ忠ニシテ利福ニ淡カリシカヲ証スルニ足ルト共ニ、之レ

ヲ既述ノ店資分配ニ対照シテ誰レカ其部下ニ厚カリシニ驚カザル者アラン

大正二（一九一三）年

店祖ノ遺言書

一月廿三日店祖親ラ店舗ニ到リ古立ニ托シタル遺言書ハ凶ラズモ半月ナラズシテ其効力ヲ發生スルニ至リタレバ、初七日ヲ過クルヲ待チ、二月十四日法規ノ手續ヲ履ミ之レガ開封檢認ヲ經タルニ、其内容ハ二通ニ分レ居リ、一ハ商店トノ關係ニ就キ主トシテ養嗣ニ遺シ延イテ店員ニ及ブモノ、他ハ専ラ遺贈ニ関スルモノニシテ、何レモ北村ヲ遺言執行者ニ古立ヲ予備執行者ニ指名シアリ

前者ハ遺訓ヲ主トシテ

一、兼松家ヲ繼承スル嗣子ハ拙者及店員諸氏ガ多年辛苦經營シテ結成シタル今日ノ基礎及ビ名声ヲ得タル深甚ノ勤勞ヲ尊重シ、之レヲ毀損失墜セザル事ニ深厚ノ注意ト敬意ヲ払ヒ、誠心誠意店務ニ従事奉公シテ以テ拙者ノ意旨ヲ貫徹スル事ヲ專要トシテ必至勉勵セヨ

一、拙者ト店員諸氏トノ間ニ締結シタル協約書ヲ尊重シ之レヲ嚴守セヨ

一、功勞アル店員諸氏ノ尽忠ハ厚ク尊重シテ忘却スベカラザルハ勿論、常ニ其心得ヲ以テ礼遇ヲ大切ニセヨ

一、店長ノ後繼者ハ出資者多数ノ意旨ニ因リ之レヲ決定セヨ

一、出資者諸氏ハ房治郎多年ノ勤勞ヲ以テ經營築造シタル兼松商店ノ繼承ハ至誠ヲ以テ協力一致益名声ノ發揚業務ノ振興ニ努力セラレン事ヲ希望ス

ノ五項ヲ首メトシ、他ノ三項ハ商店ニ対スル出資拾万円ノ内貳万円ヲ商店ノ積立金ニテ買取セシメ、其代金ヲ遺贈ノ資源ニ充ツルト共ニ出資權利ノ余裕ヲ作りテ他日功勞アル店員ヘノ頒与ニ備ヘ、八万円ノミヲ嗣子ニ繼承セシメ、且商店ノ積立金廿万円ニ達スルノ暁ニハ資本金ニ繰込ミ(從來ノ資本ト合セテ資本金五拾万円ノ意)合資組織ヲ公ニスベク、其際兼松家ノ出資額八万円ニ対シ五万余円ノ増額ヲ来スベキニツキ其内嗣子ハ貳万円ノミヲ収メテ出資總計拾万円ニ止メシムルコトヲ命ジ、残ル三万余円ノ処分ヲ予メ指定シタルモノニシテ、外ニ家族親戚ニ対スル心得ニ関シ嗣子ヘノ遺訓ニ項ト生命保険金ヲ慈善団ヘノ寄附及施米ニ充ツベキ指圖一項トヲ併セ總計十一項ヨリ成リ、後者ハ瓦斯会社株式ノ一部約壹万円ヲ夫人ニ遺シ、其他ヲ全部売却シテ前文出資權貳万円ノ売却代金ヲ併セテ其全部ヲ廿数名ノ親戚ヲ始メトシ、店員并ニ其家族等數十名新旧僕婢出入等數十名并ニ実業協會貿易青年会并ニ二三ノ寺院等ヘ夫々分配遺贈シ且葬儀費ニ充テントス

ル明細書ニシテ、前者ノ店業ヲ思フテ到ラザルナク而カモ克ク数項ニ要領ヲ収メテ方針ヲ示シタル手際ト、後者ノ百数十名ニ対シ夫々金額ヲ按配記入シタル努力ト出入リノ受贈者ハ按摩ニマデ及ブノ周到トハ、見ル者ヲシテ実ニ今更ノ如ク感歎措ク能ハザラシム

合資会社兼松商店定款

前項幾多ノ曲折改変ヲ経テ五月十二日正午頃署名調印ヲ了シテ作成セラレタル定款ハ、立案者始メ幹部各員ノ意ニ充タザル所尠ナカラズト雖モ、愈繼嗣ノ署名完了スルヲ目撃シテ漸ク胸ヲ撫デ下シタル程ナルガ、其全文左ノ如シ

合資会社兼松商店定款

第一章 総則

第一条 会社ハ故兼松房治郎氏創立シ嗣子兼松馨相続セル兼松商店ノ事業ヲ繼承シ、左ノ營業ヲナスヲ以テ目的トス

大正一（一九一三）年

一、貿易業 委託売買業

一、物品売買業 仲立業 代理業

一、肥料ノ製造 輸入 及売買業

第二条 会社ノ商号ヲ合資会社兼松商店ト称ス、但シ外国語ニテハ F. KANE MATSU ト略称ス

第三条 会社ハ本店ヲ神戸市ニ置キ、支店ヲ東京市及ビ濠洲シドニー市ニ置ク

第二章 社員

第四条 社員ノ氏名、住所、出資ノ種類、価格及責任ハ左ノ如シ

(此原本ノ連名金額等ハ印鑑ノ必要上当時ノ日本在住者ノミニテ間ニ合セのニ作成シ稍事実ニ遠カリ居ルニ付、次項記事ニ譲リテ此所省略ス)

第五条 社員ノ入社出資額ノ異動及責任ノ変更ハ無限責任社員総員ノ同意ヲ要ス

第六条 社員ガ店務ニ従事スルヲ罷メタルトキハ其社員ハ之レニヨリテ退社スルモノトス、但シ兼松馨、兼松せん及兎玉寛二郎ハ此限ニアラズ

第七条 有限責任社員ハ其死亡禁治産破産若シクバ家資分散ニヨリテ退社スルモノトス

第八条 退社員ニ払戻スベキ持分ハ各社員ノ出資総額、会社ノ積立金(奨励積立金ヲ除ク)並ニ繰越益金ヨリ繰越損金及ビ滞貸見込額ヲ控除シタル残額ニヨリテ之ヲ計算ス、但シ營業年度ノ

中途ニ於テ退社シタル場合ニハ積立金及繰越損益金ハ其年度ノ始メニ於ケル金額ニヨリテ計算ス

第九条 前条ノ滞リ貸見込額ハ退社員ト無限責任社員トノ協議ヲ以テ選任シタル評価人ノ評定ニ依ル、協議ノ調ハザルトキ又ハ評定ニ対シ異議アルトキハ民法第六百八十一条第三項ニ依リテ之ヲ決ス

第十条 兼松馨、兼松せん及児玉寛二郎以外ノ社員ガ退社シタル場合ニ於テ、其店務ニ従事シタル年数が兼松商店ニ勤務シタル年数ヲ通算シ、廿年ニ滿タザル時ハ之ニ対スル持分ノ払戻シハ前二条ニ依ル金額ノ四分ノ三、十五年ニ滿タザルトキハ二分ノ一、十年ニ滿タザルトキハ四分ノ一ノミヲ払戻スヲ以テ足ルモノトス、但シ無限責任社員ノ決議ヲ以テ退社員ノ功勞ヲ詮衡シ前二条ノ金額ニ達スルマデノ範圍ニ於テ払戻金額ヲ増加スルコトヲ得

第十一条 会社ニ対スル退社員ノ不正行為ガ直接又ハ間接ニ退社ノ原因トナリタル場合ニ於テハ無限責任社員ノ決議ヲ以テ前三条ニ定メタル金額ノ全部又ハ一部ノ払戻シヲ為サルコトヲ得

第十二条 第八条及第九条ニ依リ算出シタル金額ト前二条及次条第二項ニ依ル實際払戻額トノ差金ハ会社ノ積立金ニ繰入ル、モノトス

第十三条 退社員ニ対スル持分ノ払戻シハ其退社ノ日ヨリ二箇年ヲ経過シタル後之ヲ為スモノトス、但シ退社ノ日ヨリ現実払戻シノ日マデ決定払戻額ニ対シ法定ノ利息ヲ附シ、利息ハ毎營業

年度ノ終リニ於テ支払フモノトス、退社員ガ退社前若シクハ前項期間内ニ会社ニ対シ不正行為アリタルトキハ、無限責任社員ハ其決議ヲ以テ決定払戻額ヲ削減スルコトヲ得、削減ノ効力ハ退社ノ日ニ溯ルモノトス

第三章 無限責任社員

第十四条 無限責任社員ハ二名共同スルニ非サレバ会社ヲ代表スルコトヲ得ズ

第十五条 無限責任社員ハ総員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ本定款ニ定メタル一切ノ決議ヲ為シ、及び常務ニ非ザル重要ノ業務ヲ執行ス

第十六条 無限責任社員ハ他ノ無限責任社員ヲ代理人トナシ又ハ書面電報等ヲ以テ決議權ヲ行フコトヲ得

第十七条 無限責任社員兼松馨ヲ社長トス

第十八条 社長ハ社務ヲ統率ス

第十九条 社長ニ非ザル各無限責任社員ノ分担事項ハ無限責任社員ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二十条 前条ニヨリ各無限責任社員ガ分担シタル常務ニ付テハ当該無限責任社員ハ単独ニテ之ヲ執行スルコトヲ得

第四章 社員總會

第廿一條 社員總會ハ社長又ハ他ノ無限責任社員之ヲ招集ス

第廿二條 總會招集ノ通知ハ会日ヨリ二週間前ニ之ヲ發スルコトヲ要ス、前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルモノトス

第廿三條 社員ハ予メ他ノ社員ニ委任シテ總會召集ノ通知ヲ受クルコトヲ得

第廿四條 總會ノ議長ハ社長之レニ任シ、社長事故アルトキハ他ノ無限責任社員之ニ任ズ

第廿五條 總會ハ総社員ノ半数以上ニシテ出資總額ノ二分ノ一以上ニ當ル社員出席シ、其議決權ノ過半数ヲ以テ一切ノ決議ヲ為ス、但シ各社員ノ議決權ハ其出資額ニ依ル、前項ノ規定ハ商法ニ於テ総社員ノ同意ヲ要スル事項ニハ之ヲ適用セズ

第廿六條 總會ニ出席セザル各社員ハ他ノ社員ヲ代理人トナシ又ハ書面電報等ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得、此場合ニ於テハ之レヲ出席者ト見做ス

第五章 計算

第廿七條 会社ノ營業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第廿八條 每營業年度ノ純益金ハ左ノ割合ニヨリテ処分ス

一、積立金 百分ノ二十以上

二、奨励積立金 百分ノ十以下

三、配当金 百分ノ四十以下

四、賞与金 百分ノ二十以下

五、第三十二条ニヨル報酬金 百分ノ五

六、次年度繰越金 前五号ノ残額

第廿九条 無限責任社員ハ毎營業年度ノ終ヨリ四ヶ月以内ニ損益処分案ヲ決議シ、貸借対照表、

財産目録并ニ損益計算書ト共ニ之ヲ社員總會ノ議ニ附スルコトヲ要ス

第三十条 無限責任社員ハ総員ノ同意ヲ以テ積立金ノ処分案ヲ立テ社員總會ノ決議ヲ経タル上之ヲ実行スルコトヲ得

第三十一条 無限責任社員ハ其決議ニヨリテ左ノ案ヲ立テ社員總會ノ決議ヲ経タル上之ヲ実行スルコトヲ得

一、第廿八条ニ列挙セザル目的ニ純益ノ一部ヲ処分スルノ案

二、奨励積立金ノ全部若クハ一部ヲ処分スルノ案

三、兼松商店ニ於ケル勤務日数ヲ通算シ、從業年数滿三ヶ年ヲ超エ特ニ功勞アル店員ヲシテ新
 タニ社員ニ加入セシメ又ハ会社ニ対スル匿名組合出資者タラシムル為メ其出資金額ヲ給ス
 ルノ案

四、既ニ社員又ハ匿名組合出資者タルモノ、出資金額ヲ増加セシムル為メ其増加額ヲ給スルノ案

第六章 附則

第三十二条 会社ハ兼松商店ノ創立者故兼松房治郎氏ノ功勞ニ酬ユル為メ同氏未亡人ニ対シ其生存中毎年純益金ノ百分ノ五ヲ贈呈ス

第三十三条 兼松氏ヲ称スル社員ハ将来退社スルコトアリトモ会社称号中ニ存ル其氏ノ使用ヲ止ムルコトノ請求ヲ為サズ

以上

大正二年五月十二日

社員ノ出資責任等ノ内容

定款ノ作成及登記ヲ急ギタル為メ前年ノ匿名組合員中多数ノ在外者等ハ其調印若シクバ委任状提出ノ時日ナキヲ以テ之レ等ノ出資ハ便宜在神者ノ名義トシタル結果、定款面ノ人名及ビ出資額ハ事実ヲ去ルコト遠ク登記面亦從テ然リ、今事実上ノ出資者ノ内容ヲ挙ゲンニ

拾万円	無限	兼松馨
五万円	同	北村寅之助
貳万五千元	同	古立直吉
壹万貳千五百円	同	前田卯之助
壹万貳千五百円	無限	入江金三郎

同	同	四方素
五千円	同	藤井松四郎
貳万円	有限	兼松未亡人
外二七千三百円		妹尾名義
貳万円	同	児玉寛二郎
壹万貳千五百円	同	大西金次郎
五千円	同	妹尾簾多
四千円	同	鈴木小右衛門
貳千五百円	同	山本一郎
貳千五百円	有限	守田治平
貳千円	同	井垣帟治
壹千五百円	同	関楹次
壹千貳百円	同	林莊太郎
壹千円	同	國包祐一
壹千円	同	小池三次郎
壹千円	同	廣戸茂吉

大正二(一九一三)年

壹千円

同

御前綱一

以上合計 金參拾万円也

此社員貳拾壹名

即チ兼松未亡人が匿名組合成立当時ノ其持分ノ内金貳万円ヲ其生家ノ相続人タル児玉氏ニ此機会ヲ以テ贈与セラレ、又金七千五百円ヲ便宜縁者タル妹尾名義ニ改メラレタル外、各人ノ出資額ハ昨年ノ組合ト些ノ変化ナシ

無限責任社員ノ担当役割決議

繼承開業ニ先チ五月十四日無限責任社員會議ヲ開キ、定款第十九条ニ依ル分担事項トシテ

北村ハシドニー支店長トシテ其營業ノ一切ヲ

古立ハ本店輸入部ノ營業一切ト外ニ四方・藤井ノ事故アル場合ノ代務ヲ兼掌

前田ハ東京支店長トシテ其營業ノ一切ヲ

四方ハ本店輸出部ノ營業一切ト會計部ノ事務一切

藤井ハ本店肥料部ノ營業一切ト古立事故アル場合ノ輸入營業一切ノ代替

ヲ決議シ、猶定款ニヨリ共同代表主義ヲ採リテ登記シアル關係上、無限責任社員一人ノミノ東京

支店ニテハ外部ニ対シテ分担決議ヲ立証スルノ必要ヲ生ズベク其煩ヲ避クル為メ支配人ヲ置キ、前田ヲシテ之レヲ兼任セシムルコトヲ併セテ決議シ、直ニ之レヲ登記ス

猶兼松新社長ノ給料八月式百円ト定メ、北村以下従務総員ノ給料ハ従来ノ俣タルベキコト後日決議ノ手続ヲ履ミタリ

匿名組合營業ノ終末決算

合資会社既ニ前述ノ通り成立ニツキテハ之レニ營業ヲ引継グニ当リ其収支ヲ明カニスルノ必要ヲ認メ、五月十五日限り匿名組合ノ終末決算ヲ遂ゲタルニ旧臘廿日ノ前年度決算以來五ヶ月ニ滿タザル短期間ナルニ拘ラズ季節柄商量尠ナカラズ即チ

輸入ニ於テ、羊毛五千俵弱・*Log* 七拾万ポンド各八十余万円、小麦五千屯約廿七万円、肥料千參百屯・牛脂貳百屯・*Olaine* 百六七十屯各六七万円、*No.1* 四五万ポンド貳万五千元、屠業雜貨百廿屯貳万円、小麦粉五拾屯六千元、其他ヲ併セ総額約貳百貳拾万円ニ上リ

輸出ハタオルノ五万余円ヲ筆頭ニ、卓掛・豆油・硝子瓶ノ各壹万五八千元、植物油・板紙ノ各七八千元、メリヤス・魚油・絹手巾・寒天ノ各四五千元其他ヲ併セ約十五万円外ニ
対南阿輸出壹万円、通計拾六万円ニシテ

輸出入総益式万參千円ヲ超エ、独立計算ノ肥料部亦好成績ニシテ利益七千円ヲ超エ、加之別項Lever工場ニ対スル豆粕買次口錢其他ノ内地取引收入モ亦少ナカラズ、結局本店純益壹万六千余円、シドニー支店純益亦略之レニ匹敵シタリ、概数左ノ如シ

〔表19参照〕

〈表19〉大正2年 匿名組合の終末決算と利益処分

大正二(一九一三)年

A 収支概表

Wool ab'r	7,300	左表営業益合計	34,600
Top	2,000	日濠館収入、利息及雑収入	1,700
Oleine	2,900	合計総益	36,300
Tallow	600	内 本店及東京支店経費	20,100
肥料	1,700	差引内地純益	16,200
屠業雑貨	1,300	シドニー支店利益	16,200
其他諸品	1,800	合計利益	¥32,400
割戻シ	2,800	期初現在積立金	¥100,000
計	20,400	繰越金	300
内 電信料	1,200	上記当期益金	32,400
差引 輸入益	19,200	以上合計	132,700
輸出口銭及利益	4,400		
内国売買益	1,300	其処分次ノ如シ	
肥料部利益	7,300		
大豆粕買次益	2,400		
合計営業益	34,600		

B 利益処分

上文処分ニ附シ得ベキ資源			¥132,700
遺贈資源補給	¥45,200		
不動産相続移転登記料	4,500		
相続税引当(見積り額)	32,000		
葬儀費へ	5,500	¥87,200	
地所家屋(日濠館)減価銷却	25,000		
滞貸切捨欠損補充	5,500	30,500	
組合契約ニヨル故店長功勞金10% 馨君へ	1,300		
同上未亡人功勞金5%	1,000		
出資者配当金3%	9,000	11,300	129,000
差引残額諸税金引当トス			¥3,700

積立金及利益金ノ処分

今回ノ臨時計算期頭ニ於テ商店ノ所有セシ積立金拾万円ハ既記ノ如ク其大部分ハ遺贈資源ノ補給并ニ相続税ノ引当等ニ擬セラレ其精算ノ結果僅カニ一万二千円ヲ剩スニ過ギズ、之レニ今回ノ臨時決算ニヨル内外ノ純益ヲ加ヘ資本金三十万円以外ノ純資力約四万五千円ヲ算スルモ、店業ハ今ヤ中心ヲ失ヒタル店員等ニ依リテ殊ニ動モスレバ意志相通ジ難キ青年継嗣ヲ擁立シテ新組織ノ下ニ継承セラルベキ次第ナレバ、其当初ノ資産ハ精々堅固ニ充實セシメ置クノ必要アリトシ、八月二日ノ重役会ヲ経テ先ヅ評価人ノ鑑定ヲ求メ不充分ナガラ不取敢右金額ノ内金貳万五千円ヲ日濠館ノ減価銷却ニ振向ケ以テ同館及其敷地ノ記帳価額ヲ十五万円ニ引下ゲ、且滞リ貸準備金ニ更ラニ五千余円ヲ補足シテ回収見込薄ノ滞リ貸（稲葉潤吉二万余円、松井モスリン壹万五千円弱、其他万木豊七・大野平吉外三四口ノ総計）四万余円ノ金切捨テニ充當シ、斯クシテ残ル所ノ一万

五千円前後ノ内ヨリ店祖生存期間ニ対スル功勞金ヲ相續人馨君ニ又其後ノ期間ニ対スル功勞金ヲ未亡人ニ夫々提供シ、出資者ニ対シテハ一率 3% 即年 6% 強ノ配當ヲ行ヒ、殘ル四千円弱ヲ当期利益金ニ対スル所得税ノ引當テトシ、之ヲ九月十一日ノ組合員總會ニ報告シタル結果、商店ノ正味資産ハ恰カモ三十万円一杯トナリ、二年半前即明治四十三年末利益処分直後ノ資力状態ニ逆退シタリ

合資会社ノ繼承開業

合資会社ノ成立スルヤ直ニ之ヲ正金銀行ニ報シテ其諒解ヲ求ムルト共ニ神戸及東京ニ於ケル登記新聞広告諸取引先ヘノ通知等ヲ急キ、一面五月十四日附ヲ以テ繼承トノ間ニ營業讓渡ニ関スル下記契約ヲ又匿名組合營業主トシテノ繼承ト各組合員トノ間ニハ組合契約解除并ニ出資金返還授受等ノ諸形式手續ヲ踏ミ、恰カモ店租ノ百ヶ日忌ニ相当スル五月十六日ヲ以テ商店従来ノ事業并ニ対外權利義務ノ一切ヲ繼承シテ会社營業ヲ開始シタルガ、前項処分ノ結果ニヨリ合資会社ガ引継ギタル商店ノ資債概要ヲ挙グレバ左ノ如シ

〔表20参照〕

〈表20〉大正2年度 貸借対照表

大正二(一九一三)年

	<u>資産</u>	<u>負債</u>
日濠館及敷地	150,000	資本金 300,000
株式	73,000	輸出入荷為替手形 1,814,000
輸出入商品	72,000	銀行勘定借越 10,000
肥料部勘定	78,000	預り金及店員信認金 34,000
受取手形	1,377,000	支払手形 81,000
貸売	144,000	割引手形 300,000
シドニー支店	135,000	
東京支店	131,000	
仮勘定	344,000	
輸出部仮勘定	7,000	
預ヶ金	23,000	
貸金、什器	5,000	
Lever & Cash		
合計	<u>2,539,000</u>	合計 <u>2,539,000</u>

右資産中株式勘定ガ従前ニ比ナキ膨大ヲ来セルハ瓦斯会社株式（前数項参照）五万六千余円ヲ引受ケタルニ由リ、仮勘定ノ膨大ハ決算ニ迫リテ着船セル輸入品ノ計算未了ナルノ結果ナリ前文營業讓渡ニ関スル契約書ハ左ノ如シ

契約書

兼松商店主兼松馨ヲ甲トシ合資会社兼松商店ヲ乙トシ、兩者ノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

一、甲ハ兼松商店本支店ニ属セル商号、商標、營業得意、帳簿書類、地所建物、商品、什器、有価証券取引勘定其他一切ノ權利義務ヲ挙ゲテ現状ノ俣悉皆乙ニ讓渡シ、乙ハ之ヲ讓受ケタリ、但シ其引繼ハ大正貳年五月十五日ノ現在ニ拠ル

二、第一項引繼後兼松商店又ハ F. Kanematsu ニ宛テ、到達シタル書面、電報、商品見本等ハ凡テ乙ニ於テ受取り処分スベキコト

三、第一項引繼ノ後ト雖モ、乙ハ兼松商店又ハ F. Kanematsu ノ名ヲ以テ取引通信等ヲ為スコトアルモ、其結果ハ悉ク乙ノ計算ニ帰スベキコト

四、營業年数ヲ条件トスル商事契約ニ関シテハ、第一項ノ引繼ノ後ト雖モ、甲ハ其營業ヲ継続シ、之レニ関スル業務一切ノ代理ヲ乙ニ委託シ、其結果ハ悉ク乙ノ計算ニ帰スベキコト

五、甲ノ先代兼松房治郎ト妻せん及北村寅之助以下十八名トノ間ニ締結シタル大正元年八月十九日附匿名組合契約ハ、乙之レヲ繼承セザルヲ以テ、甲ハ夫々之レヲ処理スベキコト
六、以上各項ニ対スル代金トシテ、乙ハ右匿名組合契約第二条記載ノ資産価格即チ匿名組合資本総額ニ相当スル金額ヲ甲ニ支払ヒタリ

右契約ノ証トシテ本書式通ヲ作り甲乙各自尅通ヲ有スルモノナリ

大正貳年五月十四日

兼松商店主

兼松 馨

合資会社兼松商店

業務執行社員

北村寅之助

古立直吉

大正一（一九一三）年

三七

栗原モスリン工場トノ取引開始

栗原工場ニテハ従来輸入毛糸ヲ購入シ之レヨリモスリンヲ製織シ居リシガ、昨年暮ニ紡機ノ据付ヲ了シ、今年初ヨリハ「Jong」ヲ使用シテ紡糸ヲ自營スルニ至リシガ、東京支店ハ今其初メテウキツドン「Top」一二万ポンドノ売約ヲナシタル矢先、前田上店中大坂ニテ同工場信用上ノ悪評ヲ耳ニシ急遽帰任、工場主幸八氏ト会谈胸襟ヲ開キテ内容ノ實際ヲ聴キ悪評ノ根拠ナキヲ知りテ大意ヲ安ンジタルガ、此会谈ハ偶然ニモ両者間ノ深キ諒解ヲ作り、尔来商店ハ同工場ヨリ格別ノ信頼ヲ得テ、当營業年度内ノ売込高十萬ポンドヲ手始メニ、漸次同工場所要原料ヲ殆ンド一手ニ供給スルニ至リ、同工場ノ勢隆々トシテ次第第二其大ヲ加フルニ及ンデモ多ク渝ル所無シ

LEVER 粉末豆粕ノ一手販売引受

英国二本拠ヲ有シ世界各地ニ多数ノ工場ヲ有スル石鹼製油業者「LEVER BROS.」ハ最近尼ヶ崎ニ地ヲ相シ日本リーバー兄弟会社ヲ興シテ石鹼製造業ヲ開始シタルガ、同社ニテハ揮発油ヲ用キテ豆粕ヨリ更ラニ残油ヲ絞取スルノ事業ヲ兼営スルヲ以テ、藤井ハ同社ノ為メ其副産物タル肥料用粉末豆粕ノ販売及ビ原料豆粕ノ買次ギニ当ランコトヲ計画シ大ニ奔走尽力ノ結果、此年二月末其一手販売契約ヲ締結スルニ至リ、総勘定元帳ニ「LEVER」ナル一独立口座ヲ設ケ肥料部勘定ト並立セシメ、其経営ハ藤井指揮ノ下ニ肥料部之レニ当リ、在来ノ取扱品ト相俟チテ商店肥料取扱業ノ進展ヲ図ルコト、シタリ

肥料部ノ山陰方面發展策ト米子營業所

前項 （三） 粉末豆粕并ニ從來取扱ノ肥料販売ニ関シ、本店肥料部ハ山陰道方面ニ一大發展ヲ策シ、伯州米子町ニ於ケル予テノ取引店坂口平兵衛氏ヲ殆ンド山陰一帯ニ亘ル特約販売店ニ指定シタルガ、五月下旬同人方ニ商店肥料部ノ營業所ヲ設置シタル形式ヲ取りタルハ課税ノ關係上ヨリセル同人ノ希望ヲ容レタル表面上ノコトニ過ギズシテ實質ハ普通ノ特約店ニ止マリシモノナリ、而シテ其成蹟ハ当初ノ勢ニ似ズ後年ハ頗ル振ハザリシモ、表面上ノ營業所在置ハ六ヶ年ニ亘リ、大正八年五月初肥料部廢止手續完了ノ時ニ及ビタリ

北村ノ帰任

二月店祖ノ訃ヲ聞キ愴徨帰朝シタル北村ハ、店員ノ首席トシテ且ツハ兼松家ノ親戚格トシテ更ラニ遺言書ニ指定セラレアル執行者トシテ商店并ニ主家ニ係ル各般ノ後事処理ニ苦心ヲ重ヌルコト数ヶ月ニ亘リタルガ、遺贈ノ実行、未亡人ノ別居（継嗣夫妻ハ其相続セル諏訪山旧邸ニ止マリ、未亡人ハ住吉駅北ニ借宅シテ百ヶ日忌後之レニ移リ別居ス、猶約二年後觀音林ニ自ラ隱居所ヲ新築シ大正四年八月完成之レニ移ラル）本家隱居間ノ家什ノ区分、親戚故旧ニ対スル形見品ノ分配等モ順次進行完了シ、殊ニ一時危胎ニ瀕セシ店業ノ繼承モ幸ニ適當ノ解決ヲ告ゲテ、合資会社ノ運用モ既ニ稍其緒ニ就キタルヲ以テ、羊毛新季節開始ニ迫リ、九月中央神戶ヲ發シシドニーへ帰任シタリ〔以下略〕

廢砲払下引受計画ニ関シ藤井ノ広東出張

此頃広東獨立政府ニテ同地所在ノ旧砲台ヲ撤シ其廢砲ヲ払下ゲテ資源ヲ得ントノ計画アリ、之レニ参与セル某支那浪人ヨリ其商談ヲ大阪片岡商会ニ持込ミ来リシガ、片岡ハ新西蘭麻屑其他ノ關係ニテ商店トハ多年ノ取引關係アリ、近年ハ商店ヲ通ジテ三菱・川崎兩造船所等ノ金屬屑ノ払下ゲヲ受ケ居ル等ノ成行ヨリ、右廢砲払下ゲノ共同引受方ヲ商店ニ慫慂スルコト切ナリシカバ我本店モ亦之レニヨリテ一ト儲ケセントノ意起リ、一面同人ヲ通ジテ大坂ノ有力ナル鉄工業者久保田某ニ其引受ヲ予約シ、他面濠洲貿易ノ同業者ニシテ香港ニ支店ヲ有セル大沢商会等ト提携ノ予備交渉ヲ遂ゲ、藤井ハ久保田ノ代表者ト共二十一年月中旬發香港ニ航シ更ラニ大沢商会ノ代表者ヲ加ヘテ広東ノ現場ニ至リ調査スル所アリ、十二月中旬帰朝愈計画ハ実現ニ歩ヲ進ムベキ時期ニ到達セシモ、何分商店ノ本業トハ如何ニモ隔絶セル計画ナルノミナラズ、店租没後組織變更以來日猶

浅ク、債権銀行等ノ思惑モ深ク考慮ヲ要スル場合着手ハ望マシカラズトシテ、既ニ当局者月余ノ日□ト千数百円ノ経費ヲ投ジタル後ナリシニモ拘ラズ、店議ハ遂ニ之レヲ犠牲トシテ断然此計畫ヨリ脱退シテ関係ヲ絶チタリ

猶共同者等ハ其後モ引続キ計畫ヲ進メツ、アリシモ、久シカラズシテ広東政情ノ動揺等ノ為メ遂ニ思ハシキ結果ヲ見ルニ至ラズシテ失敗ニ帰シタルモノ、如ク、其後歐洲戦乱勃発後大沢商会ハ増田貿易会社ト共同シテ若干数量ヲ輸入販売シタル由ナリ

年末ノ臨時賞与

明治廿七年ノ初回行賞以來、店祖ハ初メノ頃ハ毎年十二月廿五日、後ニハ同廿日ヲ以テ決算期トシ、其決算後各員ノ勤勞振リニ稽ヘテ親ヲ金額ヲ按配シ、年内ニ於テ賞与金一封ヲ配与スルヲ常トシ、僅カニ非運ノ「ドン底」ニ在リシ明治三十六年末無賞与ノ一例外アル外約廿年間曾テ廢スルコト無カリシニ、今春合資会社ノ組織セラル、ヤ決算期ヲ三月末ニ改メタル為メ、当年末ニ於テハ決算ノ成蹟ヲ按シテ賞与金ヲ給与スルノ途ナキヲ以テ、歳末ニ際シ從務員私經濟上ノ不便尠ナカラザルベキヲ思ヒタル無限責任社員等ハ十二月上半會議ノ結果

一、今後準店員・等外店員・見習員以下ノ賞与金ハ決算期ニ拘ラズ毎年末ニ於テ会社ノ經費ヨリ支出給与スル事、並ニ本年ニ於テハ其総額ヲ約壹千円トシ適宜詮衡頒給スル事

二、匿名組合終末決算ニ伴フ利益処分トシテハ賞与ヲ行ハザリシ処、當時ノ相続税等ノ見積額

ニ相当ノ過剩ヲ来スベキコト確實トナリタルニツキ之レヨリ約五千円ヲ支出シ、五月十五日
現在ノ店員ニ対シ昨年末店祖親賞ノ例ニ拠リ且終末決算期間ノ勤勞ヲ参酌シテ此際賞与金ヲ
分配スルコト

ヲ決シ年末夫々之レヲ実行シタリ

大正一（一九一三）年

三五

編者紹介

天野雅敏

一九四八年 生まれ

一九七七年 神戸大学大学院経済学

研究科博士課程単位修得退学

現在 神戸大学大学院経済学研究科

教授、経済学博士（神戸大学）

主要著書

『阿波藍経済史研究―近代移行期の

産業と経済発展―』（吉川弘文館、

一九八六年、第三十回日経・経済図

書文化賞受賞）

井川一宏

一九四四年 生まれ

一九七一年 大阪大学大学院経済学

研究科博士課程中途退学

現在 神戸大学経済経営研究所教授、

経済学博士（神戸大学）、Ph.D（ジヨ

ンズ・ホプキンス大学）

主要著書

『変動相場と国際経済』（有斐閣、

一九八四年）

兼松商店史料 第Ⅱ巻

兼松資料叢書（商店史料）2

平成19年3月26日 印刷

平成19年3月26日 発行

編者 天野雅敏・井川一宏

発行所 神戸市灘区六甲台町2-1

神戸大学経済経営研究所

印刷 神戸市兵庫区西柳原町3-29

有限会社 岸本出版印刷

